北御牧中学校非構造部材耐震補強工事

記　号	図　面　名　称	記　号	図　面　名　称	記　号	図　面　名　称
Ａ－０１	改修特記仕様書１	Ａ－２１	既存 音楽ホール棟 展開図①	Ｅ－０１	電気設備工事特記仕様書
Ａ－０２	改修特記仕様書２	Ａ－２２	既存 音楽ホール棟 展開図②	Ｅ－０２	既存 屋内体育館棟 電灯設備３階平面図、照明器具姿図
Ａ－０３	改修特記仕様書３	Ａ－２３	既存 音楽ホール棟 天井伏図	Ｅ－０３	改修 屋内体育館棟 電灯設備３階平面図、照明器具姿図
Ａ－０４	改修特記仕様書４	Ａ－２４	既存 昇降口棟 ２階・３階平面図	Ｅ－０４	既存改修 昇降口棟 電灯設備２階・３階平面図
Ａ－０５	解体工事特記仕様書	Ａ－２５	既存 昇降口棟 矩計図	Ｅ－０５	既存改修 昇降口棟 自動火災報知設備２階・３階平面図
Ａ－０６	工事概要、案内図、配置図	Ａ－２６	既存 昇降口棟 展開図		
Ａ－０７	既存 全体２階平面図	Ａ－２７	既存 昇降口棟 ２階・３階天井伏図		
Ａ－０８	既存 全体３階平面図	Ａ－２８	改修 屋内体育館棟 吊下式バスケットゴール図		
Ａ－０９	既存 屋内体育館棟 ２階平面図	Ａ－２９	改修 音楽ホール棟 内装断面詳細図		
Ａ－１０	既存 屋内体育館棟 ３階平面図	Ａ－３０	改修 音楽ホール棟音楽ホール 天井落下防止ネット図		
Ａ－１１	既存 屋内体育館棟 展開図	Ａ－３１	改修 音楽ホール棟ラウンジ 天井落下防止ネット図		
Ａ－１２	既存 屋内体育館棟 ２階天井伏図	Ａ－３２	改修 昇降口棟昇降口 天井耐震補強図①		
Ａ－１３	既存 屋内体育館棟 ３階天井伏図	Ａ－３３	改修 昇降口棟昇降口 天井耐震補強図②		
Ａ－１４	既存 屋内体育館棟 吊下式バスケットゴール図				
Ａ－１５	既存 音楽ホール棟 ２階平面詳細図				
Ａ－１６	既存 音楽ホール棟 ３階平面詳細図				
Ａ－１７	既存 音楽ホール棟 ３階吹抜け部平面詳細図				
Ａ－１８	既存 音楽ホール棟 矩計詳細図①				
Ａ－１９	既存 音楽ホール棟 矩計詳細図②				
Ａ－２０	既存 音楽ホール棟 内装断面詳細図				

俊 建築設計室
Toshi Architectural Design Office

北御牧中学校非構造部材耐震補強工事　仕様書

Ⅰ 工事概要

1．工事場所　　東御市下之城947番地

2．敷地面積（㎡）　　20,053.00㎡

3．工事種目　　非構造部材耐震改修工事

建　物　別	種　別	構　造	階　数	梁間(m)	桁行(m)	建築面積(㎡)	延面積(㎡)
音楽ﾎｰﾙ･ｱﾘｰﾅ棟	中学校	S	地上4階				2,720.022
昇降口棟	中学校	S+SRC	地上2階				743.714

Ⅱ 建築改修工事仕様

1．共通仕様

（1）図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（最新年版）」（以下、「改修標仕」という。）による。
また、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新年版）」（以下、「標仕」という。）、及び「建築物解体工事共通仕様書・同解説（最新年版）」（以下、「解体共仕」）による。

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの標準仕様書を適用する。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に◯印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

（3）特記事項に記載の（．．．）内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（4）特記事項に記載の［．．．］内表示記号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（5）特記事項に記載のく．．．>内表示記号は、解体共仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項	
① 一般共通事項	① 適用基準等	・建築工事標準詳細図	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成22年版）
		・敷地調査共通仕様書	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成11年版）
		・建築鉄骨設計基準	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成10年版）
		・工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
		・公共建築改修工事標準仕様書	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成22年版）
		・公共建築工事標準仕様書	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成22年版）
		・木造建築工事標準仕様書	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成22年版）
		・建築物解体工事共通仕様書・同解説	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成18年版）
	2. 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による　［1.2.2］ ※風速（Vo＝　　） ※地表面粗度区分（　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ） ※積雪区分　建告示第1455号　別表（　　）	
	3. 電気保安技術者	※適用する　　・適用しない　（1.3.3）	
	4. 条件明示項目	（1.3.5）	
	⑤ 発生材の処理等	※別紙解体工事仕様書による　　・構外搬出適正処理　（1.3.8） また、収集・運搬・中間処理・最終処分等の処理について予め監督職員と協議すること。 ・引渡しを要するもの ・再生資源の利用を図るもの	
	6. 特別な材料の工法	改修標仕及び、標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。	
	7. 施工数量調査	調査範囲及び調査方法　　※図示　（1.5.2） 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　※図示　・　（1.5.3）	
	⑧ 技 能 士	※ 適用する（一級技能士を採用している現場である旨の表示をすること。）　（1.6.2） ・適用しない	
	⑨ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。	
	⑩ 設計GL	※図示　⊙設計GL=現状GL	

適用工事種別　技能検定作業

適用工事種別	技能検定作業
防水改修工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系シート防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系シート防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾄ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業　・左官作業　・内外装板金作業
外壁改修工事	・左官　・ﾀｲﾙ張り　・塗装（建築塗装作業）　・樹脂接着剤注入作業
建具改修工事	・建具製作　・ｻｯｼ施工　・ｶﾞﾗｽ施工　・自動ﾄﾞｱ施工
内装改修工事	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ工事作業 ⊙ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業　◯内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） ・表装（壁装作業）　◯建築大工　・ﾀｲﾙ張り　・左官
塗装改修工事	・塗装（建築塗装作業）
耐震改修工事	・鉄筋施工（鉄筋組立作業）　・型枠施工作業　⊙とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・ﾌﾞﾛｯｸ建築 ・ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ施工
石工事	・石材施工（石張り作業）
植栽工事	・造園

章	項　目	特　記　事　項
② 仮設工事	① 足場その他	内部足場　種別　※脚立、足場板等　◯枠組足場　⊙ステージング足場　・吊足場　（2.2.1） 外部足場　種別　※A種（手すり先行工法）　・B種　・C種　・D種　（2.2.1）（表2.2.1） 防護シートによる養生　※行わない　・行う 材料、搬去材料等の運搬　・A種　※B種　・C種　・D種　・E種　（2.2.1）（表2.2.1）
	② 養生	既存部分の養生　※ビニルシート等　⊙合板　t=5.5　（2.3.1） 既存家具等の養生　※ビニルシート等　・ 固定家具等の移動　※行わない　・行う（図示）
	3. 仮設開仕切	（2.3.2）（表2.3.1）

種　別	下　地	仕上材（厚さ　mm）	充てん材	塗　装
・A種	※軽量鉄骨	・合板（※9.0　・　）		※無し
・B種	・木下地	※せっこうボード（※9.5　・　）	厚さ　mm	・片面
※C種	単管下地	防炎シート		
仮設扉	※木製扉	※合板張り程度		※無し
	・鋼製扉	※片面フラッシュ程度		・有り

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	④ 監督職員事務所	※ 設ける（・既存建物の一部を使用する　※構内に設置する）　⊙設けない　（2.4.1）（表2.4.2） 規　模　※10㎡程度　・20㎡程度　・（　　）
	⑤ 工事用水	構内既存の施設　⊙・利用できる　◎有償　・無償）　※ 利用できない
	⑥ 工事用電力	構内既存の施設　⊙・利用できる　◎有償　・無償）　※ 利用できない
	1. アスファルト防水	（3.3.2）（3.3.3）（表3.1.1）（表3.3.3～表3.3.10）

防水改修工法の種類		施工箇所	新規防水層の種別
保護防水	・Ｐ１Ｂ		・Ｂ－１　※Ｂ－２
	・Ｐ１ＢＩ　・Ｔ１ＢＩ		・ＢＩ－１　※ＢＩ－２
	・Ｐ２ＡＩ		・ＡＩ－１　※ＡＩ－２
	・Ｐ２Ａ		・Ａ－１　※Ａ－２
露出防水	・Ｍ４Ｃ		・Ｃ－１　※Ｃ－２
	・Ｍ３Ｄ　・Ｐ０Ｄ		・Ｄ－１　※Ｄ－２
屋内防水	・Ｐ１Ｅ　・Ｐ２Ｅ		・Ｅ－１　※Ｅ－２ （保護層は図示による）

アスファルトの種類　※３種　・４種　（3.2.2）（3.3.2）
保護コンクリートの種類　※無筋コンクリート　（3.3.2）
二重ドレン（ＰＯＤ工法の場合）　※設けない　・設ける　（3.3.5）
脱気装置（Ｍ３Ｄ、ＰＯＤ工法の場合）　※設けない　・設ける　（3.3.3）
既存露出防水層表面の仕上げ塗装（Ｍ４Ｃ工法の場合）　・除去する　（3.2.6）
断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　※２５　・　（3.3.2）
ただし、特定フロンを含まないもの。
立上り部の保護　（3.3.2）
れんがの種類　※見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸとする。
乾式保護材の材料　※押出成形セメント板　厚さ15mm

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	2. 改質アスファルトシート防水	（3.4.2）（3.4.3）（表3.1.1）（表3.4.1～表3.4.3）

防水改修工法の種類	施工個所	新規防水層の種別	厚さ(mm)
・Ｍ４ＡＳＩ工法		・ＡＳ－１　・ＡＳ－２　・ＡＳ－３	
・Ｍ３ＡＳ工法 ・ＰＯＡＳ工法		・ＡＳ－４　・ＡＳ－５　・ＡＳ－６	
・Ｍ３ＡＳＩ工法 ・Ｍ４ＡＳＩ工法 ・ＰＯＡＳＩ工法		・ＡＳＩ－１　・ＡＳＩ－２	

脱気装置　※設けない　・設ける

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	3. 合成高分子系ルーフィングシート防水	（3.5.2）（3.5.3）（表3.1.1）（表3.5.1）

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り	使用分類
・ＰＯＳ工法 ・Ｓ４Ｓ工法 ・Ｓ３Ｓ工法		・Ｓ－Ｆ１　・Ｓ－Ｍ１ ・Ｓ－Ｆ２　・Ｓ－Ｍ２	・カラー ・シルバー	※非歩行 ・軽歩行
・Ｍ４Ｓ工法		・Ｓ－Ｍ１　・Ｓ－Ｍ２		
・ＰＯＳＩ工法 ・Ｓ３ＳＩ工法 ・Ｓ４ＳＩ工法 ・Ｍ４ＳＩ工法		・ＳＩ－Ｆ１　・ＳＩ－Ｆ２ ・ＳＩ－Ｍ１　・ＳＩ－Ｍ２ ・ＳＩ－Ｍ３		

脱気装置　・設けない　・設ける　（3.5.3）
目地処理　ＰＣコンクリートの場合（　　）　（3.5.4）

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	4. 塗膜防水	（表3.1.1）（3.6.3）（表3.6.1）

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り
・ＰＯＸ工法		※Ｘ－１	・シルバー
・Ｌ４Ｘ工法		※Ｘ－２	・カラー
・Ｐ１Ｙ工法		※Ｙ－１	
・Ｐ２Ｙ工法		※Ｙ－２	

既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（Ｌ４Ｘ工法の場合）　・除去する　（3.2.6）
脱気装置　※設けない　・設ける　（3.6.3）
（１～４についての保証）　防水工事施工者及び請負者連名の保証書（１０年）を提出のこと。

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	5. 脱気装置	（3.3.3）（3.4.3）（3.5.3）（3.5.6）

種　類	材　質	設置数量
・平面部脱気型	・ポリエチレン樹脂　・ＡＢＳ樹脂 ・ステンレス　・鋳鉄	（　） ㎡当たり１箇所
・立上がり部脱気型	・合成ゴム　・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス　・銅	（　） ㎡当たり１箇所

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	6. シーリング	（3.7.4～3.7.7）（表3.7.1）

シーリング改修工法の種類
・シーリング充てん工法　・シーリング再充てん工法
・拡幅シーリング再充てん工法　・ブリッジ工法

シーリングの種類、施工箇所　（3.7.2）（表3.7.1）
※下表以外は改修標仕表3.7.1を標準とする

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

ＰＣＢ含有シーリング調査
・１次分析（ＰＣＢ含有分析の要否判定）
工事に先立ち、工事範囲のシーリング材を各部位毎に採取し、シーリング材種についての判定を行うこと。なお、判定結果は速やかに監督職員に報告し、ＰＣＢ含有分析が必要な場合は協議する。
・２次分析（ＰＣＢ含有分析）
ＰＣＢの含有について分析を行うこと。なお、分析結果は速やかに監督職員に報告すること。
(1)採取箇所　計　箇所
(2)採取方法　分析機関の指定する方法により採取する。
(3)分析方法　ＧＣ－ＥＣＤ法による（JIS K0114）
シーリングにＰＣＢが含有していた場合の措置
(1)除去方法　改修標仕3.7.5(a)による
(2)処置方法　関係法令により適切に処理すること。また、密封できる容器に保管し、採取時期、使用部位、ＰＣＢが含有していること等を明記の上、施設管理者へ引き渡す。　（3.8.2）（表3.8.1）

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	7. とい	といの材種 ※図示による。　・硬質塩化ビニル管　・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 ・ステンレス鋼板　・表面処理鋼板　・建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管 鋼管製といの防露　・次の箇所は行わない（　　）　（3.8.3）（表3.8.4） ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外　・第三種 掃除口　※有り　・無し 縦どい受け金物の取付け　※図示　・標仕13.5.3(d)(2)による　（3.8.3）

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	8. アルミニウム製笠木	（3.9.2）（表3.9.1）

種　類	呼称肉厚（mm）	表面処理	固定間隔	備　考
・１００形		※Ａ－１又は	※固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当り部等の役物は本体製造所の仕様による
・２５０形	１．６以上	Ｂ－１種		
・３００形	１．８以上	・Ｂ－２		
・３５０形	２．０以上	（　）		

板材折曲げ形の取付工法　※図示　（3.9.3）
工法
既存笠木等の撤去　・行う（範囲　※図示　・　）
下地補修の工法　※図示
板材折曲げ形の笠木の取付方法　※図示

章	項　目	特　記　事　項
③ 防水改修工事	9. 折板葺	［13.3.2］［13.3.3］［表13.2.1］

形　式	※重ね形　・はぜ締め形　・かん合形					
形状(mm)	山高（　　）山ピッチ（　　）	板　厚	・0.6	・0.8	・0.4	
材　料	※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）					
（規格等）	・					
軒先面戸板	※有り　・無し					
断熱材	※有り（種別：　　厚さ：　　mm）　・無し					
耐火性能	※３０分耐火　・無し					

（9についての保証）
・長野県板金工業組合認定の施工図により施工したものは同組合及び請負者連名の保証書（10年）を提出すること。
・上記組合認定以外の施工図により施工したものはメーカー、屋根施工業者及び請負者連名の保証書（10年）を提出すること。

章	項　目	特　記　事　項
4-1 外壁改修工事 共通事項	1. 施工数量調査	調査範囲　※外壁改修範囲　・図示の範囲　（1.5.2） 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等調査する。 コンクリートまたは、モルタル表面のはがれ及びひび割れを壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びひび割れを壁面に表示する。 また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 調査報告書の部数　※２部　・
	2. 改修材料	・既製調合モルタル　（4.2.2）

保水率	単位容積質量	接着強さ（N／mm2）		長さ変化率	曲げ強さ
（%）	（Kg／ｌ）	標準時	温冷繰り返し後	（%）	（N／mm2）
７０．０以上	１．８０程度	０．６０以上	０．４０以上	０．２０以上	４．０以上

・パテ状エポキシ樹脂　（4.2.2）

初期硬化性（標準）	接着強さ（標準）	圧縮強さ	曲げ強さ	硬化収縮率
2.0 N／mm2以上	6.0 N／mm2以上	50.0 N／mm2以上	30.0 N／mm2以上	3.0 %以下

a.均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
b.対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。
c.常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間または製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。

・可とう性エポキシ樹脂　（4.2.2）

性　能	常温物性	低温性	加熱変化	引張接着性
引張強さ	1.0 N/mm2以上	1.0 N/mm2以上	1.0 N/mm2以上	最大引張応力　1.0 N/mm2
伸び	30.0 %以上	30.0 %以上	30.0 %以上	破断時の伸び　10 %以上

比　重	押出し性	スランプ	加熱減量
表示値±0.10	60秒以下	3mm以下	5%以下

a.均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
b.対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。
c.常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間または製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。

・タイル部分張替え用エポキシ樹脂　（4.2.2）

接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	冷熱水中繰返し	熱劣化
強度(N/mm2)	0.60 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上
凝結破壊率(%)	75 以上	50 以上	50 以上	50 以上	50 以上
皮膜物性	標準	高温	低温	アルカリ温水	熱劣化
引張強度(N/mm2)	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上
伸び(%)	30 以上	30 以上	30 以上	20 以上	20 以上

貯蔵安定性　容積と粘度に著しい変化がないこと。
耐熱性　JIS A 5548に準じた試験において、80℃で4週間、9.8Nおもりで安定していること。
a.外観は均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
b.タイル、石材、下地等を侵すものでないこと。
c.「化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律」に基づく特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
d.常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6ヶ月間保存しても上記品質性能に適合していること。
e.ずれ抵抗性があること。
f.混練終結時の確認が容易なように色が明瞭であること。

・エポキシ樹脂モルタル　（4.2.2）

接着強さ	圧縮強さ	曲げ強さ
1.0 N/mm2以上	20.0 N/mm2以上	10.0 N/mm2以上

a.こて塗りが容易で、かつ硬化後の仕上がりが良好であること。
b.均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
c.「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
d.形状に異常が無く、だれが生じないこと。
e.常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6ヶ月間保存しても上記品質性能に適合していること。

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺		日付	H27.03.25
			図面名称	改修特記仕様書１			図面番号	Ａ－０１

俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士
田中 俊章

査	閲	主任	製図

4-1 外壁改修工事 共通事項

・ポリマーセメントモルタル (4.2.2)
ポリマーセメントモルタルの種類
合成ゴム系、アクリル系、エチレン－酢ビ系等

曲げ強さ (N/mm2)	圧縮強さ (N/mm2)	接着強さ (N/mm2) 標準時	湿潤時	低温時
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上

表面状態　だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。
透水性　裏面の漏れ、水滴の付着がないこと。
均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

・ポリマーセメントスラリー (4.2.2)

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)
3以上	3%以下	0.5N/mm2以上	5.0N/mm2以上	15%以下	5.0N/mm2以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00

・吸水調整材 (4.2.2)

項目	全固形分(%)	吸水性(g)	接着強さ(N/mm2)	界面破断率(%)
品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98以上	50%以上

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

4-2 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁

1. ひび割れ部改修工法

※樹脂注入工法 (4.1.4) (4.3.4～4.3.6)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※ ・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40 ・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70 ・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	※150～250	※130 ・	

注入材料 (4.2.2)
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形）
・
検査（コア抜取り）　※行わない　・行う（抜取り部の補修方法：　）(4.3.4)

・Uカットシール材充てん工法 (4.1.4) (4.2.2) (4.3.5)

充てん材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

・シール工法 (4.1.4) (4.2.2) (4.3.6)

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂	
・可とう性エポキシ樹脂	

2. 欠損部改修工法

※充てん工法 (4.1.4) (4.2.2) (4.3.7)

シール材料	品質・規格等
・エポキシ樹脂モルタル	
・ポリマーセメントモルタル	

4-3 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁

1. 既存モルタル塗りの撤去　・行う（※全面　・図示の範囲）

2. ひび割れ部改修工法　・既存モルタル撤去工法（範囲は図示　撤去部分の補修は、3.欠損部改修工法による）

※樹脂注入工法（※既存モルタル面　・既存躯体コンクリート面） (4.1.4) (4.4.2) (4.4.5)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※ ・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40 ・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70 ・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	※150～250	※130 ・	

注入材料 (4.2.2)
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形）
・
検査（コア抜取り）　※行わない　・行う（抜取り部の補修方法：　）(4.3.4)

・Uカットシール材充てん工法 (4.1.4) (4.2.2) (4.4.6)

充てん材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

・シール工法（※既存モルタル面　・既存躯体コンクリート面） (4.1.4) (4.2.2) (4.4.7)

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂	
・可とう性エポキシ樹脂	

・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修（※シール工法の範囲　・　） (4.4.2) (4.6.3)

3. 欠損部改修工法

既存モルタル面の欠損部 (4.1.4) (4.4.8) (4.4.9)

改修工法の種類	材料	品質・規格等
・充てん工法	ポリマーセメントモルタル	
・モルタル塗替え工法	改修標仕4.2.2(g)による	塗り厚25mmを越える場合の補強 ※行う　・行わない　・図示

既製目地材　・適用する（形状　※図示　・　） (4.2.2)

4. 浮き部改修工法

(4.1.4) (4.4.10～4.4.15) (表4.4.3) (表4.4.4)

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	充てん量 注入量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25ml
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・

アンカーピン (4.2.2)
材質　※ステンレスＳＵＳ３０４、呼び径４mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピン (4.2.2)
材質　※ステンレスＳＵＳ３０４、呼び径外径６mm
・

4-4 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁

1. 既存タイル張りの撤去　・外壁タイル張り全面　・図示の範囲
撤去範囲　※下地モルタルまで　・張付けモルタルまで　・タイルのみ

2. ひび割れ部改修工法

改修箇所　※既存タイル張り面　・既存タイル撤去面（・コンクリート面　・モルタル面）
※樹脂注入工法 (4.1.4) (4.3.4) (4.5.5)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※ ・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40 ・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70 ・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	※150～250	※130 ・	

注入材料　※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024低粘度形又は中粘度形） (4.2.2)
検査(打抜取り)　※行わない　・行う(抜取り部の補修方法：　) (4.3.4)

・Uカットシール材充てん工法（既存タイル張り撤去面） (4.1.4) (4.2.2) (4.3.5) (4.5.3)

充てん材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

3. 欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法 (4.1.4) (4.2.2) (4.5.7)

接着剤の種類	品質・規格等
※ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・タイル部分張替え工法用接着剤	「建設省官民連携共同研究所報告書『有機系接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発』（建設大臣官房技術調査室監修 平成９年２月）」における「外装タイル・石張り用接着剤の品質基準（案）」に基づく品質性能試験に適合するタイプⅠであって監督職員の承諾するもの又は特記による。

・タイル張替え工法 (4.1.4) (4.5.8)
伸縮目地調整及びひび割れ誘発目地 (4.5.8) (表4.5.1)
位置　※改修標仕表4.5.1による　・図示

4. 浮き部改修工法

(4.1.4) (4.5.10～4.5.15) (表4.4.3) (表4.4.4)

改修工法の種類（タイルを撤去しない場合）	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	充てん量 注入量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25ml
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・
・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入タイル固定工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・

アンカーピン (4.2.2)
材質　※ステンレスＳＵＳ３０４、呼び径４mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピン (4.2.2)
材質　※ステンレスＳＵＳ３０４、呼び径外径６mm
・

5. 陶磁器質タイル張り

タイルの種類 (4.2.2) (4.5.7) (4.5.8)

施工箇所	形状寸法 (mm)	きじ 磁器	きじ せっ器	きじ 陶器	釉薬 無釉	釉薬 施釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	備考

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする。
タイルの見本焼き　※行わない　・行う
壁タイル張りの工法 (4.5.7) (4.5.8) (表4.5.3)
外装タイル　・密着張り　・マスク張り
タイルの試験張り　※行わない　・行う

6. 目地改修工法　・目地ひび割れ部改修工法 (4.1.4) (4.5.16)

・伸縮目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)
シーリング用材料　種類　※改修標仕表3.7.1による (3.7.2) (表3.7.1)

4-5 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁

1. 既存塗膜等の除去及び下地処理

既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 (4.6.3) (表4.6.1～表4.6.4)

工法	処理範囲	下地面の補修
※サンダー工法	※既存仕上面全体 ・	・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法 加圧力　※30MPa程度以上	※既存仕上面全体 ・	・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体 ・	
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・	

2. 下地調整材 (4.2.2) (4.6.3)
※下地調整塗材
・ポリマーセメントモルタル
・防水形仕上げ塗材主材を使用

3. 仕上げ塗材仕上げ

種類、仕上げの形状、工法 (4.1.4) (4.2.2) (表4.2.3) (表4.2.4)

種類	呼び名	仕上げの形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸模様
	・可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　※耐候形３種　・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	溶媒　※水系　・溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	樹脂　※アクリル系
	・複層塗材ＲＳ	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材ＣＥ	・メタリック
	・防水形複層塗材Ｅ	防水形の増塗材　※行う
	・防水形複層塗材ＲＥ	
	・防水形複層塗材ＲＳ	
・可とう系改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材Ｅ	・平たん状
	・可とう形改修塗材ＲＥ	・さざ波状
	・可とう形改修塗材ＣＥ	・ゆず肌状

防火材料の指定が必要な場合 (4.2.2) (15.5.2)
※建築基準法に基づく認定を受けた材料とする。

5 建具改修工事

1. 改修工法の適用 (5.1.3)

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
・アルミニウム製建具		・	・	※建具表による　・図示
・鋼製建具	・外部	・	・	※建具表による　・図示
	・内部	・	・	※建具表による　・図示
・鋼製軽量建具		・	・	※建具表による　・図示
・ステンレス製建具		・	・	※建具表による　・図示

2. 見本の製作等　・特殊な建具の仮組（建具番号：　） (5.1.5)

3. 防犯建物部品　・適用する（　） (5.1.7)

4. アルミニウム製建具

外部に面する建具 (5.2.2) (表5.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	※Ａ－３	※Ｗ－４	※７０	※図示
・Ｂ種	Ｓ－５	・	・		
・Ｃ種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	１００	

防音ドアセット　・防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
断熱ドアセット　・断熱サッシ　・適用する　断熱性の等級（　）
表面処理　※Ｂ－１　・Ｂ－２（※ｱﾉﾝ系　・ﾌﾟﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ） (5.2.4) (表5.2.2)

屋内建具
表面処理　※Ｃ－１又はＢ－１ (5.2.4) (表5.2.2)
・Ｃ－２又はＢ－２（※ｱﾉﾝ系　・ﾌﾟﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）

5. 網　戸　防虫網
網の種別　・合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316） (5.2.3)
形　式　※外部可動式　・固定式

6. 鋼製建具　簡易気密型ドアセットの適用は特記による (5.3.2) (表5.3.1)
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　・適用する (5.3.4)

7. 鋼製軽量建具　簡易気密型ドアセットの適用は特記による (5.4.2)

8. ステンレス製建具　簡易気密型ドアセットの適用は特記による (5.5.2)
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ (5.5.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強有り） (5.5.5)
特定防火設備の戸　・適用する (表5.5.1)

9. 自動ドア開閉装置　※製造所標準製作規定寸法許容差による (5.7.2) (5.7.3) (表5.7.1～表5.7.3)

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア	・マットスイッチ
・スイングドア	・電子マットスイッチ
性能　・SSLD-1	※光線スイッチ
・SSLD-2	・音波スイッチ
・DSLD-1	・熱線スイッチ
・DSLD-2	・光電スイッチ
・SWD-1	・多機能便所スイッチ
・SWD-2	・

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

10. 自閉式上吊り引き戸装置　品質規格　※改修標仕5.8.3による　・製造所標準仕様による (5.8.3) (表5.8.1)

11. 木製建具　かまち戸の樹種　かまち（　）　鏡板（　） (16.6.2)
ふすまの上張り　※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子 (表16.6.3)
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量の等級 (16.6.2)
※規制対象外　・第三種

12. 建具用金物　マスターキー　※製作する　・製作しない (5.6.4)
建具金物の種類 (5.6.2) (5.6.3) (表5.6.1) (表5.6.2)
錠前類は、シリンダー箱錠（レバーハンドル）とする。
なお、錠前類は建具製作所の指定のものとし、監督職員の承諾を受ける。
吊金物
・丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）　・ピボットヒンジ

13. ガラス　※建具表による (5.12.2)
・ガラスブロック積み（※図示）
ガラスブロック　品質JIS A5212によるもの (5.12.5)

寸法(mm)	色調 ※クリア　・熱線反射 ・乳白　・カラー（　）	パターン	防火認定 ※無し ・有り

14. ガラス留め材及び溝　ガラス留め材 (5.12.2) (表5.12.1)

建具の種類	材質
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ (5.12.3)
改修標仕5.12.3以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は、(社)日本建築学会JASS17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。

15. ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第２種	※内張り　・外張り	飛散防止率　Ｄ１

品質JIS A5759による

16. 重量シャッター (5.9.2) (表5.9.1)

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　）N/m2
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　）N/m2
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉形式　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式
危害防止機構　※障害物感知装置（自動開鎖型）　・シャッターの二段降下方式 (5.9.2)
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない (5.9.2)

17. 軽量シャッター　開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用） (5.10.2) (表5.10.1)
スラット　材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (5.10.3)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形 (5.10.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm） (表5.10.2)
耐風圧性能　（　）N/m2

18. オーバーヘッドドア (5.11.2～5.11.4) (表5.11.1) (表5.11.2)

セクション材	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形	・溶融亜鉛めっき鋼板
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	※ステンレス鋼板
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	（SUS304）
		・バーチカル形	

耐風圧性能　（　）N/m2

19. かぎ箱　市販品　形式　・30組用　・60組用　・120組用

6 内装改修工事

①改修範囲　既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 (6.1.3)
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 (6.1.3)
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 (6.1.3)
※既存のまま　・図示の範囲

2. 既存床の撤去並びに下地補修　ビニル床シート等の除去　※仕上げ材のみ（接着剤とも） (6.2.2)
・下地モルタルとも（※図示の範囲　・除去範囲全て）
合成樹脂塗り床材の除去工法　・機械的除去工法　・目荒し工法 (6.2.2)
改修後の床の清掃範囲　※改修箇所の室内　・ (6.2.2)

3. 既存壁の撤去並びに下地補修　間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 (6.3.2) (4.4.9)
※図示　・モルタル塗り（塗り厚25mmを越える場合の補強　※行う　・行わない）

4. 木下地等　木材の品質　※改修標仕6.5.2による　・市販品 (6.5.2) (表6.5.2) (表6.5.3)
間伐材等　・使用する（使用箇所　）間伐材:林地残材又は小径木であること(6.5.2) (表6.5.4)
現場搬入時の木材の含水率　※A種　・B種
樹種　※改修共仕表6.5.4による　・代用樹種を適用しない箇所（　）

5. 集成材等 (6.5.2)

種別	施工箇所	強度等級・材質の品質性能・使用環境・耐種名・規格等	間伐材等の適用
・構造用集成材		※図示	・
・構造用短板積層材		※図示	・
・造作用集成材		※図示	・
・化粧ばり造作用集成材		※図示	・

ホルムアルデヒド放散量の等級　※規制対象外　・第三種
間伐材等:間伐材、合板、製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。 (6.5.2)

6. 接着剤　接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
※木工事に使用する接着剤
ﾕﾘｱ樹脂、ﾒﾗﾐﾝ樹脂、ﾌｪﾉｰﾙ樹脂、ﾚｿﾞﾙｼﾉｰﾙ樹脂又はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系防腐剤（以下「ﾕﾘｱ樹脂等」という。）を用いた接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量の等級　※規制対象外　・第三種 (6.8.2) (6.14.2)

※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤
壁紙施工用でん粉系接着剤、ﾕﾘｱ樹脂等を用いた接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量の等級
※規制対象外　・第三種

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺		日付	H27.03.25
			図面名称	改修特記仕様書２			図面番号	Ａ－０２

俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小Ｃ 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士
田中 俊章

童	園	主任	製図

⑥ 内装改修工事

7. 防腐・防蟻処理

行う箇所（　　）
防腐処理　※行う（※図示　・　）
防蟻処理　※行う（※図示　・　）
防腐、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存（防腐、防蟻）剤は、監督職員の承諾するものとする。
クロルピリホスを含むものを添加しないこと。

8. 床板張り用合板及びその他の合板

(表6.5.11)

種　別	施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表板の樹種名・品質等級・性能等	防虫処理	その他処理	間伐材等の適用
・普通合板			※１種 ・２種	・図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防災処理	・
・天然木化粧合板			・特種 ※１種	・図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防災処理	・
・構造用合板			・１種 ・２種	・図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防災処理	・
・特殊加工化粧合板			・１種 ・２種	・図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防災処理	・

間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること

9. 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(6.6.2)(表6.6.1)
屋外（・19型　※25型）　屋内（※19型　・25型）
既存の埋込インサート　・使用する　・使用しない　(6.6.3)(6.6.4)
あと施工アンカーの引抜き試験　※行う　・行わない　(6.6.4)
※天井ふところ1.5m以上の場合は吊りボルトの補強を行う
※天井ふところ3.0mを超える場合の補強　※図示
耐震性を考慮した補強　※図示
屋外軒天井及びピロティー天井等における耐風圧性を考慮した補強　※図示

10. 軽量鉄骨壁下地

※図示　・　(6.7.3)(表6.7.1)

11. 床用塗料塗り

材料　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする

12. 防塵用塗料塗り

材料　水性アクリル系塗料（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする

13. ビニル床シート張り

(6.8.2)

種　類	JISの記号	色　柄	厚さ(mm)
※発泡層のないもの	※ＮＣ　・	※無地　・マーブル柄	※2.5
・発泡層のあるもの		※柄物　・無地	
・			

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　）　(6.8.3)

14. ビニル床タイル張り

(6.8.2)

種　類	JISの記号	厚さ(mm)	備　考
※コンポジションビニル床タイル(半硬質)	ＣＴ	※2	
・コンポジションビニル床タイル(軟質)	ＣＴＳ	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	ＨＴ	・	

15. 帯電防止床タイル張り

(6.8.2)

種　類	厚さ(mm)	性　能
・コンポジションビニル床タイル	※2　・	体積抵抗値(JIS K 6911による)
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	$1.0\times10^{9}\Omega$以下、または、
・	・	漏えい抵抗値(JIS A 1454による)
		$\times10^{10}\Omega$未満

16. 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンはJIS T 9251による　(6.8.2)
色彩は黄色を原則とする
屋　内　※塩化ビニル製　・磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）
・レジンコンクリート製
屋　外　※レジンコンクリート製　・磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）

17. ビニル幅木

高さ（mm）　・60　・75　・100　(6.8.2)

18. 合成樹脂塗床

(6.10.3)(表6.10.3～表6.10.7)

種　別	仕　上　げ　の　種　類
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材	※薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量の等級
※規制対象外　・第三種

19. フローリング張り

(6.11.2～6.11.7)(表6.11.1～表6.11.4)

種　別	材　種	工　法	仕上げ塗装等	備　考
※天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	※なら	※釘どめ工法(Ｃ種)	※塗装品	
・単層フローリング	・ひのき	・	・無塗装品	
	・	・	・	
	・	・	・	

ホルムアルデヒド放散量の等級　※規制対象外　・第三種

20. 畳敷き

(6.12.2)(6.12.3)(表6.12.1)

下　地　の　種　類	畳　の　種　別
改修標仕表6.5.9による床組	・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種（　）
ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)	※Ｃ種　・Ｄ種（　）

畳表及び畳床は揮発生有機化合物含有量が少ないものとする

21. ｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地材

ノンフロンのもの
畳下地　厚さ(mm)　※40　・65　・80　(不燃)
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ類　厚さ(mm)　※80　・95　(不燃)

22. カーペット敷き

・織じゅうたん　(6.9.2)(6.9.3)(表6.9.1)(表6.9.2)

種　別	パイル形状	色　柄	備　考
・Ａ種	・カットパイル	※単一色（無地）	
・Ｂ種	・ループパイル	・柄物（標準品）	
・Ｃ種	・カット、ループパイル併用	・	

帯電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タフテッドカーペット　(6.9.2)(6.9.3)(表6.9.2)

パイル形状	パイル長（mm）	工　法	備　考
・カットパイル	※５～７　・	※全面接着工法	
・ループパイル	※４～６　・	・グリッパー工法	
・カット、ループ併用			

帯電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タイルカーペット　(6.9.2)(6.9.3)(表6.9.2)

パイル形状	種　類	種　類	総厚さ(mm)	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル				
・カット、ループ併用				

帯電性　※人体帯電圧3kV以下（ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ敷設範囲）

㉓ せっこうボードその他ボード張り

(6.13.2)(表6.13.1)

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板	NF	・15　・20　・25　・
・けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ２（無石綿）　・６　・８
・ロックウール化粧吸音板（内部用）	DR	※フラットタイプ（※9(不燃)　・12　・　） ・凹凸タイプ（※12(不燃)　・15　・19　・　）
・ロックウール化粧吸音板（外部用）		※フラットタイプ（※9(不燃)　・12　・　） ・凹凸タイプ（※12(不燃)　・15　・19　・　）
㊀せっこうボード	GB-R	㊀9.5（不燃）　㊀12.5（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）　化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5（不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃）　・15.0（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード	GB-D	9.5（不燃）
・化粧せっこうボード（木目）		12.5（不燃）　幅440程度 模様（※柾目　・板目）専用下地材付き
・普通合板（難燃処理）		・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度）
・メラミン樹脂化粧板	—	JIS K6903による　厚さ1.2
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	MDF	・3　・7　・9　・12
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板VN　・研磨板VS ・10　・12　・15　・18
・ハードボード（素地）	HB	・素地　・RN-HB　・RS-HB ・2.5　・3.5　・5　・7
・インシュレーションボード	IB	・T-IB　・A-IB　・S-IB ・9　・12　・15　・18

合板類、繊維板及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量の等級
※規制対象外　・第三種

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材　[19.7.2][表9.6.1]
※適用する（・シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
・適用しない

24. 吸音材

(表6.13.1)

種　類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード１号	RW-B	※25　・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	※25　・

㉕ 壁紙張り

(6.14.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	備考
	紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質		
音楽ホール			●			※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	

素地こしらえ　(6.14.3)(表7.2.4)(表7.2.7)
モルタル、プラスター面　※ＲＢ種　・ＲＡ種（施工箇所：　）
せっこうボード面　※ＲＢ種　・ＲＡ種（施工箇所：　）
壁紙のホルムアルデヒド放散量の等級
※規制対象外　・第三種

26. モルタル塗り材料

吸水調整材　(6.15.3)

全固形分(%)	吸水量(g)	接着強度(N/mm2)	界面破断率(%)
表示値±1.0	30分でIg以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤）
防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤（JIS A1404による試験）

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下 294.0KPa/h

膨張性のひび割れ及びそりがないこと。JIS R5201の試験9
既製目地材　※適用しない　・適用する

27. 陶磁器質タイル張り

タイルの種類　(6.16.3)

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ			釉薬		役物		色		備考
		磁器	せっ器	陶器	無釉	施釉	有	無	標準	特注	

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※ 外壁タイル　・　）
内壁タイル　※壁タイル接着剤張り　・積上げ張り

28. 断熱材

[19.9.2][19.9.3]

種　類		施工箇所	厚さ(mm)	品質等
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板	※２種ｂ	※一般部　・	※25　・	ノンフロンのもの
	※３種ｂ（ｽﾁﾚﾝ層付）	・接地部分　・	※25　・	ノンフロンのもの
・現場発泡断熱材	※Ａ種１	※断熱材補修部分	—	ノンフロンのもの
		・一般部　・	※15　・	※難燃性

ﾛｯｸｳｰﾙ、ｸﾞﾗｽｳｰﾙ、ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ、ユリア樹脂又はﾒﾗﾐﾝ樹脂を使用した断熱材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量の等級
※規制対象外　・第三種

29. 浴室天井材

市販品

材　質	表面仕上げ	性能	幅(mm)	備　考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※200	回り縁は縞付とし、製造所の標準品とする。
	・アルマイト処理品		・100	
・硬質塩ビ製	※塗装品		※300	
	・木目調		・100	

30. ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ

[20.2.2]

施工箇所	構　法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材
	・ﾊﾟﾈﾙ構法		・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル
	・溝構法		・0.6G	・5,000N	・タイルカーペット
	・ﾊﾟﾈﾙ構法		・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル
	・溝構法		・0.6G	・5,000N	・タイルカーペット

耐震性能5000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の建設技術評価において評価を取得したものは同等とする。
表面仕上げ材の品質・規格等は、各内容工事による
スロープ及びボーダー　※製造所の標準仕様　・図示
コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル　配線用取り出し開口：パネル１枚につき40mm×80mm程度の開口１ヶ所以上
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
※20～30パーセント　・
空調用吹き出しパネル　※無し　・有り（※固定式　・可変式：施工箇所は図示）

31. 可動間仕切

[20.2.3]

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・	※鋼板 (※0.6　・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・あり （　） ・なし	・あり ・なし

32. 移動式間仕切

[20.2.4]

遮音性能による区分	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ（36dB以上）		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は23.壁紙張りによる
遮音性能はJIS A 6512の遮音試験に準拠する

33. トイレブース

表面仕上げ材　※メラミン樹脂系化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付き）　[20.2.5]
・ポリエステル樹脂系化粧板
足形状　※幅木型　・足金物型

34. 階段滑止め

材　種　ステンレスSUS304　[20.2.6]
形　状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※有り（・ステンレス製　※ビニル製）　・無し
幅(mm)　約35
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

35. 階段手すり

種　別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ （市販品　径　約45mm）	
・ビニル製ハンドレール（幅　約50mm）	

36. 黒板及びホワイトボード

[20.2.8]

種　類		寸法(mm)	色　彩	備　考
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	※平面　・曲面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け
			※緑　・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白	※平面　・曲面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け

37. 表示

衝突防止表示　※図示（市販品　※ステンレス製　径約30mm　・　）　[20.2.10]
（・両面　・片面　）
・無し
表示標識　案内用図記号についてはJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

38. ブラインド

・既存再使用する（養生方法：　）　(2.3.1)(5.1.6)
・新設する　[20.2.12]

形　式	種　類	スラットの材種	スラットの幅（mm）
※横型	※ギア式　・コード式 操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・
・縦型	・１本操作コード式 ※２本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

39. ロールスクリーン

防炎性能　※有り　[20.2.13]

施工箇所	装　置		性　能	備　考
	電動	手引	（防炎性能）	

40. カーテン

・既存再使用する（養生方法：　）　(2.3.1)(5.1.6)
・新設する　[20.2.14]

施工箇所	形　式			装　置			名称品質	ひだの種類
	片　引	引　分		電　動	ひも引	手　引		

41. カーテンレール

・既存再使用する　(5.1.6)
・新設する　[20.2.14]
材種　※アルミニウム製　・ステンレス製
形式　・片引き　・引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

42. ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ

・既存再使用する　(5.1.6)
・新設する
※市販品（アルミニウム製　押出し型材）
溝幅×深さ(mm)　・90×150　※120×80　・120×150　・150×80
色彩　※B-1　・B-2（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
・図示

43. 天井点検口

材質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）

44. 床点検口

材質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）

45. 鋼製書架及び物品棚

種　類	規　格　等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S1039の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種

46. くつふきマット

市販品　材質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）
・ビニル製（ステンレス製受枠）
・硬質アルミニウム製（受枠共）
・ステンレス製（受枠共）

47. 流し台ユニット

種　類	寸法(L= mm)	適用内容	規格・品質
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品
・コンロ台	※　600　・　700　・	バックガード　※有り	（セクショナルキッチンⅠ型）
・つり戸棚	※1200　・　900　・　600		・
・水切り棚	※1200　・　900　・	ステンレス製　※１段式	※市販品

48. 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

49. 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石（仕様　※図示）
奥行き(mm)　・約450　・約600

50. 収納家具

材質　・　[12.2.2][19.7.2]
形状・寸法　※図示　・
合板類、MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量の等級
※規制対象外　・第三種

51. 防煙垂れ壁

・固定式

材　質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備　考
※網入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付
・線入り磨板ガラス	・	・	

・可動式

種　類	材　質	高さ(mm)	備　考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

備考	訂　正	内　容

工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事
図面名称	改修特記仕様書３
縮尺	

俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録　第307529号
管理建築士
田中 俊章

査閲	主任	製図

日付	H27.03.25
図面番号	Ａ－０３

⑦ 塗装改修工事

① 材料

屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　　・ 第三種

② 下地調整

[7.2.2～7][表 7.2.1～7]

下地面の種類	下地調整の種別	備　考
木部	・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種	
鉄鋼面	・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種	
亜鉛めっき面	・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種	
亜鉛めっき面（鋼製建具）	※ ＲＢ種 ・ ＲＣ種	
モルタル、プラスター面	・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種	
コンクリート、ＡＬＣパネル面	・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種	（2-UE）、（2-ASE）及び（2-FUE）は除く

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修　　[表 7.2.4～6]
※ 行わない ・ 行う（補修範囲及び補修方法は図示）

③ 塗装塗り

[7.4.2～7.15.2][表7.4.1～7.15.1]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部（外部）	※Ｂ種 [7.4.3]	※Ａ種 [7.4.3]
	木部（内部）	※Ｂ種 [7.4.3]	※Ｂ種 [7.4.3]
	鉄鋼面	※Ｂ種 [7.4.4]	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.4.4]
	亜鉛めっき鋼面	※Ｂ種 [7.4.5]	※Ｂ種 [7.4.5]
	鋼製建具	※Ａ種 [7.4.5]	※Ｂ種 [7.4.5]
・フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)	屋内木部	[7.6.2]	
	鉄鋼面	[7.6.3]	
	亜鉛めっき鋼面	[7.6.3]	
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)	屋内のコンクリート面・モルタル面	※Ａ種 [7.7.2]	※Ｂ種 (18.6.2)
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面 上塗り ・１級(ふっ素樹脂塗料) ・２級(ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料) ・３級(ｶﾞﾗｳﾚﾀﾝ樹脂塗料)	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 [7.8.2]	※Ａ種 [7.8.2]
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・１級(ふっ素樹脂塗料) ・２級(ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料) ・３級(ｶﾞﾗｳﾚﾀﾝ樹脂塗料)	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 [7.8.3]	※Ａ種 [7.8.3]
	コンクリート面	・Ａ－１種 ・Ａ－２種 ・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種 ・Ｃ－１種 ・Ｃ－２種 [7.8.4]	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (18.7.4)
	押出成形セメント板面	・Ａ－１種 ・Ａ－２種 ・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種 ・Ｃ－１種 ・Ｃ－２種 [7.8.4]	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (18.7.4)
・つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G)	屋内木部	※Ｂ種 [7.9.3]	※Ａ種 [7.9.3]
	屋内鉄鋼面	※Ｂ種 [7.9.4]	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.9.4]
	屋内亜鉛めっき鋼面	※Ｂ種 [7.9.5]	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.9.5]
	コンクリート面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.9.2]	・Ｂ種 [7.9.2]
	モルタル面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.9.2]	・Ｂ種 [7.9.2]
	プラスター面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.9.2]	・Ｂ種 [7.9.2]
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.9.2]	・Ｂ種 [7.9.2]
・合成樹脂ｴﾏﾙｼﾞｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP)	塗装面	※Ｂ種 [7.10.2]	・Ａ種 ・Ｂ種 [7.10.2]
	コンクリート面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.10.2]	・Ｂ種 [7.10.2]
	モルタル面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.10.2]	・Ｂ種 [7.10.2]
	プラスター面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.10.2]	・Ｂ種 [7.10.2]
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・Ａ種 [7.10.2]	・Ｂ種 [7.10.2]
・合成樹脂ｴﾏﾙｼﾞｮﾝ模様塗料塗り (EP-T)	屋内コンクリート面・モルタル面 プラスター面・せっこうボード面の一般部等	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.11.2]	・Ａ種・Ｂ種 [7.11.2]
・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	木部	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.12.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.12.2]
・クリアラッカー塗り (CL)	木部	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.5.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.5.2]
・オイルステイン塗り(OS)		[7.13.2]	[7.13.2]
・木材保護塗料塗り(WP)	木部	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.14.2]	・Ａ種 ※Ｂ種 [7.14.2]

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別　※１種　　[7.4.2]

9 環境配慮改修工事

1 アスベスト含有分析調査

分析によるアスベスト含有建材の調査　　[9.1.1]
・ 行う（下表による）

材料名	調査方法（１材料あたりの試料数：3サンプル）
	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析
	※ 定性分析 ・定量分析

採取箇所　※ 図示

分析対象
※ アスベスト ６ 種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト）

分析方法
※ JIS A 1481 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による

分析結果については、監督職員に提出すること。

2 ｱｽﾍﾞｽﾄ粉じん濃度測定

アスベスト粉じん濃度測定　　[9.1.1]
・ 行う（測定名称及び測定点は下表による）
測定箇所　※ 図示

測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	備　考
・ 測定 1	処理作業前	処理作業室内	各　点	―
・ 測定 2		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	―
・ 測定 3	処理作業中	処理作業室内	各　点	―
・ 測定 4		ｾｷｭﾘﾃｨｰﾊﾞｰｼﾞ入口	各　点	空気の流れを確認
・ 測定 5		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各　点	除じん装置の性能確認
・ 測定 6		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	―
・ 測定 7	処理作業後(ｼｰﾄ養生中)	処理作業室内	各　点	―
・ 測定 8		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	―
・ 測定 9	処理作業後ｼｰﾄ撤去後1週間以降	処理作業室内	各　点	―
・ 測定 10		調査対象室外部の付近	計　点	―

アスベスト粉じん濃度測定方法
アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第１部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定 3	測定 1,2,4,6,7,8,9,10	測定 5
計数機器	位相差顕微鏡		
ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径	25 mm		47 mm
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min
試料の透明化	アセトンシートリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野		
計数アスベスト	直径 3m 未満、長さ 5μm 以上、長さと直径比 3:1 以上		
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l

報告書の作成（記録する項目）
ア、測定結果
イ、測定時間
ウ、測定位置（測定高さとともに図面上に記載する。）
エ、サンプリング条件（ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀ直径、吸引時間、吸引空気量）
オ、マウンティング方法
カ、顕微鏡視野面積、計数視野数
キ、測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

3 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有の除去（レベル1）

ｱｽﾍﾞｽﾄ含有吹付け材アスベスト含有吹付け材の除去　　[9.1.3]
・ 行う　除去方法は 9.1.3 による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。

除去物及び汚染物質等
処理方法
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化

4 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有保温材等の除去（レベル 2）

アスベスト含有保温材の除去　　[9.1.4]
・ 行う
作業上の隔離
・ 行う
・ 行わない

5 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有成形板の除去（レベル 3）

ｱｽﾍﾞｽﾄ含有成形板アスベスト含有成形板の除去　　[9.1.5]
・ 行う

6 外断熱改修工事

断熱材の種類　　[9.3.2]

材料名	厚さ(mm)
・ビーズ法ポリスチレンフォーム　（ノンフロン G）	
・押出法ポリスチレンフォームＡ種　（ノンフロン G）	
・硬質ウレタンフォーム　（ノンフロン G）　・フェノールフォーム	
・ロックウール　・グラスウール	

外装材の種類　　[9.3.2]

・	防火性能	

既存外壁の仕上材の撤去　・有り　・なし　　[9.3.3]
下地面の清掃及び下地調整　※断熱材製造所の指定する仕様
・
通気層　・有り（　mm ）　・なし　　[9.3.4]
試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
特記無き事項は、製造所の仕様による。

7 ガラス改修工事

複層ガラスの厚さ　建具表による　　[9.4.2]
断熱性・日射遮へい性による区分　※ U3-1 ・ U3-2

8 屋上緑化改修工事

G 植栽基盤及び材料　　[9.6.1]
※屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示
見切材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示

9 透水性アスファルト舗装改修工事 G

路盤材料　　[9.7.4][表9.7.5]
※再生クラッシャラン（ＲＣ－４０） G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０） G
・クラッシャラン（Ｃ－４０）
透水性の高いものを使用する
路盤の締固め度試験　※行わない
遮断層及び凍上抑制層の材料　　[9.7.3]
・遮断層　※川砂、海砂又良質な山砂　厚さは図示
・凍上抑制層　※再生クラッシャラン G・クラッシャラン　切り込み砂利　・砂　厚さは図示
盛り土に用いる材料　　[9.7.3][表9.7.1]
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G
路床安定処理
※添加材料による安定処理　　[9.7.3][表9.7.3]
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種 G
・高炉セメントＢ種 G
・生石灰（　）　・消石灰（　）
添加量　kg/m³　目標CBR　※５以上　・　）
路床土の支持力比試験　※行う（※乱した土　・乱さない土）
路床締固め度の試験　※行う
砂の粒度試験　※行う
透水性アスファルト混合物　　[9.7.6][表9.7.7]
車道部　※ポリマー改質アスファルトⅠ型
歩道部　※ストレートアスファルト
透水性アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　　[9.7.9]

10 PCB含有シーリング材処分

・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数　計　箇所
採取箇所　※図示

・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析個数　計　箇所

・除去処理工事
除去範囲　※図示
撤去方法　・「標準施工要領書（日本シーリング工事業共同組合連合会／日本シーリング材工業会）による

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	
			図面名称	改修特記仕様書４		

俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録　第307529号
管理建築士
田中 俊章

審	閲	主	任	製	図

日付　H27.03.25
図面番号　Ａ－０４

北御牧中学校非構造部材耐震補強工事　解体工事仕様書

Ⅰ 解体工事概要

1. 工事場所　　東御市下之城947番地

2. 敷地面積（㎡）　　17,326.51㎡

3. 除却対象物　　⊙建築物　・工作物　⊙建築設備　・家具等　・樹木　・その他

除却対象建築物等	構　造	階　数	梁間（m）	桁行（m）	建築面積（㎡）	延 面 積（㎡）
音楽ﾎｰﾙ･ｱﾘｰﾅ棟　　壁	S	4				2,720.022
昇降口棟　　天井	S×SRC	2				743.714

Ⅱ 解体工事仕様

1．共通仕様

（1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書（最新年版）」(以下、「解体共仕」という。)により、解体共仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）(最新年版)」(以下「標仕」という。)及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）(最新年版)」(以下、「改修標仕」という。)による。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。

⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

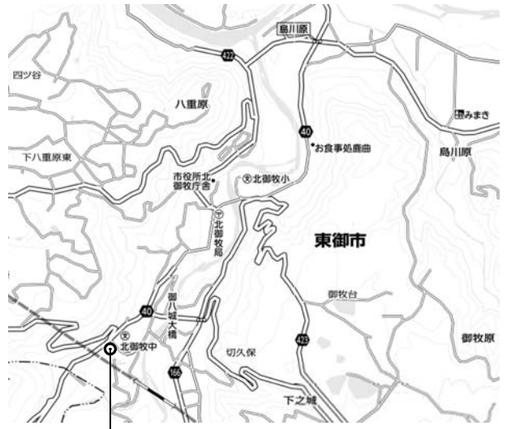
（3）特記事項に記載の（．．．）内の表示番号は、解体共仕の当該項目を示す。

章項	目	特記事項	
① 一般共通事項	① 適用基準等	⊙工事写真の撮り方（改訂第三版）建築編	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
		⊙建築物解体工事共通仕様書・同解説	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成18年版）
		⊙公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成22年版）
		⊙建設副産物適正処理推進要綱(以下「推進要綱」という。)	平成10年12月1日建設省経建発第333号
		⊙建設工事公衆災害防止対策要綱　建築工事編	平成5年1月12日建設省経建発第1号
		⊙長野県建設リサイクル推進指針	
	2 電気保安技術者	※適用する　・適用しない	(1.3.3)
	3 施工条件明示項目	・	(1.3.5)
	4 引渡しを要するもの	※引渡しを要するもの	(1.3.10)
		名　称 / 仕　様　等 / 備　考	
		・現場説明書による	
	5 解体工事施工技士	本工事を適切に施工管理するため、解体工事施工技士の選任等に配慮すること。	
② 仮設工	① 足場その他	足場を設ける場合、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省平成２１年４月）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。 なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（2）手すり据置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。	
	2 騒音・粉塵等の対策	騒音・粉塵等の対策	(2.2.1)
		※防音パネル　・防音シート	
		設置範囲及び高さ	
		※（図示　／　図による）	
	③ 監督員事務所	・ 既存建物内の一部を使用する　・ 構内に設置する　⊙設けない	(2.3.1)
		規模及び仕上げの程度は現場説明書による	
	④ 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）	
	⑤ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）	
③ 解体施工	1 杭の解体	・行う　・行わない	(3.8.2)
		杭の解体工法	
		・引抜き工法　・破砕による解体	
	2 樹木等	樹木の伐採伐根及び移植	(3.9.1)
		・行う（　／　図による）	
	3 地下埋設物・埋設配管	地下埋設物及び埋設配管の解体	(3.10.1)
		・行う（　／　図による）	
	4 設備機器等	解体事前処理（油類タンク）	
		・解体に先立ち、燃料配管、燃料槽、燃料小出槽等に残油がないことを確認する。必要に応じて残油を抜き取り、燃料を土壌に流失させないように注意する。	
		・燃料槽、燃料小出槽は、洗浄のうえ中和処理を行う。	
		解体事前処理（冷媒）	
		・冷媒を屋外機にポンプダウンした後撤去を行う機器は下記による。	
		図面番号記　号	
		・冷媒を回収した後撤去を行う機器は下記による。	
		図面番号記　号	
	5 屋外設備等	電柱の撤去　・行う（　／　図による）　・行わない	
		外灯の撤去　・行う（　／　図による）　・行わない	
	6 解体後の整地	解体後の埋戻し及び盛土	(3.11.1)
		・行う	
		整地高さ	
		・現状ＧＬ　・行う（　／　図による）	
		埋戻し及び盛土の材料	
		・山砂の類　・他現場の建設発生土の中の良質土　・再生コンクリート砂	
		埋戻し及び盛土に当たっては、各層30cm程度毎に締め固めること。	
		・行わない	
④ 建設廃棄物の処理	1 一般事項	本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該システムにデータ入力を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を工事完了時に同計画書の実施報告書（書式は同一）を作成し、監督職員に提出するものとする。	
	② 再資源化等	建設廃棄物の種類 / 備　考	(4.4.1)
		・コンクリート	
		・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄からなる建設　資材（PC板、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板、ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品）	
		・木材	
		・木材（縮減）	
		・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	
		⊙金属類	
		⊙廃石膏ボード	
		⊙廃石膏ボードを含む混合物	
		⊙蛍光ランプ、HIDランプ	
		・硬質塩化ビニル管、継手	
		⊙グラスウール	
		※中間処理施設又は再資源化施設等の名称、所在地は現場説明書による	
	3 現場利用する再資源化された建設廃棄物	名　称 / 仕　様 / 数量 / 備　考	(4.4.1)
	4 産業廃棄物広域認定制度の活用	種　類 / 備　考	(4.4.2)
		※所在地は現場説明書による	
	5 最終処分する建設廃棄物	名　称 / 仕　様 / 数量 / 備　考	(4.4.4)
		※最終処分施設の名称、所在地は現場説明書による	
	6 処理に注意を要する建設廃棄物	名　称 / 仕　様 / 数量 / 備　考	(4.5.1)
		※最終処分施設の名称、所在地は現場説明書による	
⑤ 特別管理産業廃棄物等の処理等	施工調査	分別調査を行う特別管理産業廃棄物等の種類 / 採取する部位又は箇所等 / 採取する数量 / 備　考	(5.1.1)
		・図示 ・　箇所	
		・図示 ・　箇所	
		・図示 ・　箇所	
		・図示 ・　箇所	
		PCB 含有シーリング分析調査	(5.4.4)
		・第一次判定	
		現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。	
		・第二次判定	
		専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。	
		・絶縁油のPCB含有量の分析は、「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検討方法（平成4年7月3日厚生省告示第192号）」又は「絶縁油中のポリ塩化ビフェニルの分析方法規定（電気技術規定JEAC1201-1991）」により行う。	
		・焼却炉のダイオキシン類汚染物質の調査は、「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱（平成13年4月25日付基発第401号）」により行う。	
	2特別管理産業廃棄物の処理	特別管理産業廃棄物仕様の種類 / 様 / 数量 / 備　考	(4.4.1)
		※処理施設の名称、所在地は現場説明書による	
	3PCBを含む機器類	引渡しを要する機器類	(5.4.3)
		・	
	4PCB含有ｼｰﾘﾝｸﾞ材	撤去方法	
		・「標準施工要領書（日本ｼｰﾘﾝｸﾞ工事業協同組合連合会／日本ｼｰﾘﾝｸﾞ材工業会）」による。	
		・	
		撤去範囲	
		※（図示　／　図による）	
	5 特殊な建設副産物の改修及び処分	回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類 / 対象機器名称 / 備　考	(5.5.1)
		※回収業者又は処分場の名称、保管場所・処分場の名称は現場説明書による	
⑥ アスベスト含有建材の除去等	1 アスベスト含有分析調査	分析によるアスベスト含有建材の調査	(6.1.3)
		・ 行う（下表による）	
		材　料　名 / 調査方法（１材料あたりの試料数：3サンプル）	
		※ 定性分析　・定量分析	
		※ 定性分析　・定量分析	
		※ 定性分析　・定量分析	
		※ 定性分析　・定量分析	
		採取箇所　※　図示	
		分析対象	
		※ アスベスト ６ 種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフライト、トレモライト）	
		分析方法	
		※ JIS A 1481 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による	
		分析結果については、監督職員に提出すること。	
	2 ｱｽﾍﾞｽﾄ粉じん濃度測定	アスベスト粉じん濃度測定	(6.1.4)
		・行う（測定名称及び測定点は下表による）	
		アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K3850-1 空気中の繊維状粉子測定方法－第１部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。	
		測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。	
		測定箇所　※図示	
		測定名称 / 測定時期 / 測定場所 / 測定点（各施工箇所ごと） / 備　考	
		・ 測定 1 / 処理作業前 / 処理作業室内 / 各　点 / －	
		・ 測定 2 / 処理作業前 / 施工区画周辺又は敷地境界 / 計　点 / －	
		・ 測定 3 / 処理作業中 / 処理作業室内 / 各　点 / －	
		・ 測定 4 / 処理作業中 / ｾｷｭﾘﾃｨｰﾌﾞｰｽ入口 / 各　点 / 空気の流れを確認	
		・ 測定 5 / 処理作業中 / 負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合） / 各　点 / 除じん装置の性能確認	
		・ 測定 6 / 処理作業中 / 施工区画周辺又は敷地境界 / 計　点 / －	
		・ 測定 7 / 処理作業後（ｼｰﾄ養生中） / 処理作業室内 / 各　点 / －	
		・ 測定 8 / 処理作業後（ｼｰﾄ養生中） / 施工区画周辺又は敷地境界 / 計　点 / －	
		・ 測定 9 / 処理作業後ｼｰﾄ撤去後1週間以降 / 処理作業室内 / 各　点 / －	
		・ 測定 10 / 処理作業後ｼｰﾄ撤去後1週間以降 / 調査対象室外部の付近 / 計　点 / －	
		アスベスト粉じん濃度測定方法	
		測定3測定1,2,4,6,7,8,9,10 / 測定5	
		計数機器：位相差顕微鏡	
		ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径：25mm / 47mm	
		試料の吸引流量：1 l/min / 5 l/min / 10 l/min	
		試料の吸引時間：5min / 120min / 240min	
		試料の透明化：アセトントリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法	
		計数条件：総アスベスト繊維数200本又は視野数50視野	
		計数アスベスト直径3μm未満、長さ5m以上、長さと直径比3:1以上	
		50 f/l / 0.5 f/l / 0.3 f/l	
⑦ その他	①工事現場の環境改善について	工事現場のイメージアップ	
		⊙仮囲い周辺の美化　・	
		地域住民への情報提供	
		⊙情報掲示板の設置　・パンフレットの作成	
		住民に対する災害防止関係	
		⊙現場出入口周辺への誘導員の配備　・	
	②産業廃棄物の取扱いについて	産業廃棄物処理状況記録及び写真を次のように整備すること。	
		（ｉ）搬出された産業廃棄物の処理状況記録	
		①　処理の全部又は一部を委託した場合	
		ア　収集運搬車両ごとの産業廃棄物管理票（以下「ﾏﾆｭﾌｪｽﾄ」という。）A票、B2票、D票及びE票(建Ⅱの場合はB4票を加える。)の写し、建設廃棄物処理委託契約書の写し並びに搬出解体材の数量集計表	
		イ　最終処分場の案内図及び処分状況の写真（中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真）	
		②　請負者が自ら処理した場合	
		ア　ﾏﾆｭﾌｪｽﾄに準じた解体材の種類ごとの数量集計表	
		イ　最終処分場の案内図及び処分状況の写真（中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真）	
		③　特別管理産業廃棄物の場合	
		①又は②に準ずる。ただし産業廃棄物管理票とあるを特別管理産業廃棄物管理票と読み替える。	
		（ⅱ）産業廃棄物の再資源化実施状況記録	
		再生資源利用促進実施書に記載する事項	
		発生量、搬出先名称、区分、施工条件の内容、搬出先名称、運搬距離、搬出先の種類等	
		（ⅲ）写真	
		①　工事着手前の現場全景、周辺及び対象建築物等の現況写真	
		②　仮設物、安全措置状況及び工程写真（除却作業状況、埋設配管等及び基礎類は入念に撮影すること。）	
		③　使用機械類	
		④　産業廃棄物収集運搬車両への積込み時及び積降し時の写真	
		⑤　しゅん工時の全景写真（着手時と同一アングルとする。）	
		⑥　その他監督職員の指示による	
	3.騒音、振動調査調査の有無	※無　・有	
		調査方法については設計図書による。	
	4.土壌調査	調査項目　・土壌調査　・土壌調査（含有量試験）　・ﾊﾙﾏﾍｷｻﾝ抽出調査　・廃棄物含有調査	
		土壌汚染に係る環境基準に準拠すること。	
		調査箇所については設計図書による。	
	5.官公庁その他への届出手続等	(1)工事の着手、施工、完成にあたり、関係機関への必要な手続等を遅延なく行う。	
		(2)前項に規定する届出手続等を行うにあたっては、届出内容についてあらかじめ監督職員に報告する。	
	⑥疑義に関する協議等	設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で、設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、監督職員と協議する。	
	7.文化財その他の埋蔵物	工事の施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督職員に報告する。その後の措置については、監督職員の指示に従う。また、当該埋蔵物の発見者としての権利は、法律の定めるところにより、発注者が保有する。	
	8.埋蔵文化財調査	「周知の埋蔵文化財包蔵地」の該当　・該当する　・該当しない	
		掘削作業時の教育委員会等の立会い　・有　・無	
		埋蔵文化財調査の時期　・解体工事終了後　・解体工事中	

備考	訂　正	内　容						
			工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺		童	開 主 任 製 図
			図面名称	解体工事特記仕様書			日付	H27.03.25
							図面番号	Ａ－０５

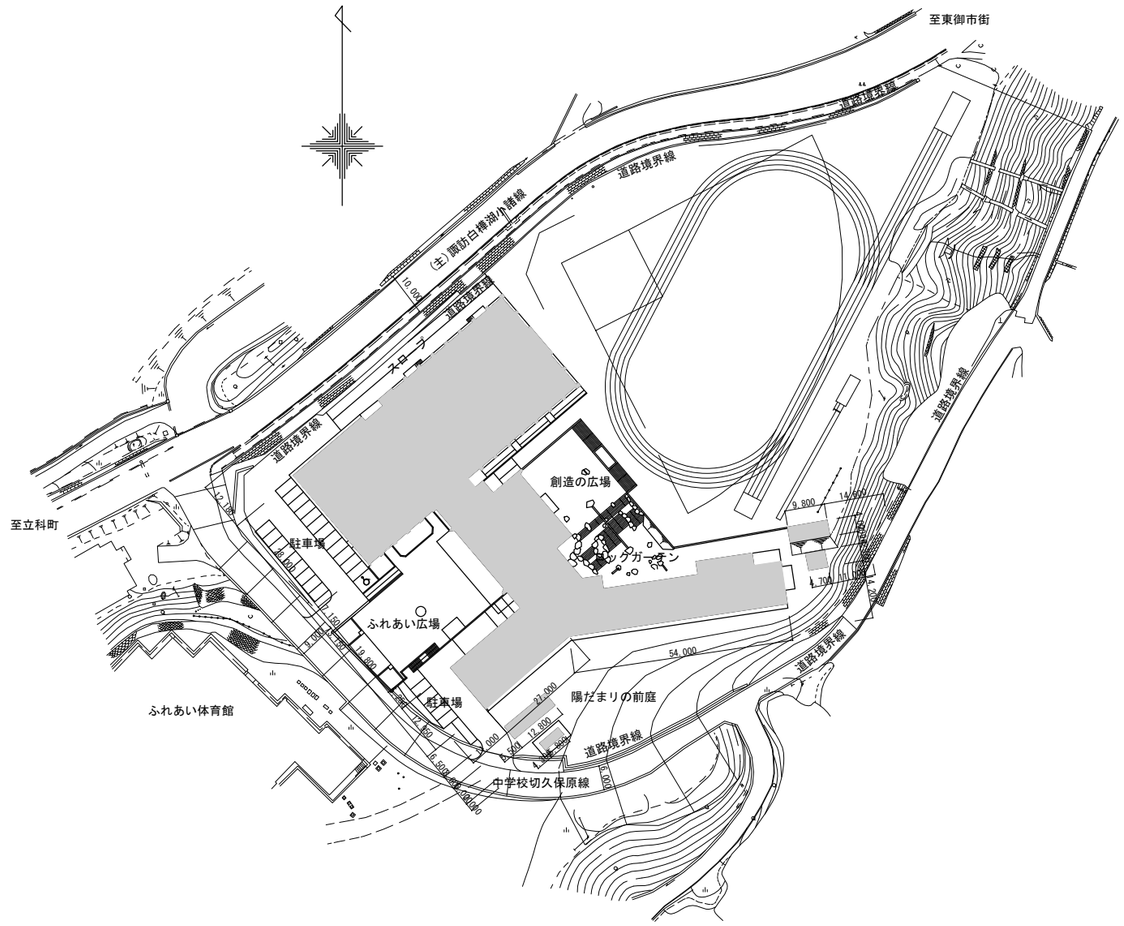
建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録　第307529号
管理建築士
田中 俊章

工事概要	＜工事項目＞
	Ａ．屋内運動場耐震補強工事
	１．仮設工事
	○アリーナ：全面養生シート敷きの上、ローリング足場組み×３台（照明器具取替え用、体育器具補強用）を行う。
	２．電気設備工事
	○既存電動昇降機付照明器具直付（W1×32台､W2×16台）、電動昇降機盤、昇降機用配線(引抜き)を撤去処分。
	○新規高天井照明器具300W無電極ﾌﾟﾗｽﾞﾏﾗｲﾄ<AJA-HBO2O-300W同等>×48台（補強ﾜｲﾔｰ<LEDX-40053W同等>2ヶ所／台固定共）の取付を行う。
	３．体育器具補強工事　※詳細図参照
	○吊下昇降式バスケットゴール耐震化×２基
	Ｂ．音楽ホール・ラウンジ耐震補強工事
	１．仮設工事
	○音楽ホール・ラウンジ：全面養生シート敷き、厚5.5mmラワン合板敷きの上、枠組棚足場組み(全面)を行う。（天井ネット張り工事用）
	○補強ﾌﾟﾚｰﾄ取付室：全面養生シート敷きの上、くさび緊結式足場組みとする。
	○ラウンジ木製レリーフ部に養生シート(7.28*7.28H)を見る。
	２．壁・天井改修工事
	○既存壁材（天井からH=450範囲の厚12.5+9.5mmせっこうボード(ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ共)）両サイドの撤去処分。
	○新規壁材（既存撤去範囲に厚12.5+9.5mmせっこうボード(ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ共)）を直張りとする。又、木製化粧見切材を取付ＳＯＰ塗装を行う。
	○既存天井材落下対策として、全面にポリエステル製ネット（ﾜｲﾔｰ･吊金具･ﾛｰﾌﾟ等）張り工事 <Net-One-Fs工法同等>を行う。
	Ｃ．昇降口天井耐震補強工事
	１．仮設工事
	○昇降口部分：全面養生シート敷き、厚5.5mmラワン合板敷きの上、枠組棚足場組み(全面)を行う。
	廊下部分：全面養生シート敷きとする。
	２．天井改修工事
	○既存天井材(厚9.5mm化粧石膏ボード)及び軽量鉄骨下地撤去処分。
	○新規天井材(厚20mm断熱ボード<断熱ｲｿｼｱﾇﾎﾞｰﾄﾞ同等> ｱﾙﾐTﾊﾞｰ･水平補強共)張りを行う。
	３．電気設備工事
	○既存天井部電動昇降機付照明器具(DL)MF250W-1×８台を取外し、新規天井材取付時に再取付を行う。
	○既存天井部光電式スポット感知器(埋込)×２個を取外し、新規天井材取付時に再取付を行う。
	○同上天井切込補強は本工事内とする。
工　　期	作業については、夏休み期間中とする。
	※着手については発注者と打合せのこと。
仮設計画	○工事車両の出入については学校関係者(生徒等)及び通行人の安全を十分に配慮すること。
	○足場等の仮設については、図面又は特記に記載がない場合であっても、施工上、安全上必要と思われる仮設については工事契約前の質問日に監督員と十分協議すること。



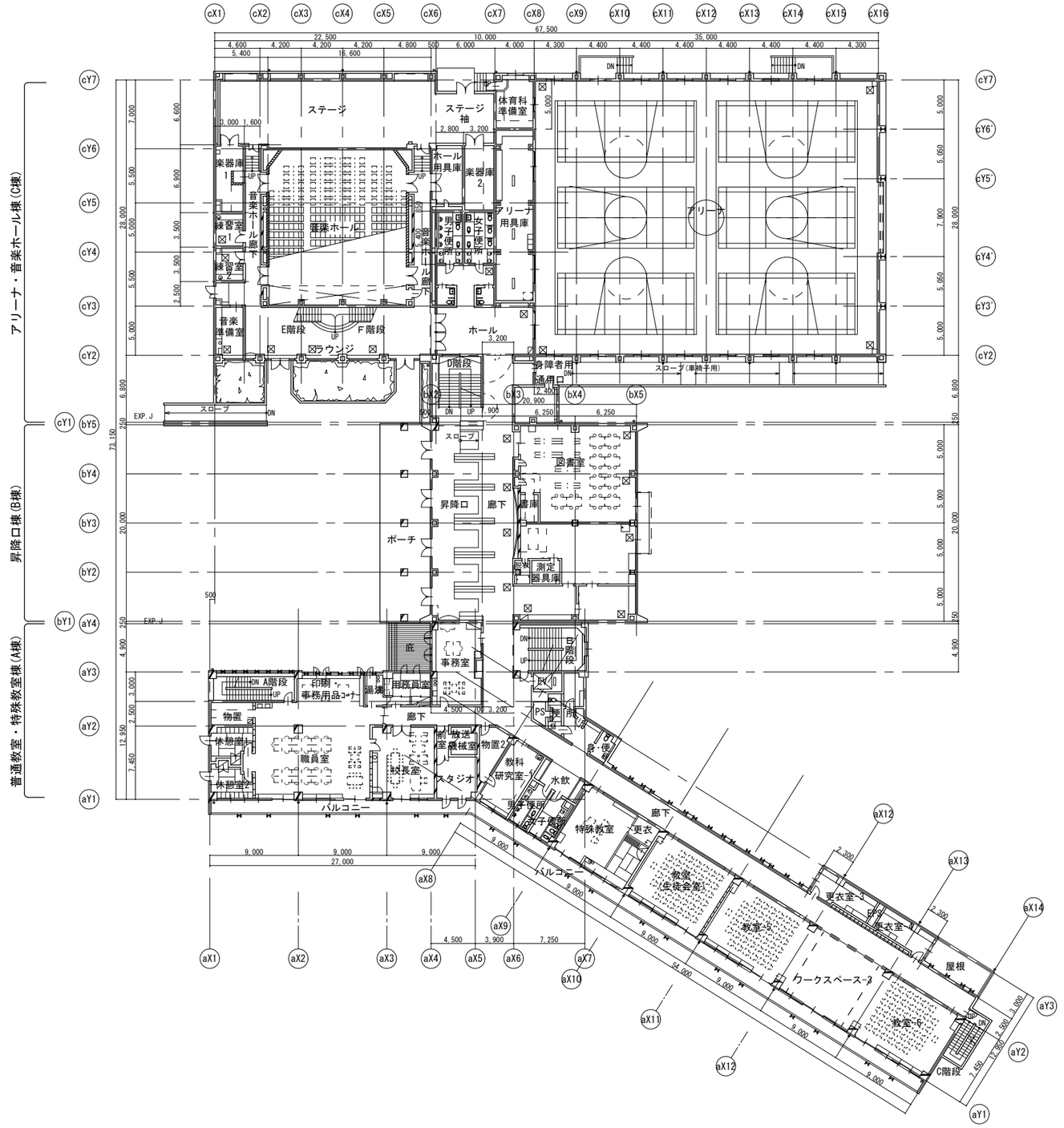
工事場所：東御市下之城947番地

案　内　図

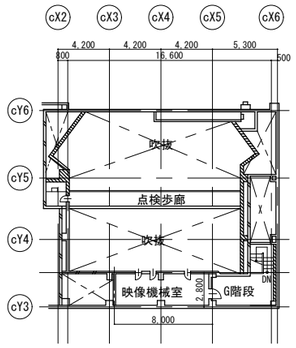


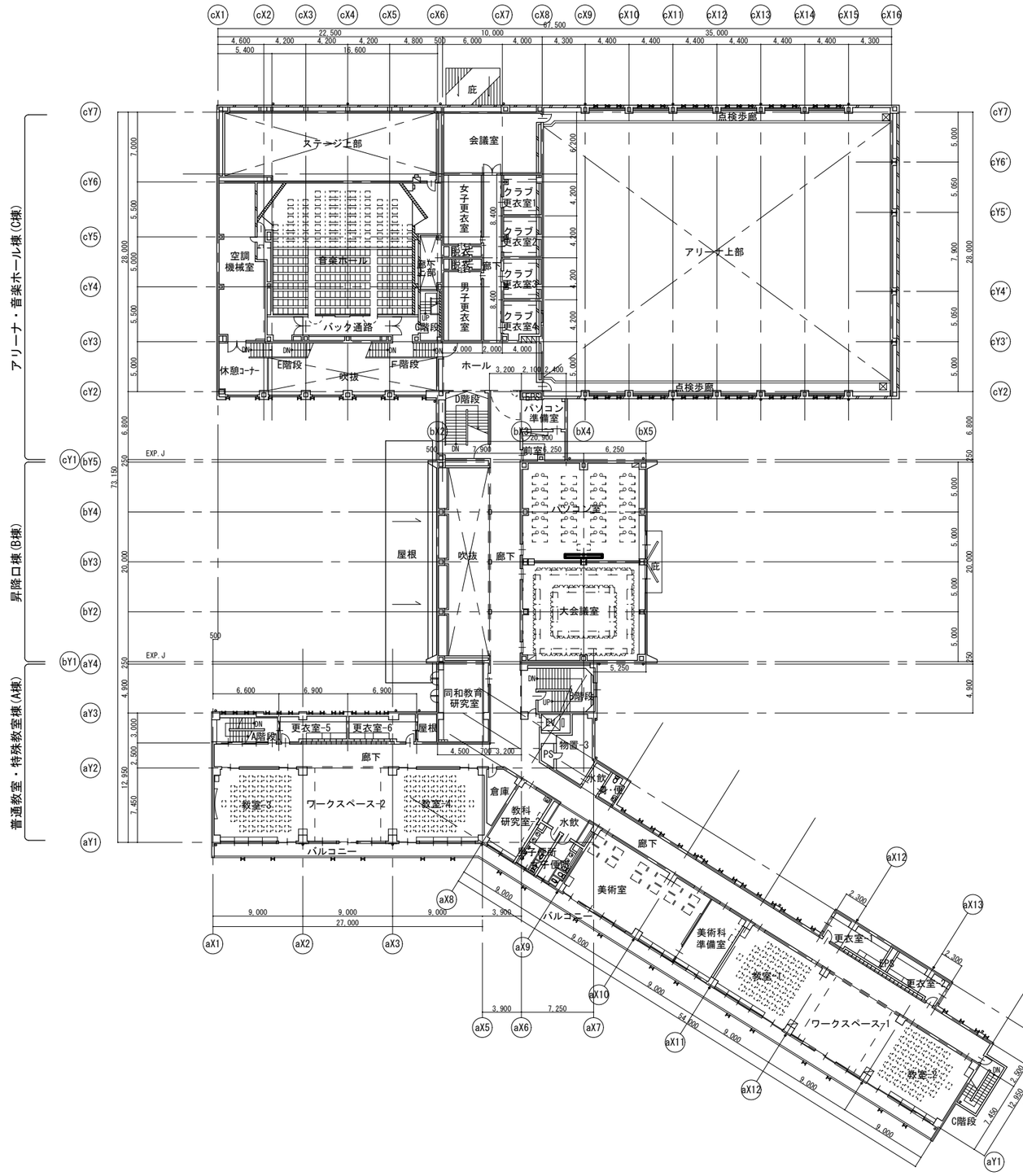
配　置　図　S=1:1500

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：1,500	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	工事概要、案内図、配置図						図　番	Ａ－０６

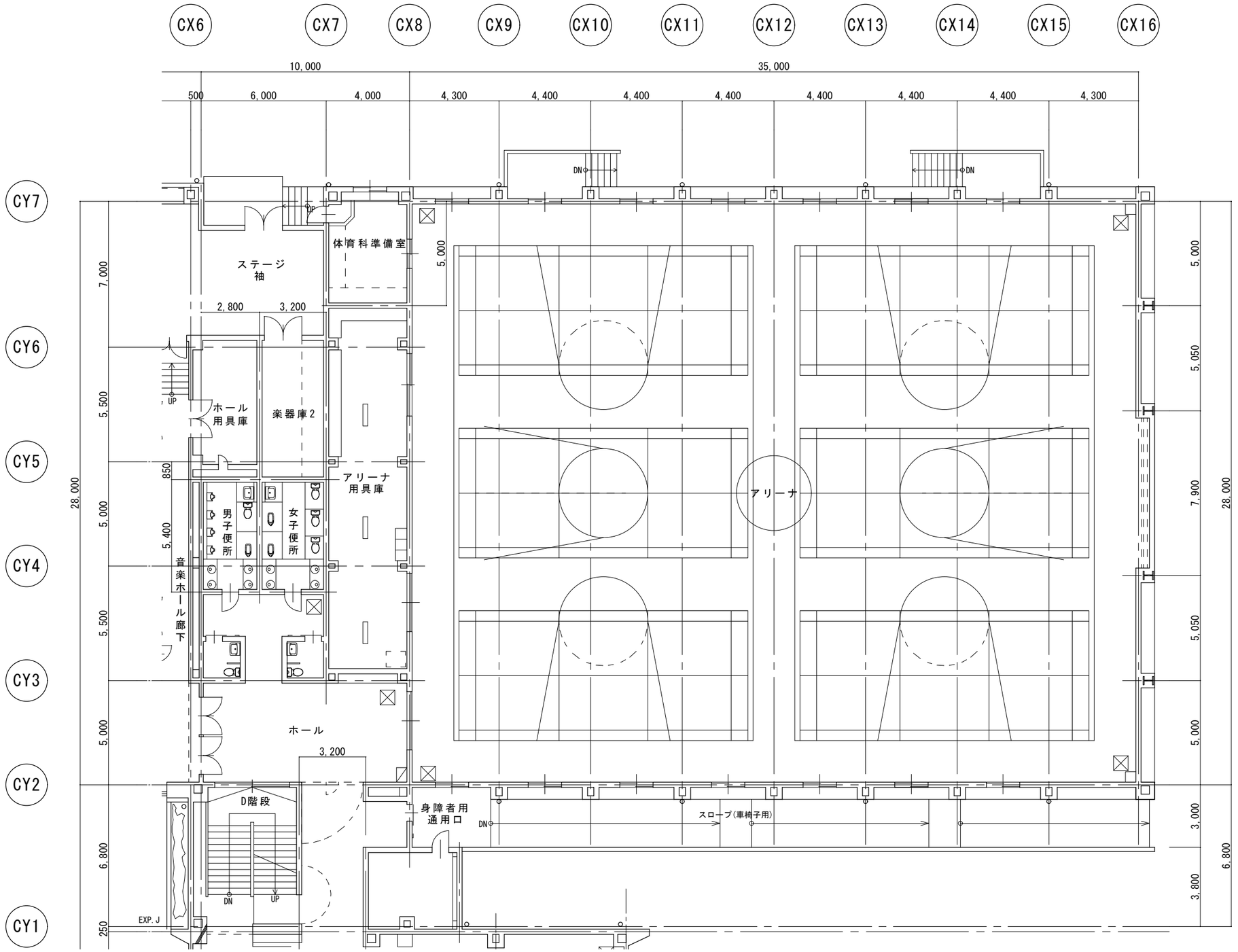


備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：500	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 全体２階平面図						図　番	Ａ－０７

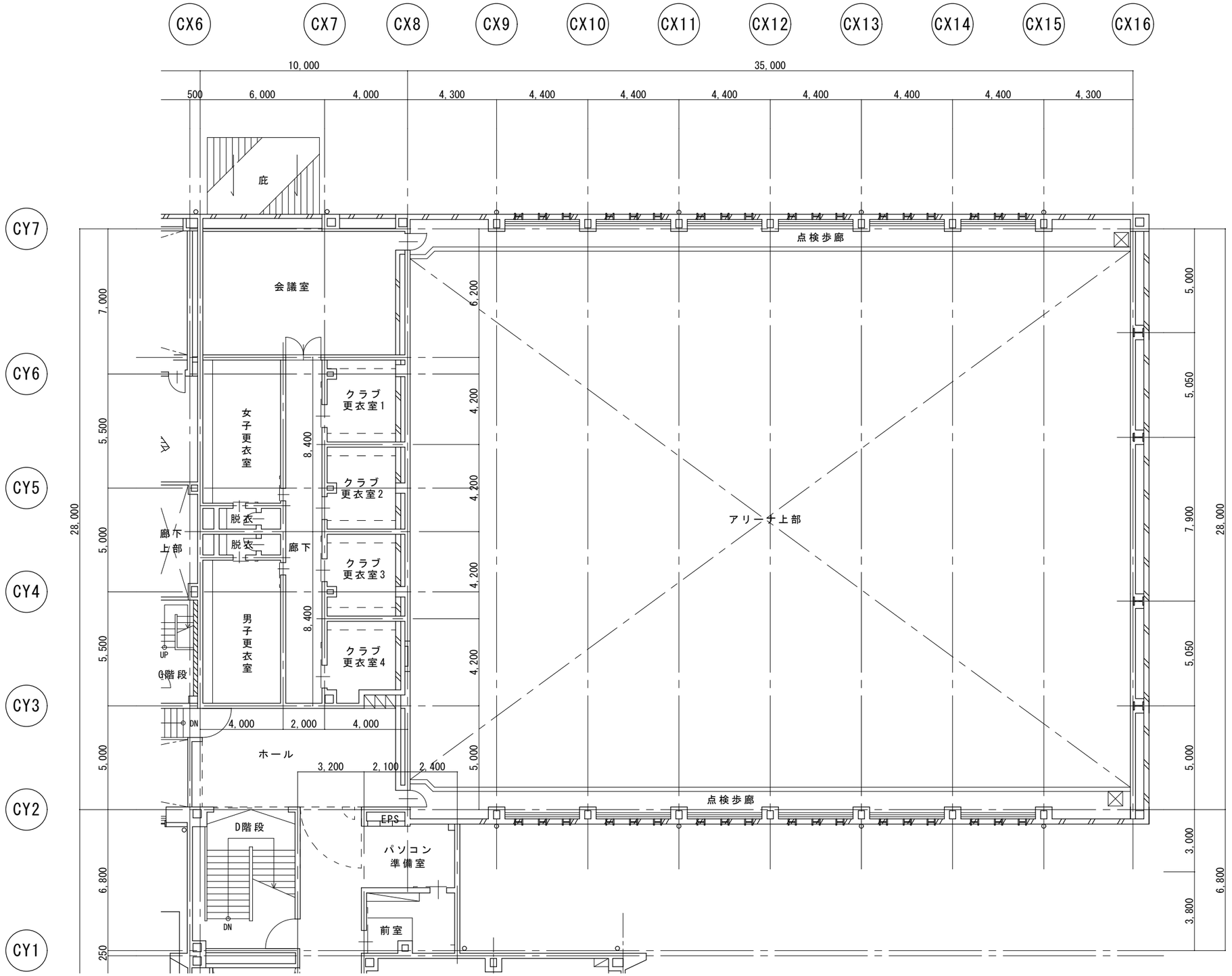




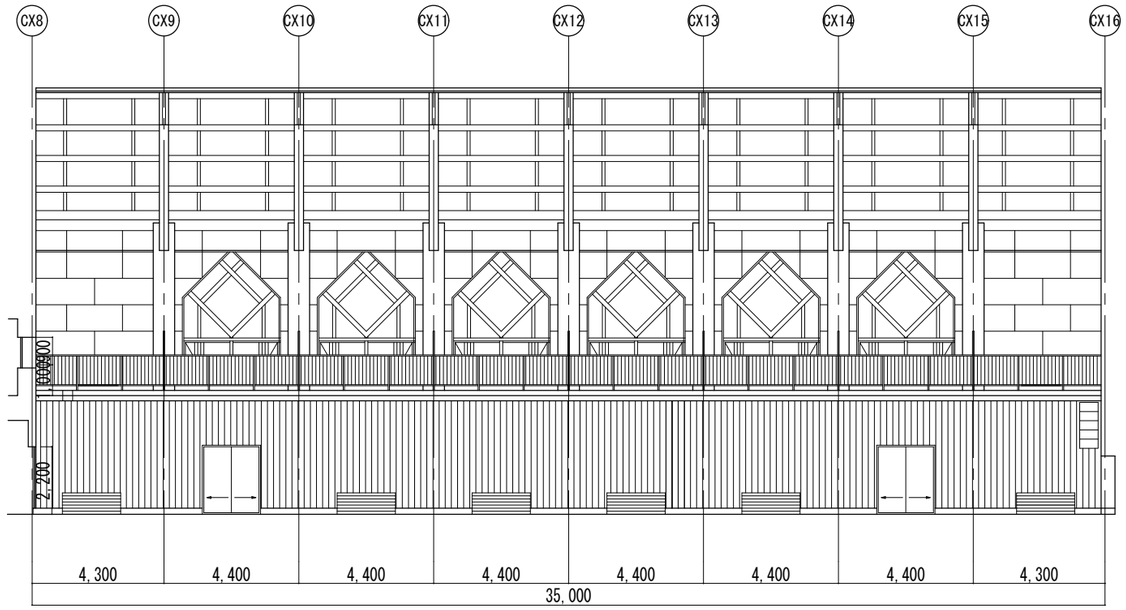
備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：500	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 全体３階平面図						図　番	Ａ－０８



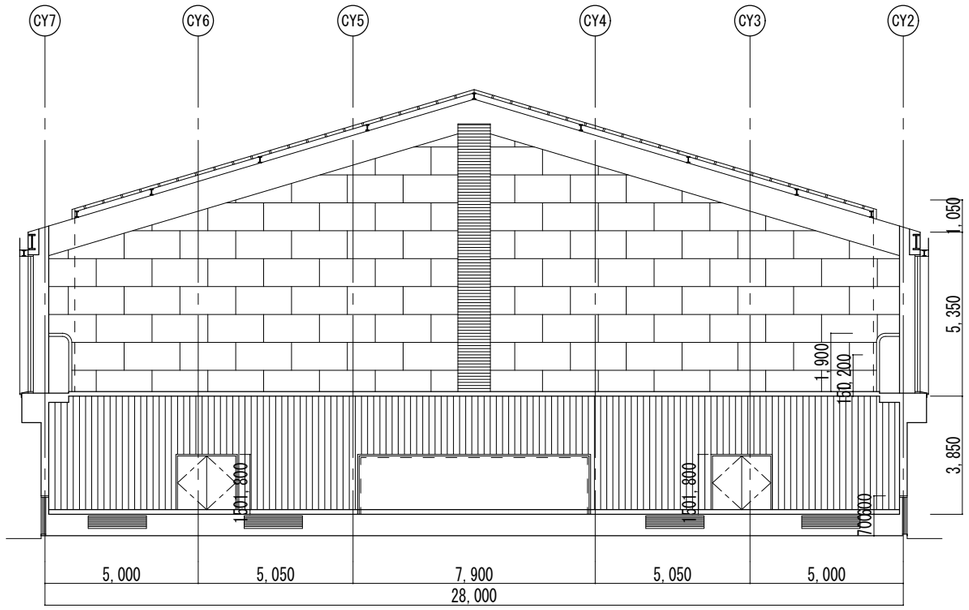
備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 ２階平面図						図番	Ａ－０９



備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	建築設計室 Todd Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 ３階平面図						図番	Ａ－１０

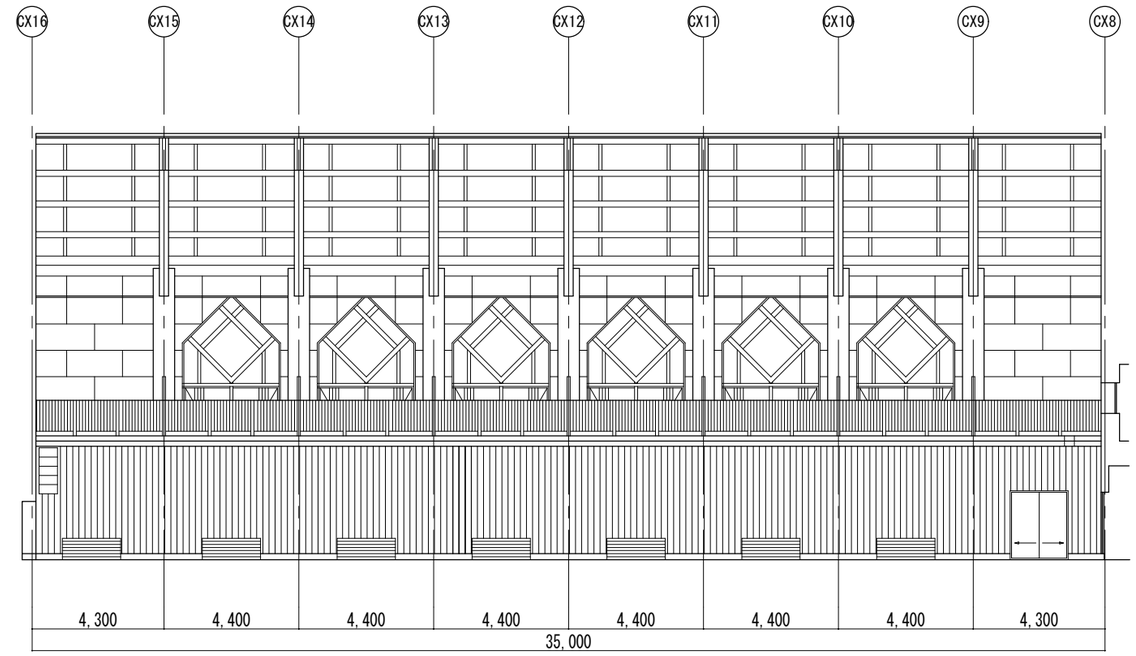


A

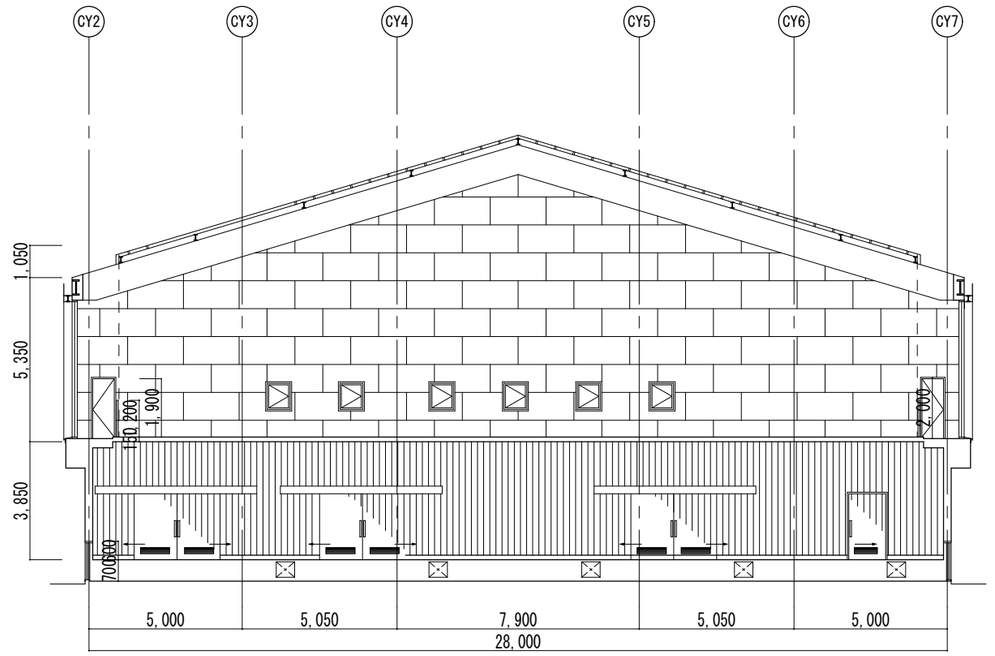


B

アリーナ

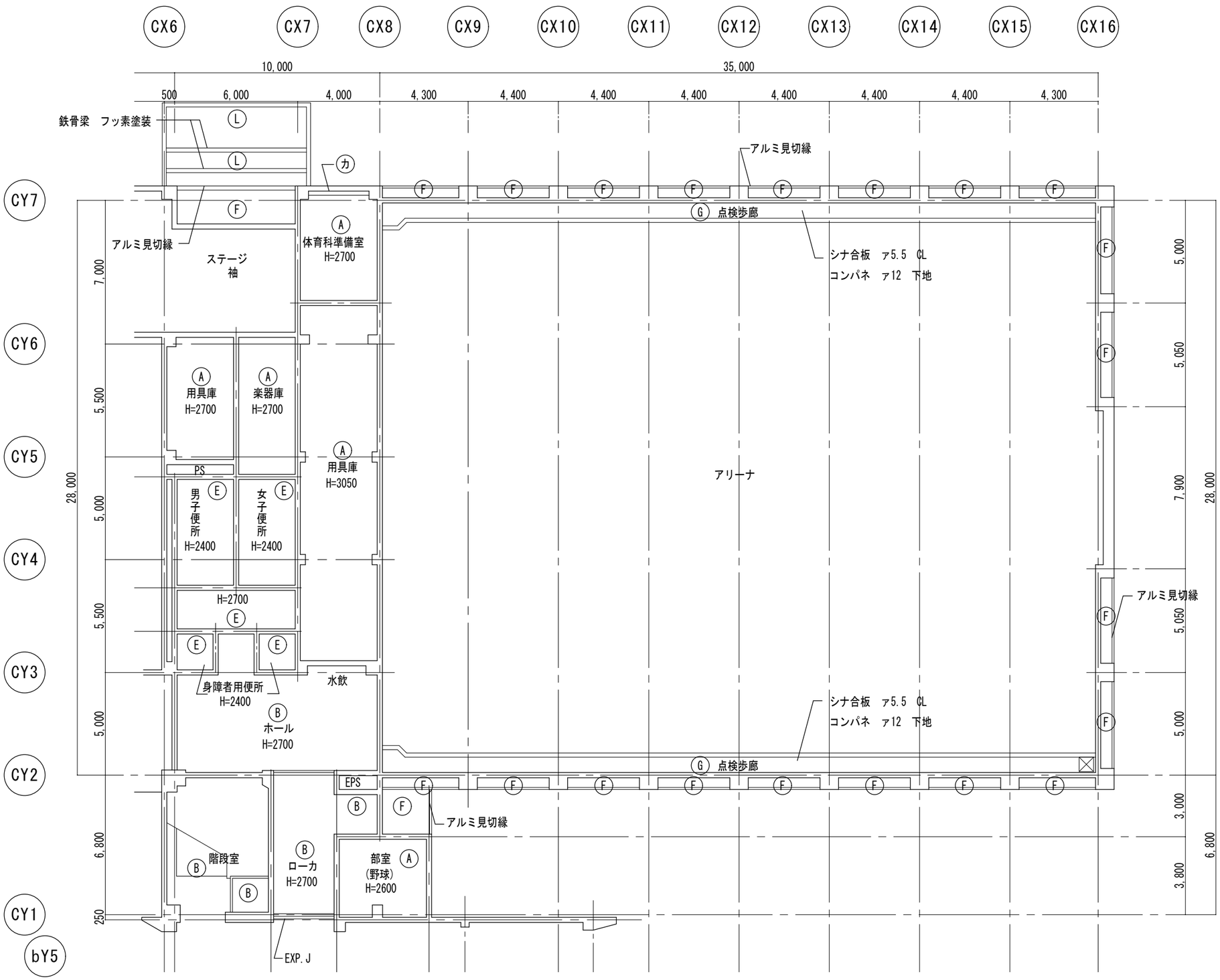


C



D

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 展開図						図番	A－11

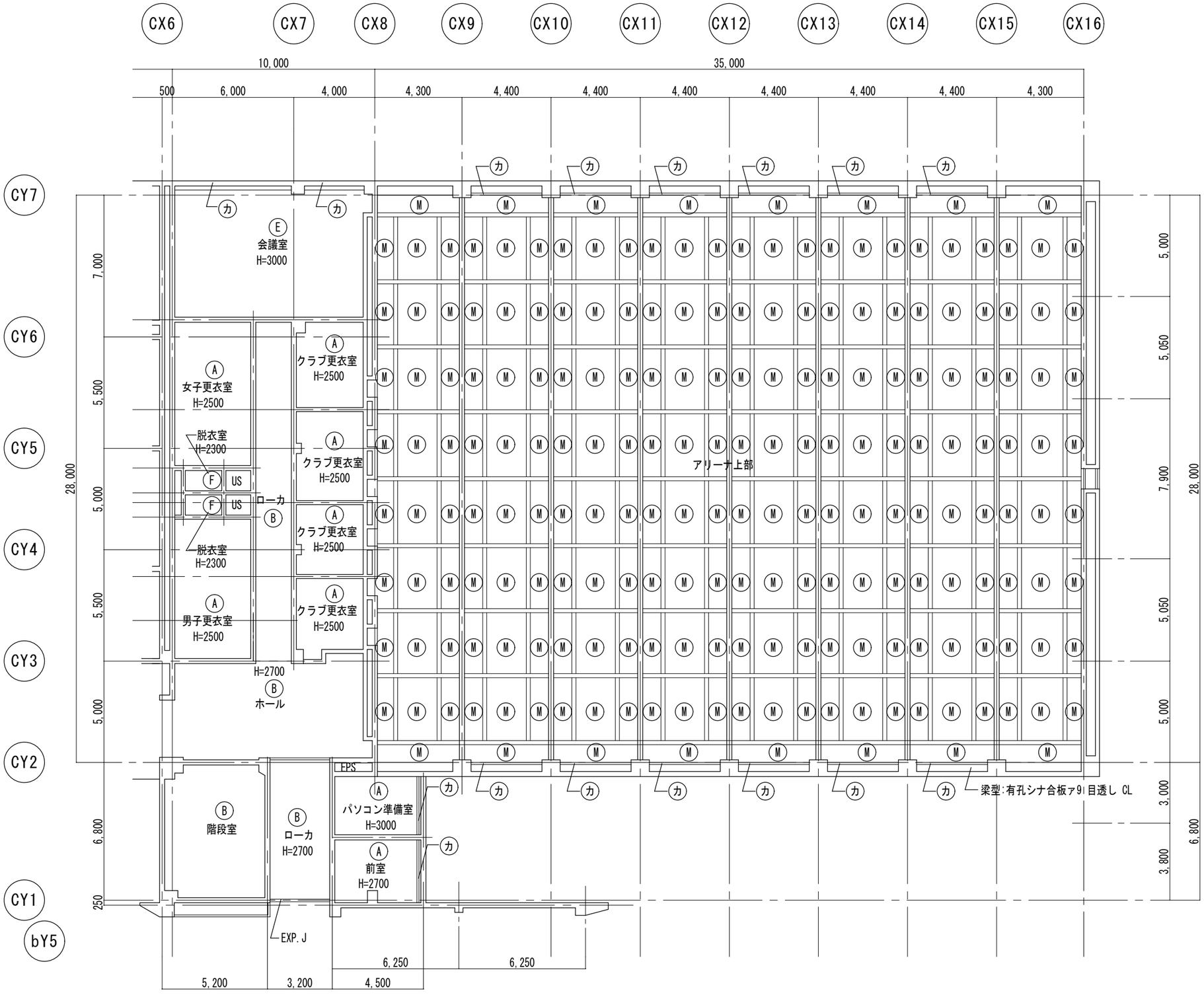


-凡　例-

- Ⓐ 化粧石膏ボード　ァ9.5
- Ⓑ 化粧石膏ボード(吸音タイプ)　ァ9.5
- Ⓒ 化粧石膏ボード(木目)　ァ9.5
- Ⓓ 化粧石膏ボード　ァ9.5・EP
- Ⓔ 岩綿吸音板ァ9・石膏ボード　ァ9.5(下地)
- Ⓕ ケイ酸カルシウム板ァ6・EP
- Ⓖ ケイ酸カルシウム板(有孔)ァ6・EP
- Ⓗ コンクリート打放し・吹付タイル
- Ⓘ コンクリート打放し・EP塗装
- Ⓙ コンクリート打放し・顕し
- Ⓚ グラスウール・ガラスクロス巻
- Ⓛ 折板顕し
- Ⓜ グラスウールボード　ァ25　ガラスペーパー貼
- Ⓚ カーテンボックス
- ― ― ― ピクチャーレール

天井点検口　450口　12ヶ所(屋内体育館棟)

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査 閲 主 任 製 図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 ２階天井伏図						図　番	Ａ－１２

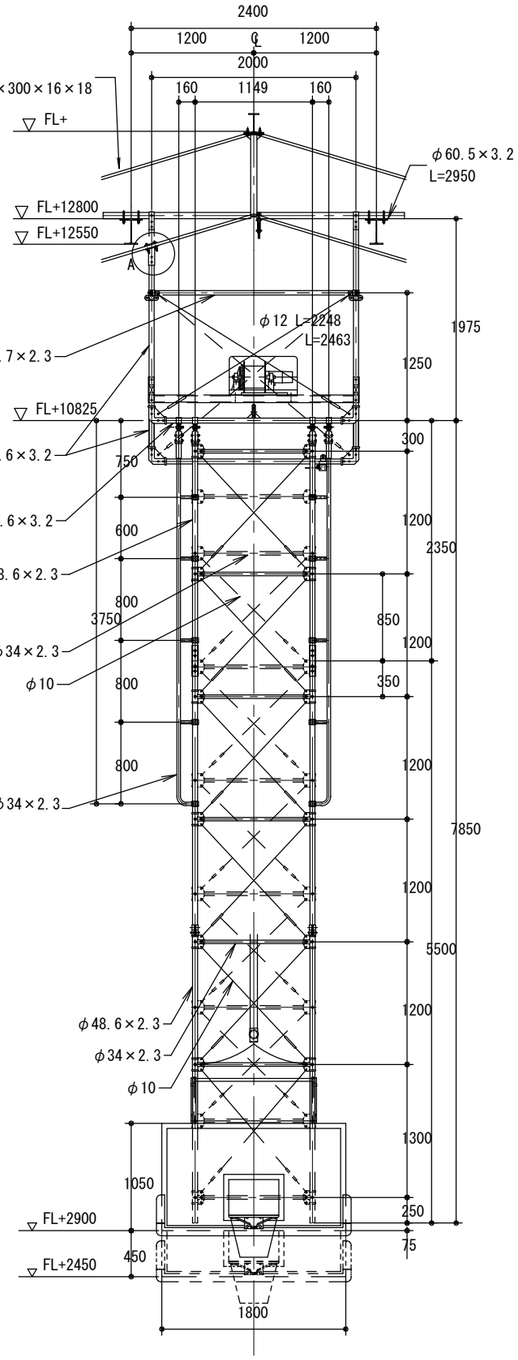


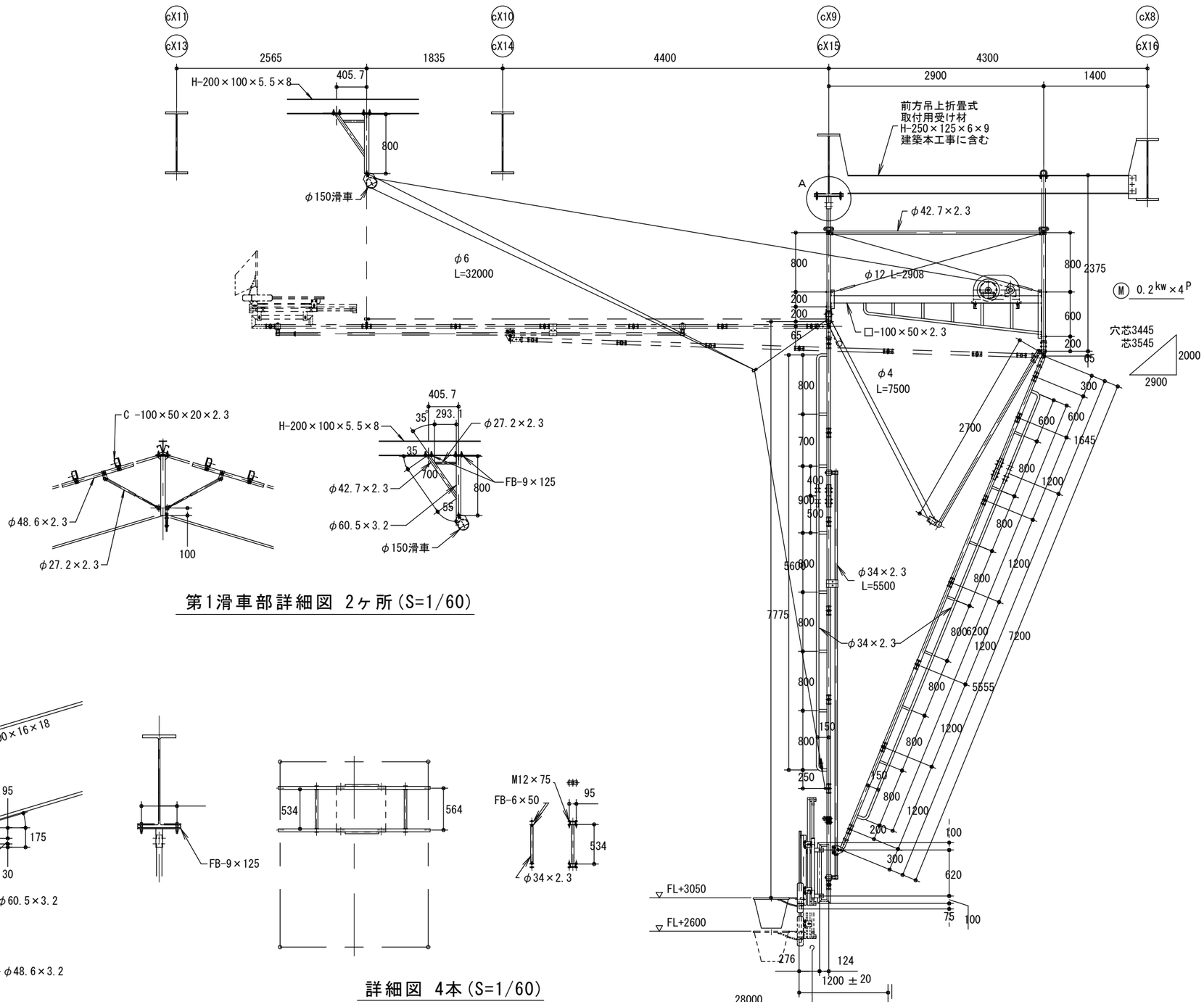
-凡　例-

(A)	化粧石膏ボード　ァ9.5
(B)	化粧石膏ボード(吸音タイプ)　ァ9.5
(C)	化粧石膏ボード(木目)　ァ9.5
(D)	化粧石膏ボード　ァ9.5・EP
(E)	岩綿吸音板ァ9・石膏ボード　ァ9.5(下地)
(F)	ケイ酸カルシウム板ァ6・EP
(G)	ケイ酸カルシウム板(有孔)ァ6・EP
(H)	コンクリート打放し・吹付タイル
(I)	コンクリート打放し・EP塗装
(J)	コンクリート打放し・顕し
(K)	グラスウール・ガラスクロス巻
(L)	折板顕し
(M)	グラスウールボード　ァ25　ガラスペーパー貼
(カ)	カーテンボックス
- — -	ピクチャーレール

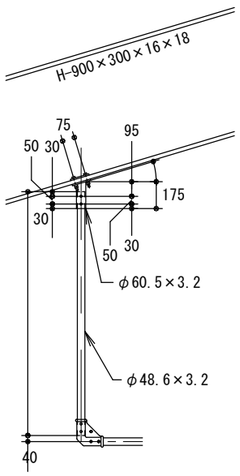
天井点検口　450口　12ヶ所(屋内体育館棟)

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 3階天井伏図						図番	A－13





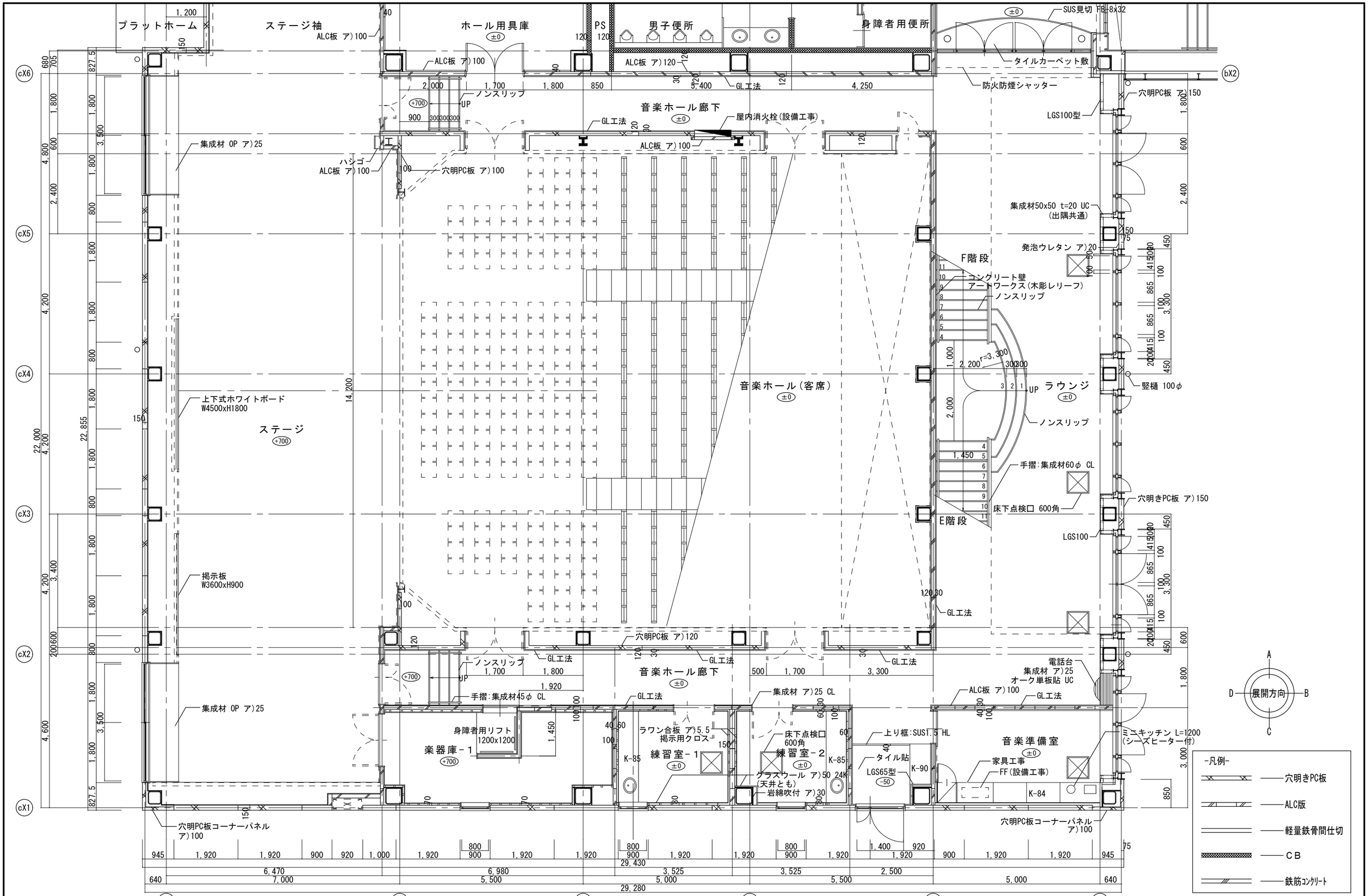
第1滑車部詳細図 2ヶ所(S=1/60)



詳細図 4本(S=1/60)

A部 上部前脚 詳細 1対(S=1/40)

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S=1:60	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 吊下式バスケットゴール図		S=1:40				図番	A－14



備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	Ｓ＝１：１００	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 ２階平面詳細図						図　番	Ａ－１５

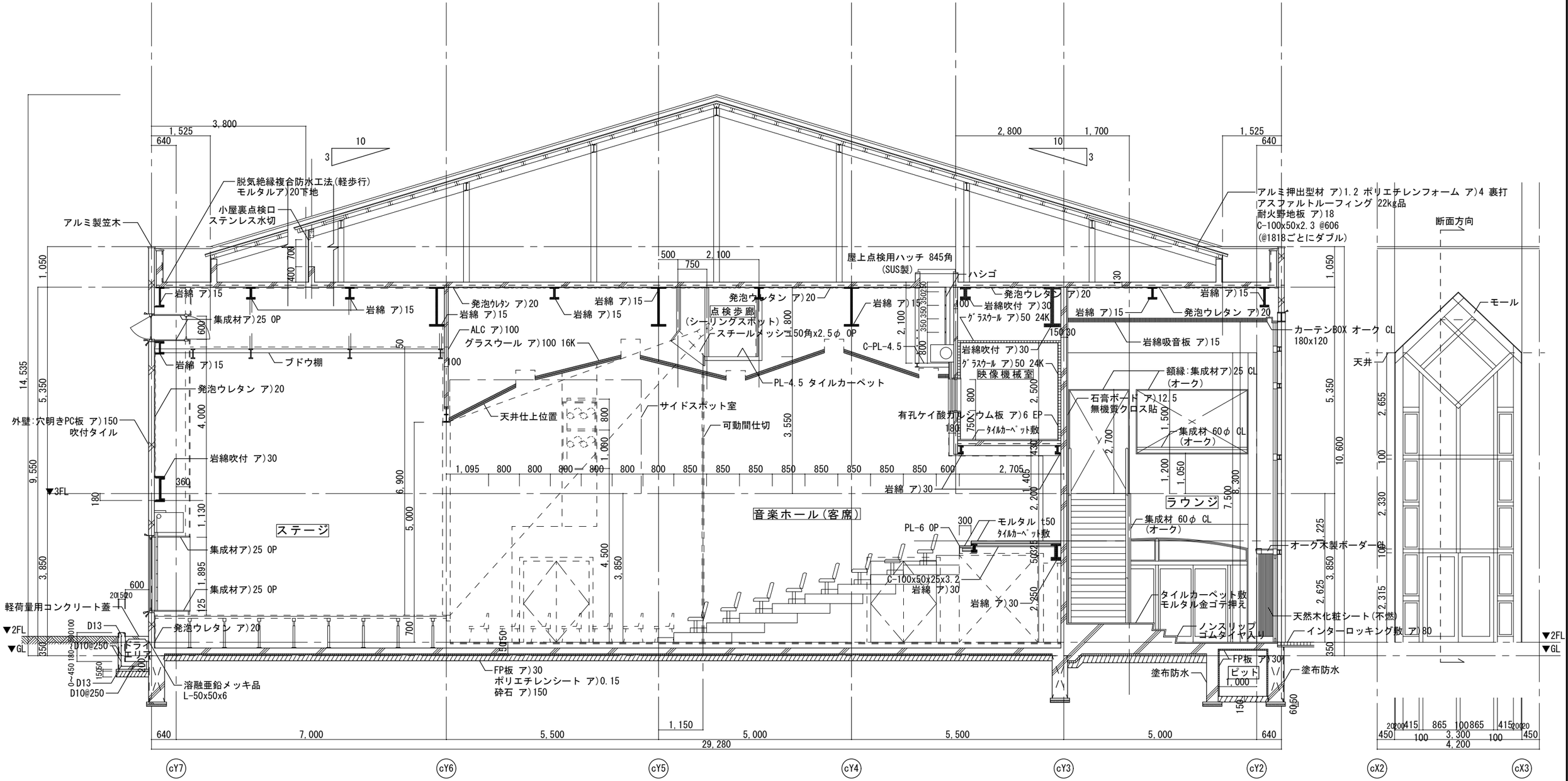
女子更衣室
SSL室
廊下上部
G階段
F階段
E階段
ステージ上部
(ステージ床)
音楽ホール(客席)
バック通路
ラウンジ吹抜
(ラウンジ床)
休憩コーナー
空調機械室
SSL室
スチール 34φx1.9 OP
スチール 27.2φx1.9 OP
スチール 21.7φx1.9 3段 OP
C-100x50x20x1.6 OP
合成床
モルタル下地
タイルカーペット
ハシゴ:スチールOP
穴明PC板 ア)100
穴明PC板 ア)150
穴明PC板 ア)120
ALC板 ア)100
可動間仕切
穴明きPC板 ア)120
穴明きPC板 ア)150
穴明PC板コーナーパネル ア)100
手摺:集成材 60φ CL
腰壁:ALC板 ア)100
石膏ボード ア)100
天板:集成材 ア)25 CL
LGS100型
ブラケット
ノンスリップ
手摺
LGS65型
掲示用クロス貼
ラワン合板 ア)5.5下地
天板:集成材 ア)30 CL
岩綿吹付 ア)30
LGS 100型
集成材 ア)30 CL
オーク単板貼 ア)1.0
LGS65型
展開方向
-凡例-
穴明きPC板
ALC版
軽量鉄骨間仕切
CB
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S=1:100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 3階平面詳細図						図番	A－16

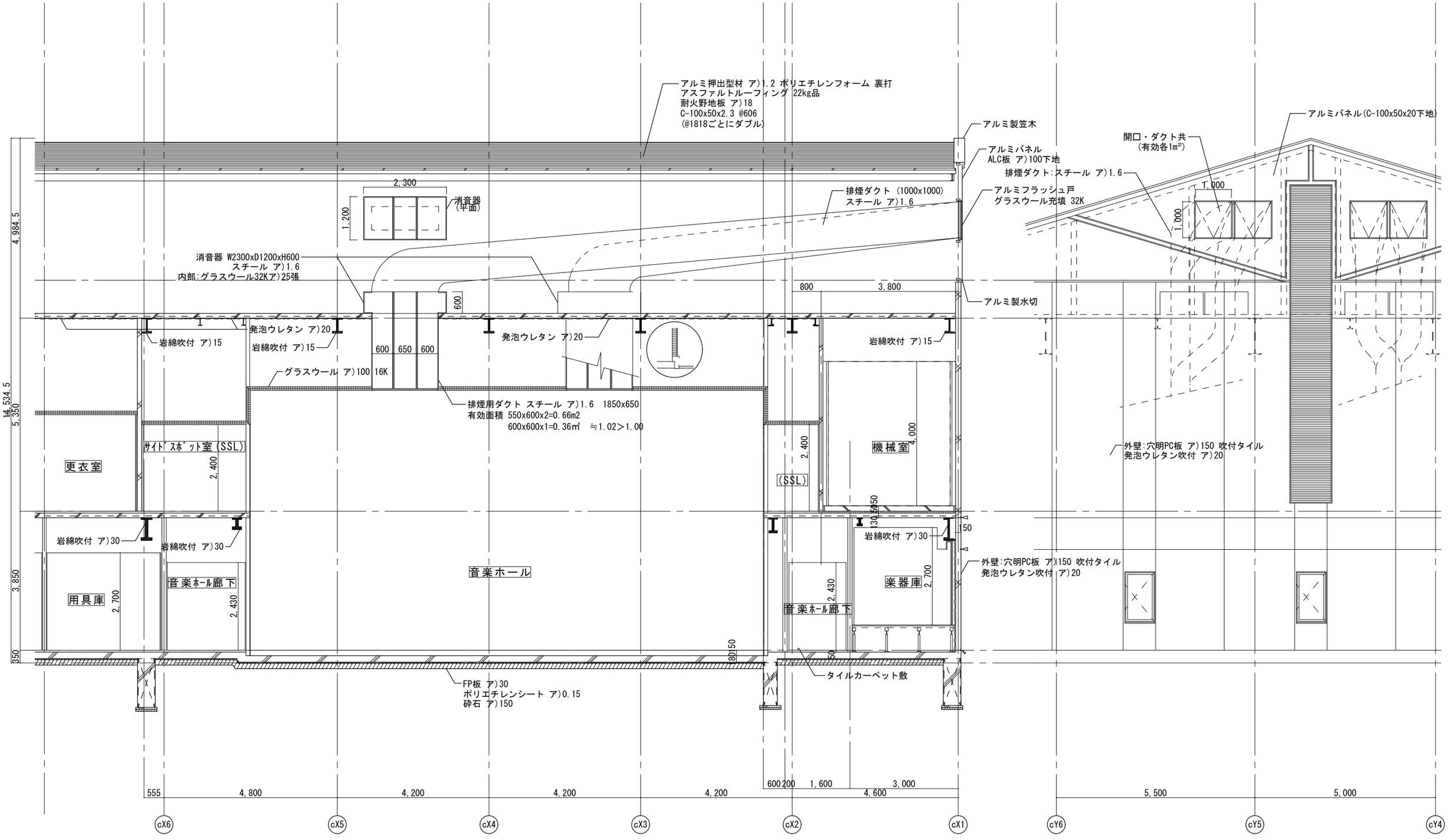
穴明PC板 ア)120
穴明PC板 ア)100
LGS100型
LGS65型
G階段
ハシゴ:スチールOP
H-100x100x6x8 (吊り材OP)
1-M12ターンバックル付
床:C-PL ア)4.5 OP
手摺:スチール 34φx2.3 OP
手摺柱:スチール 27.2φx1.9 OP @900
手摺子:スチール 21.7φx1.9 OP 3段
H-100x100x6x8 OP
スチール 34φx2.3 OP
C-100x50x2.3
ALC板 ア)100
上部:点検用デッキ
床:タイルカーペット
映像機械室
3FL+1405
点検歩廊
3FL+3550
グラスウール ア)50 24K(壁・天井)
スチールメッシュ 50角x2.6φ 0P
照明用パイプ
穴明PC板 ア)150
発泡ウレタン吹付 ア)20
穴明PC板 ア)120 ハシゴ
床PL - 4.5下地
タイルカーペット敷
手摺 34φx2.3
手摺子 27.2φx1.9 (3段)
手摺柱 21.7φx1.9
コーナーパネル ア)100
穴明PC板コーナーパネル ア)100
展開方向
＜シャッター点検用デッキ＞
柱・梁:H-100x100x6x8
手摺:スチール 34φx2.3 H=900 OP
手摺子:スチール 21.7φx1.9 OP 3段
床:C.PL-4.5
根太:C-100x50x25x2.3
ハシゴ:スチールOP

-凡例-
穴明きPC板
ALC版
軽量鉄骨間仕切
CB
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ

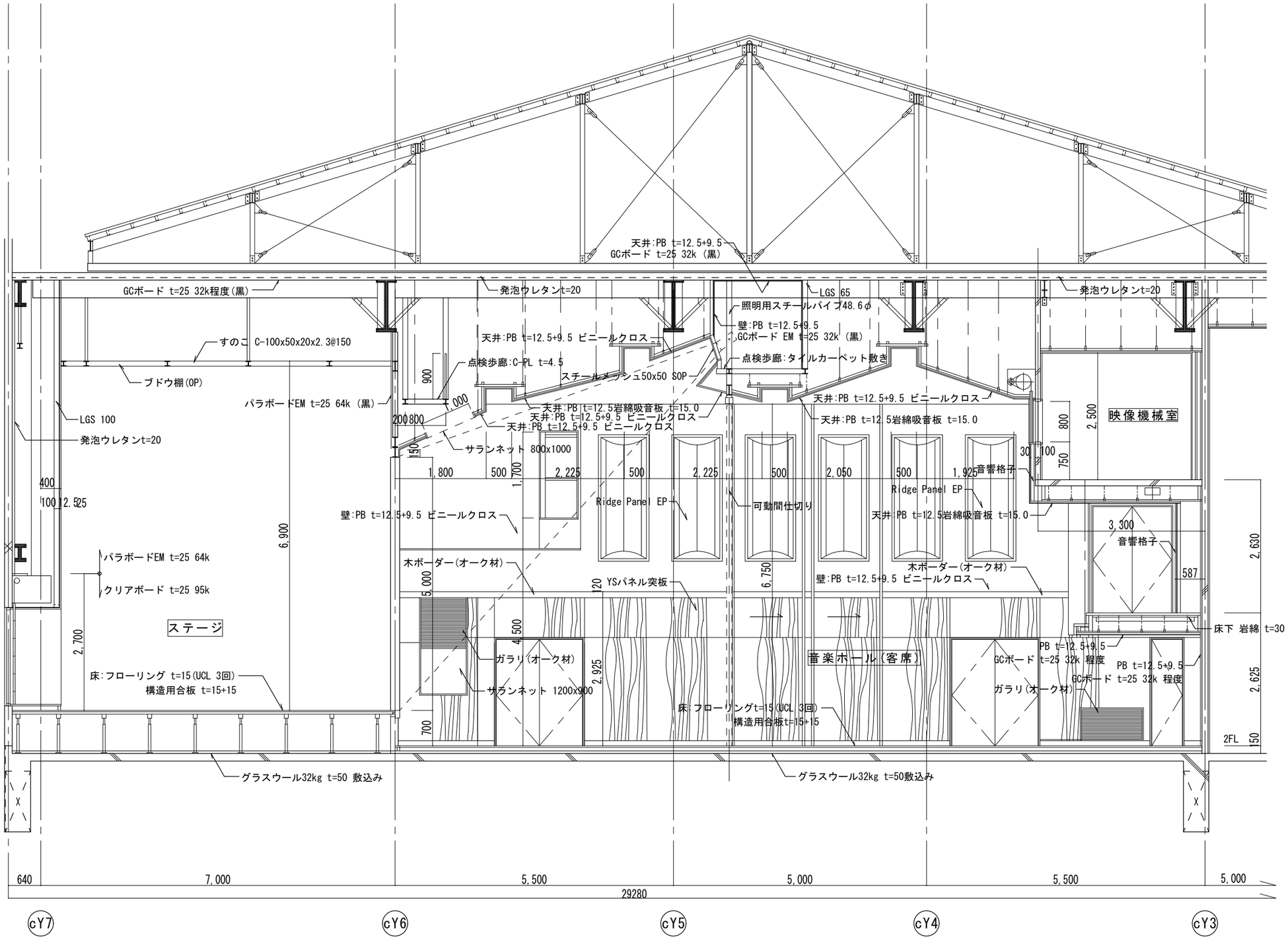
備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付 H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 3階吹抜け部平面詳細図						図番 A－17



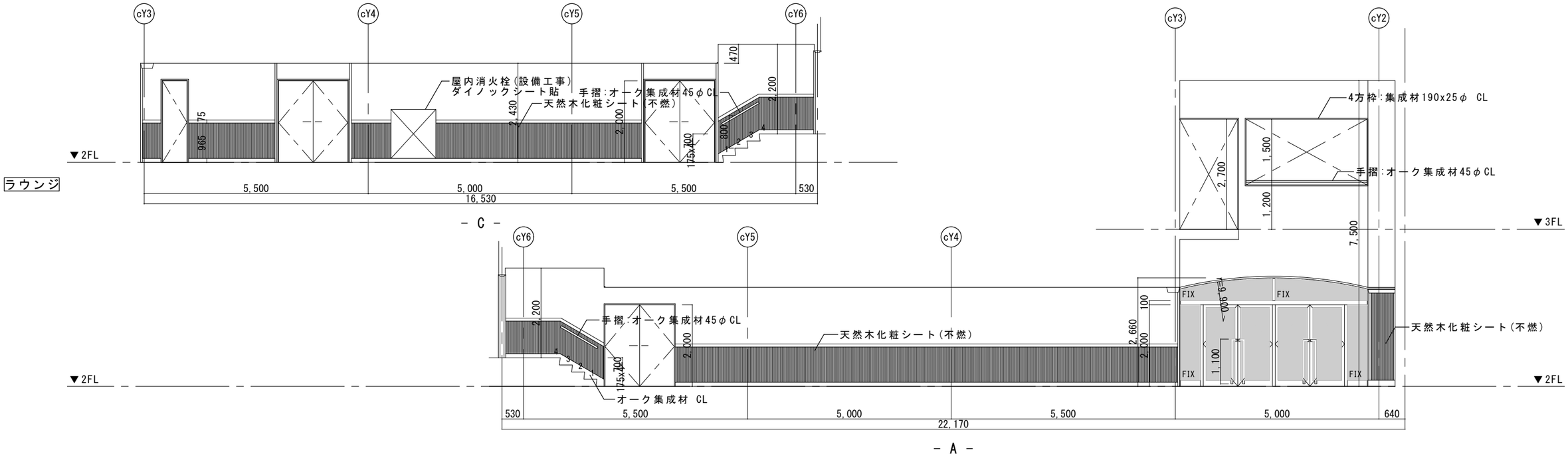
備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 矩計詳細図①						図番	Ａ－１８

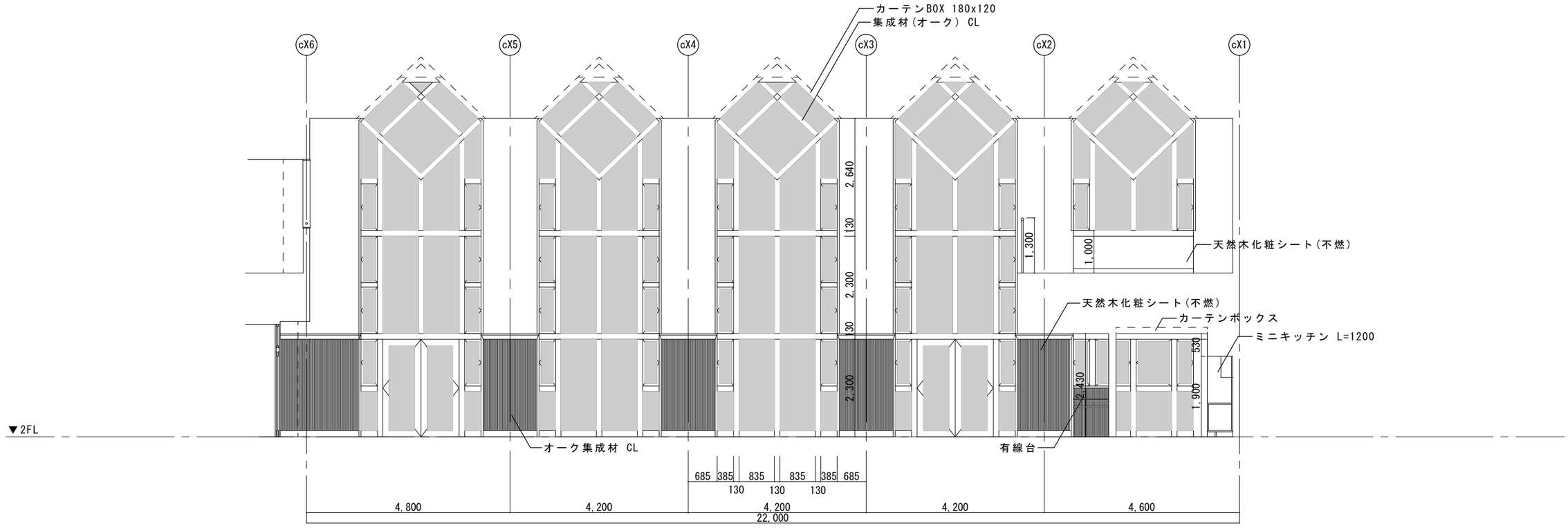


備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 矩計詳細図②						図番	A－１９

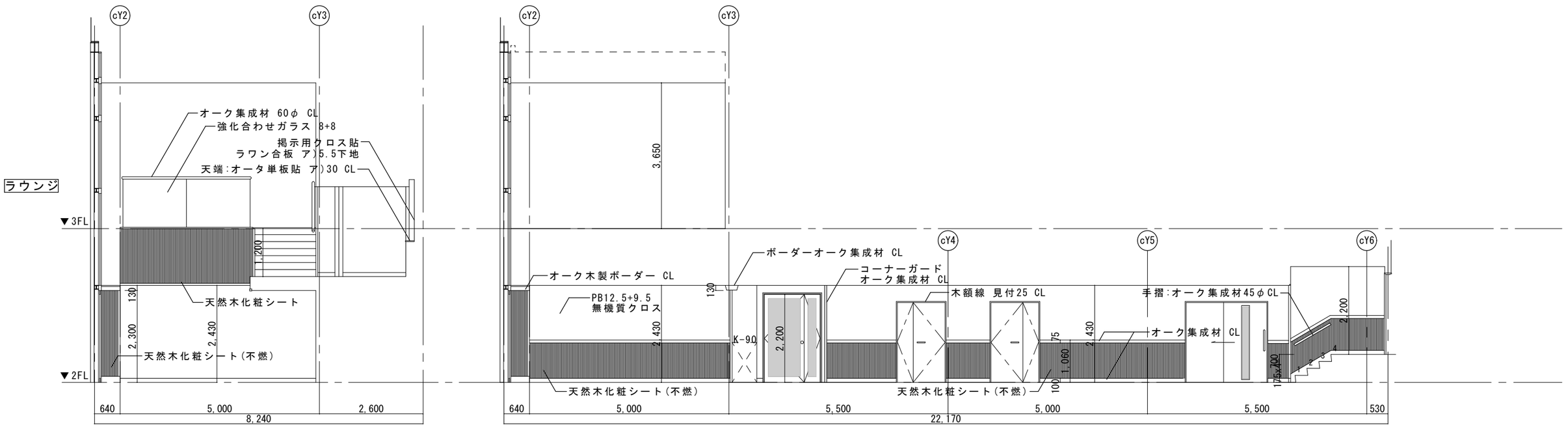


備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：80	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 内装断面詳細図						図　番	Ａ－２０

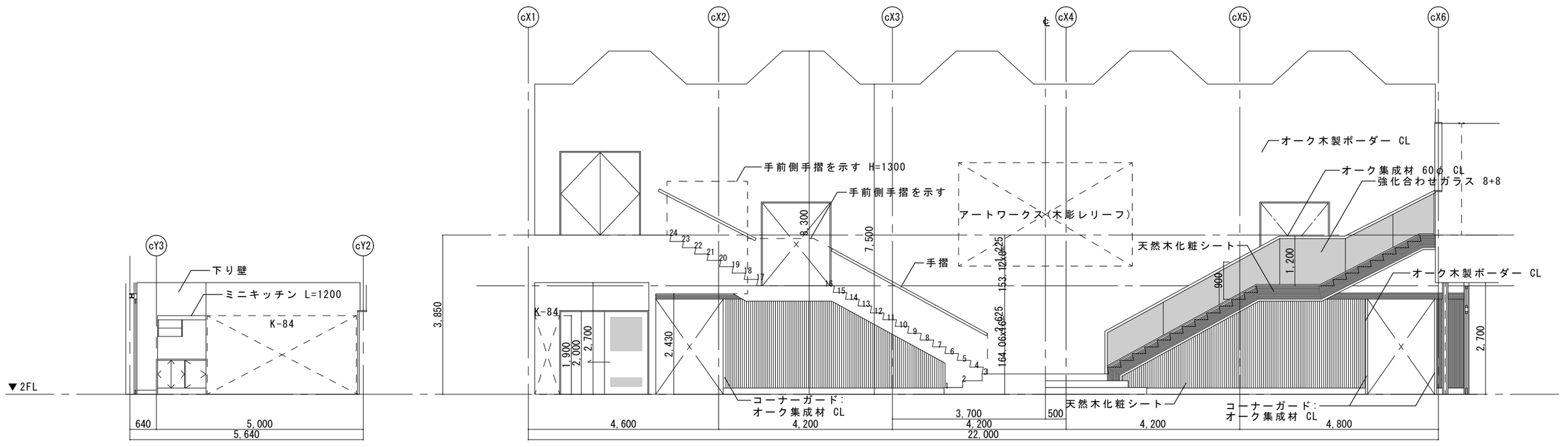




備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 展開図①						図番	A－21

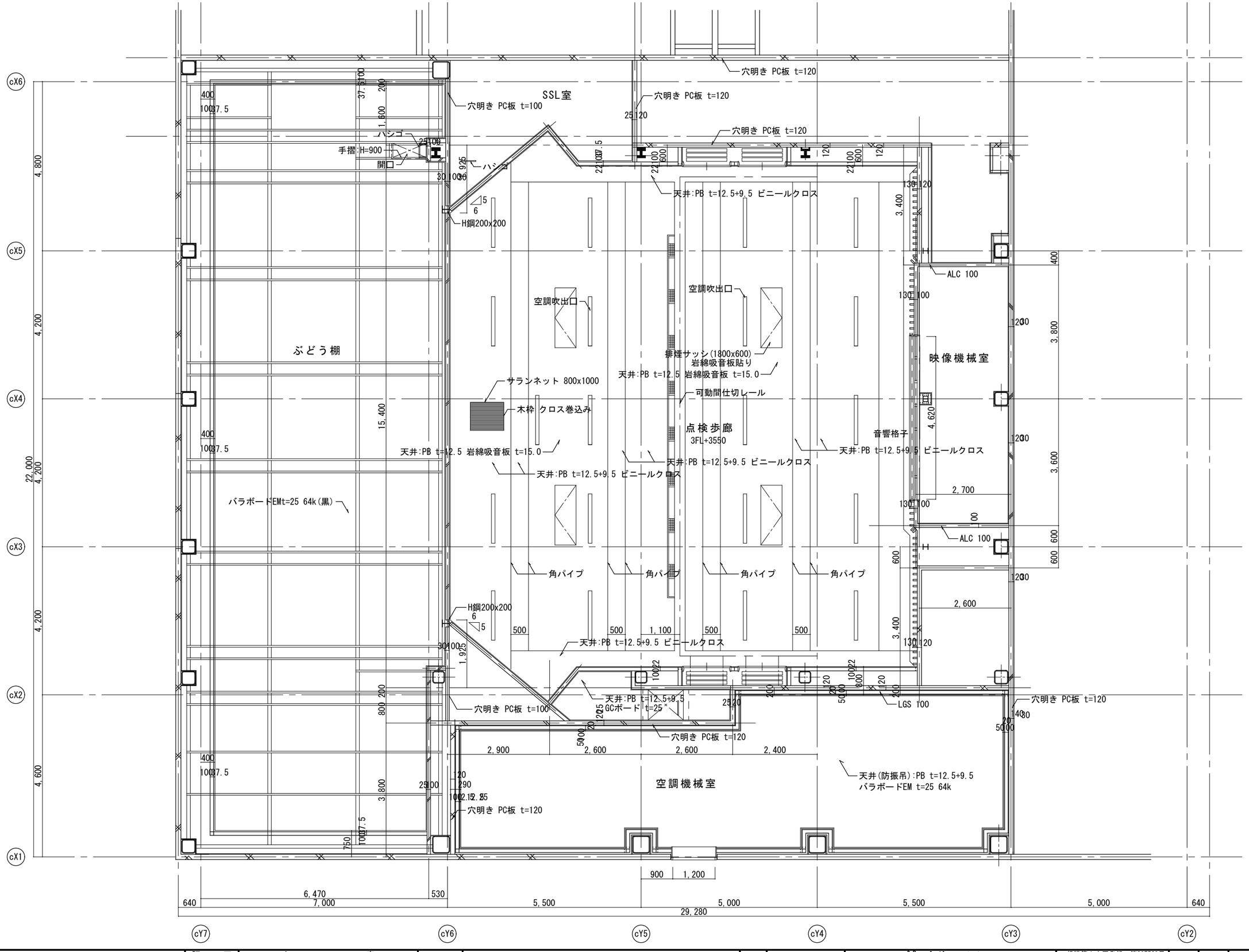


- C -　　- C -

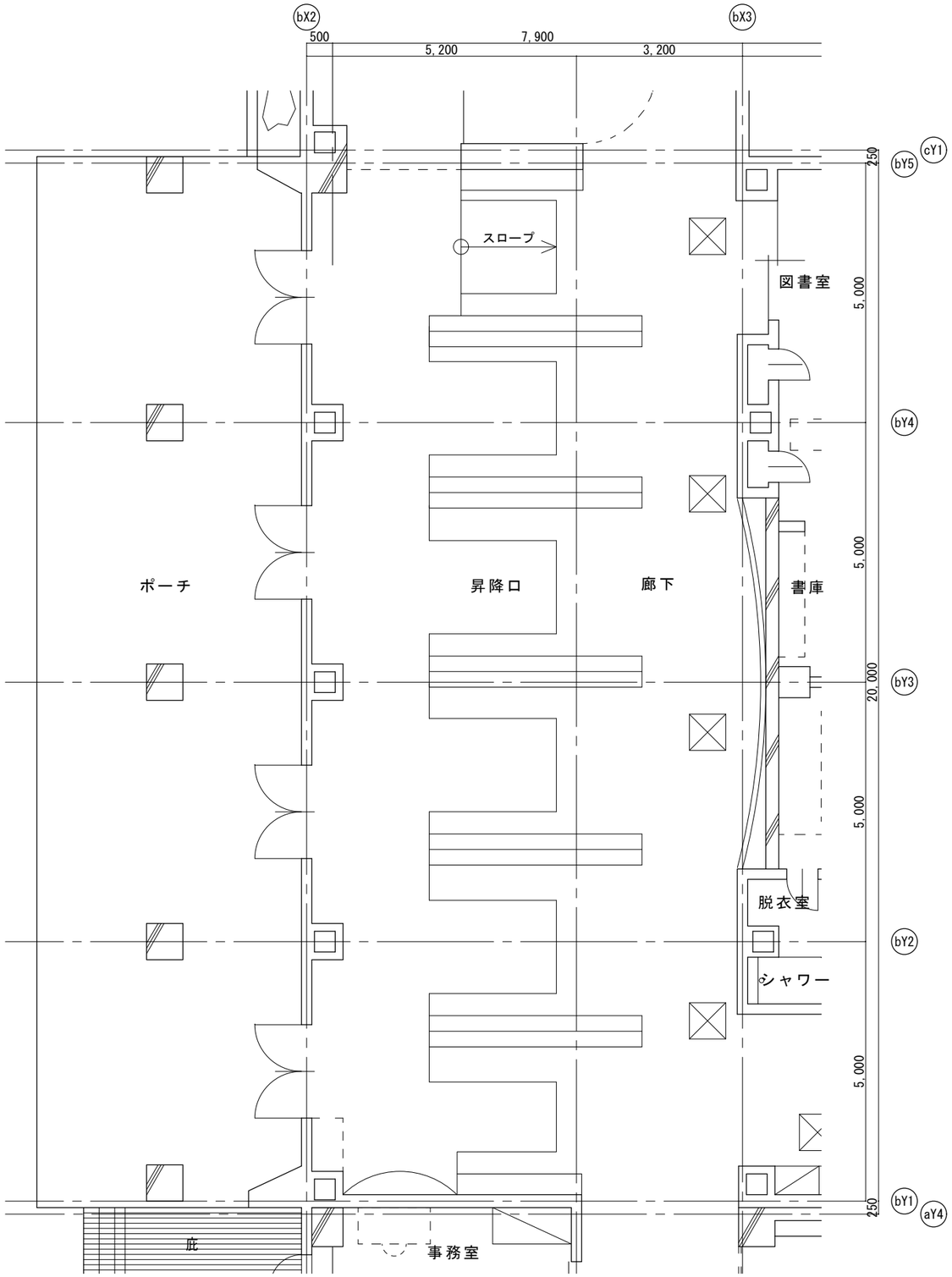


- C -　　- D -

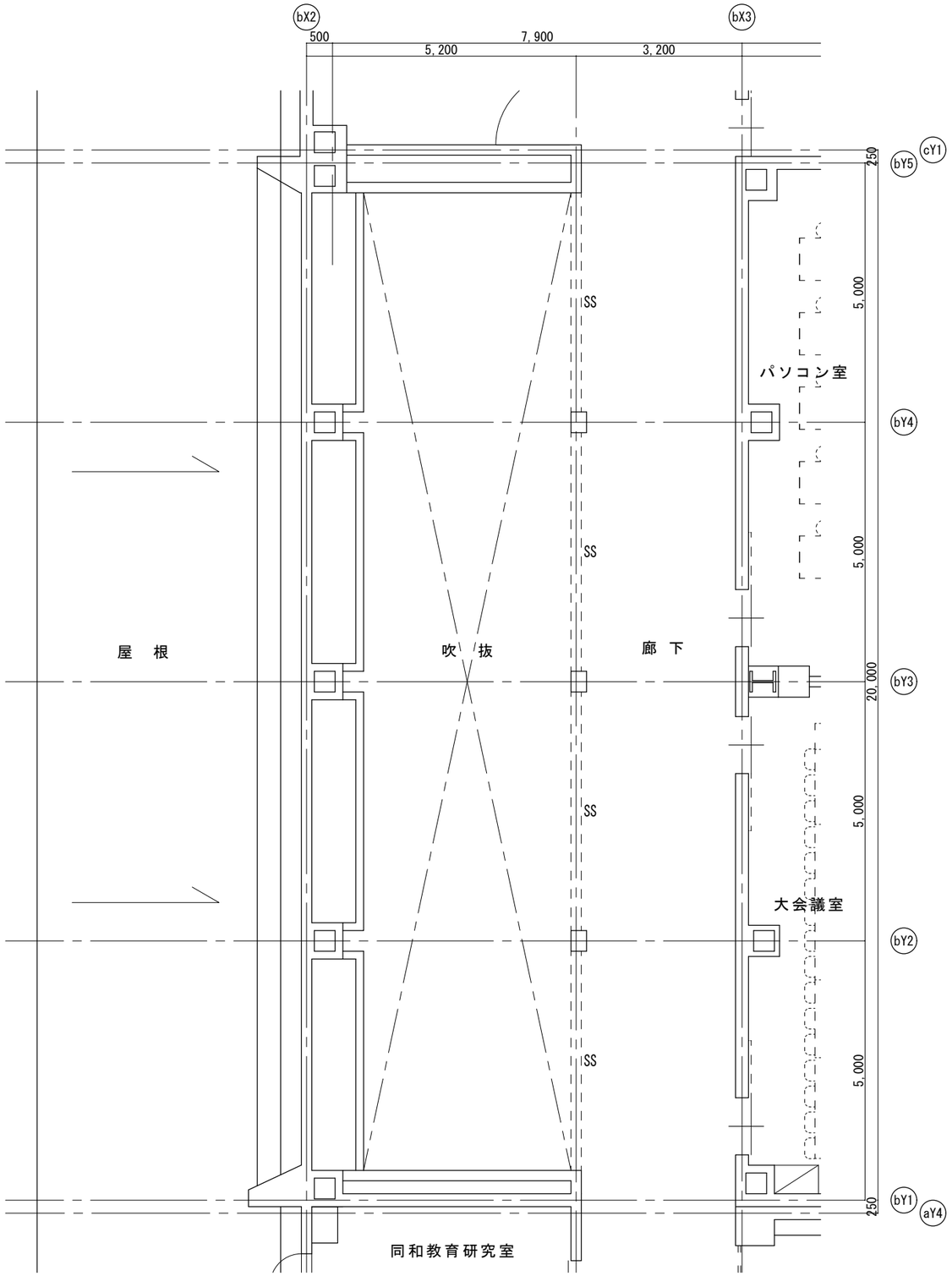
備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 展開図②						図番	A－２２



備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 音楽ホール棟 天井伏図						図番	A－２３

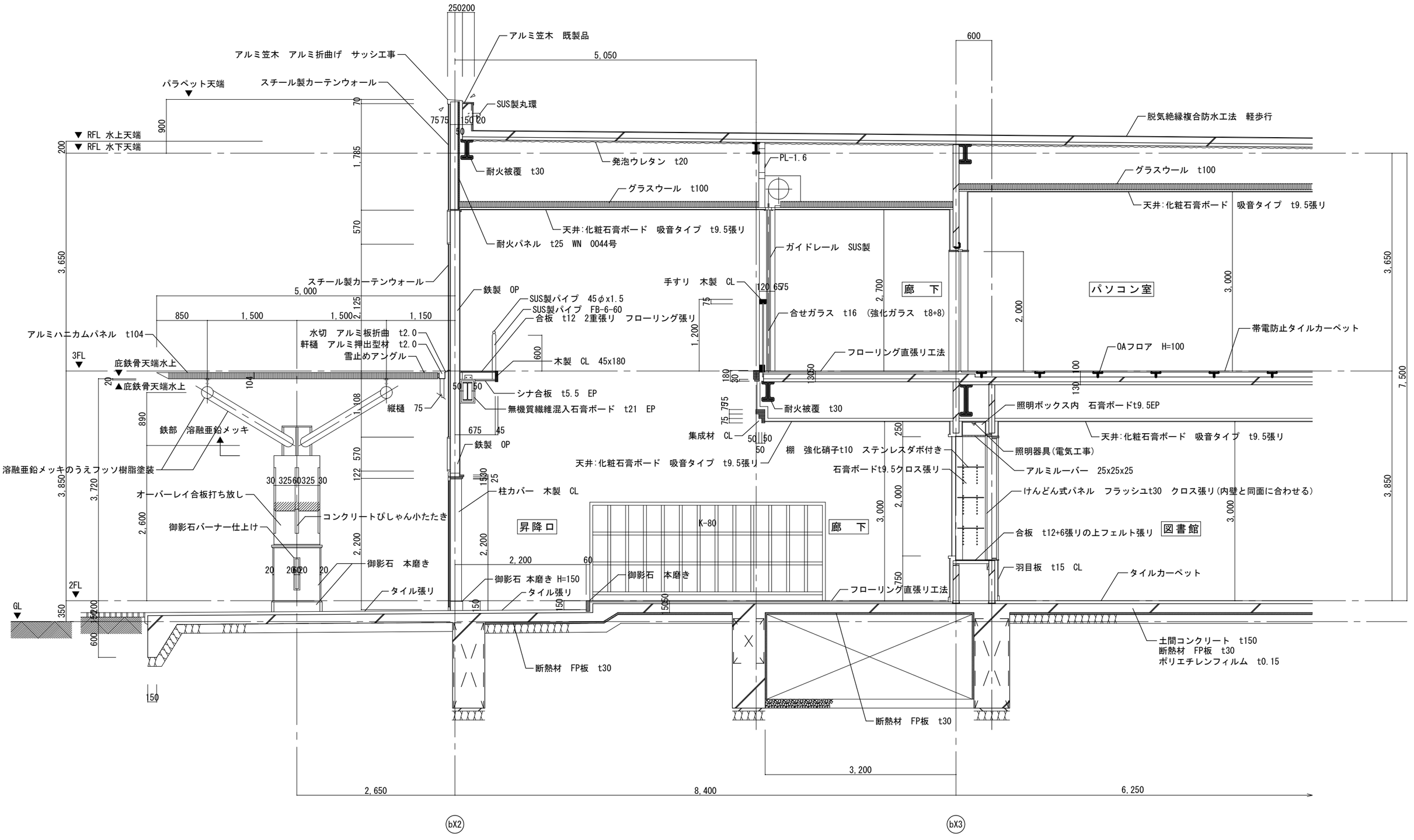


2 階 平 面 図　S=1：100



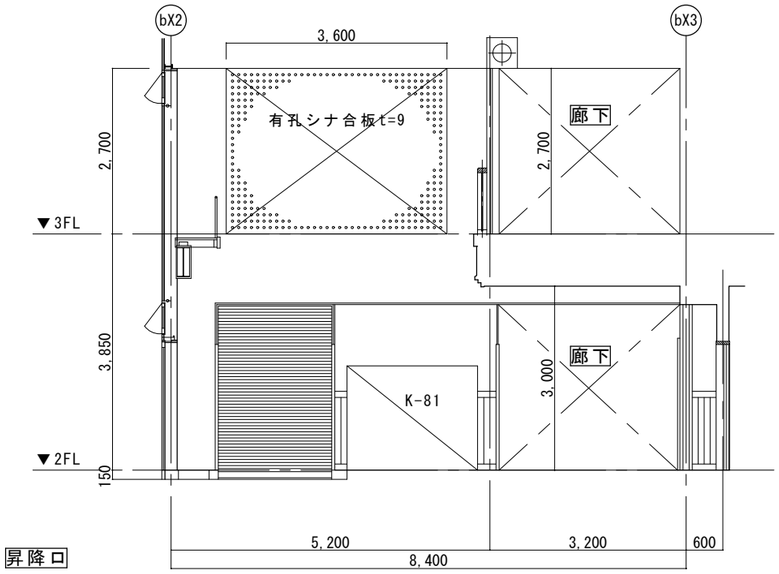
3 階 平 面 図　S=1：100

備考	訂　正	内　　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 昇降口棟 ２階・３階平面図						図　番	Ａ－２４

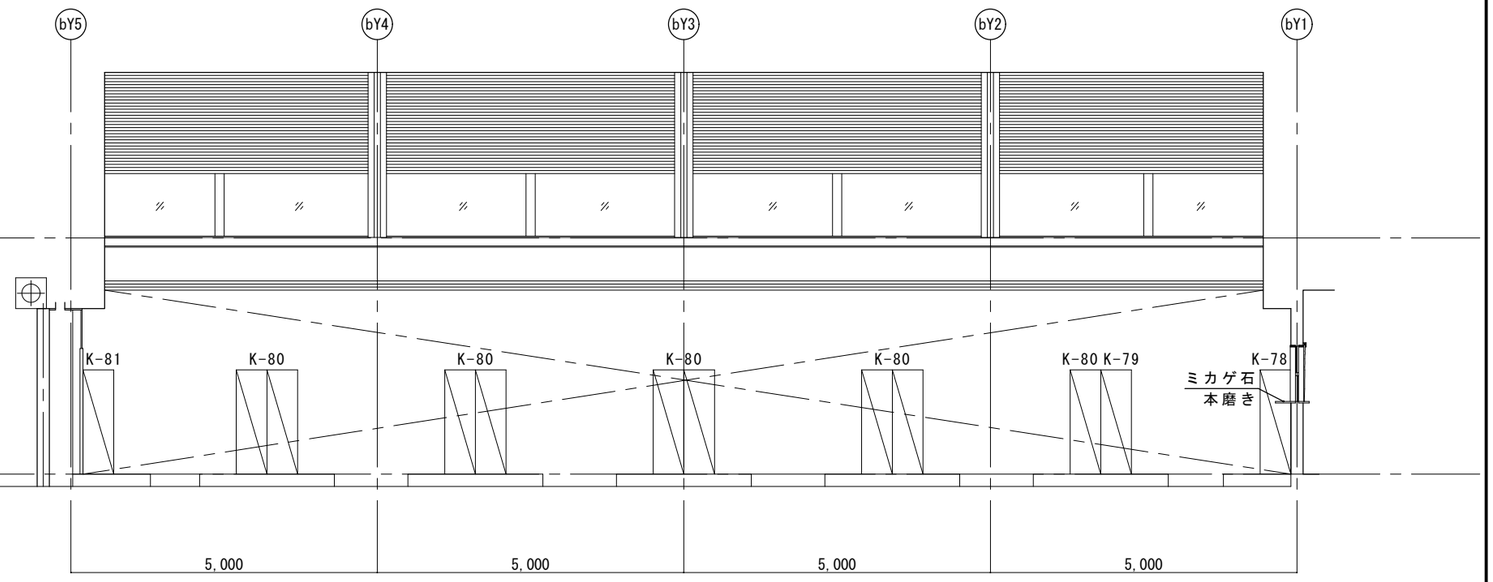


備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：60	俊 建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 昇降口棟 矩計図						図　番	Ａ－２５

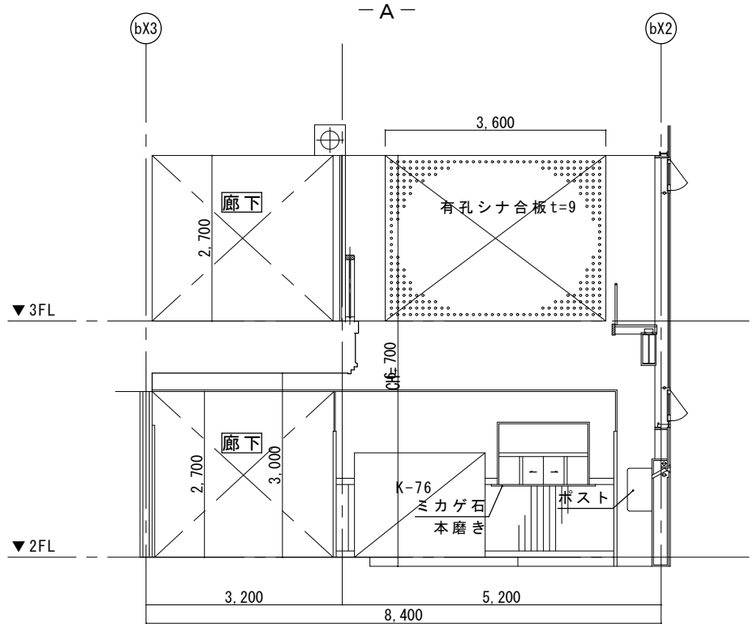
昇降口



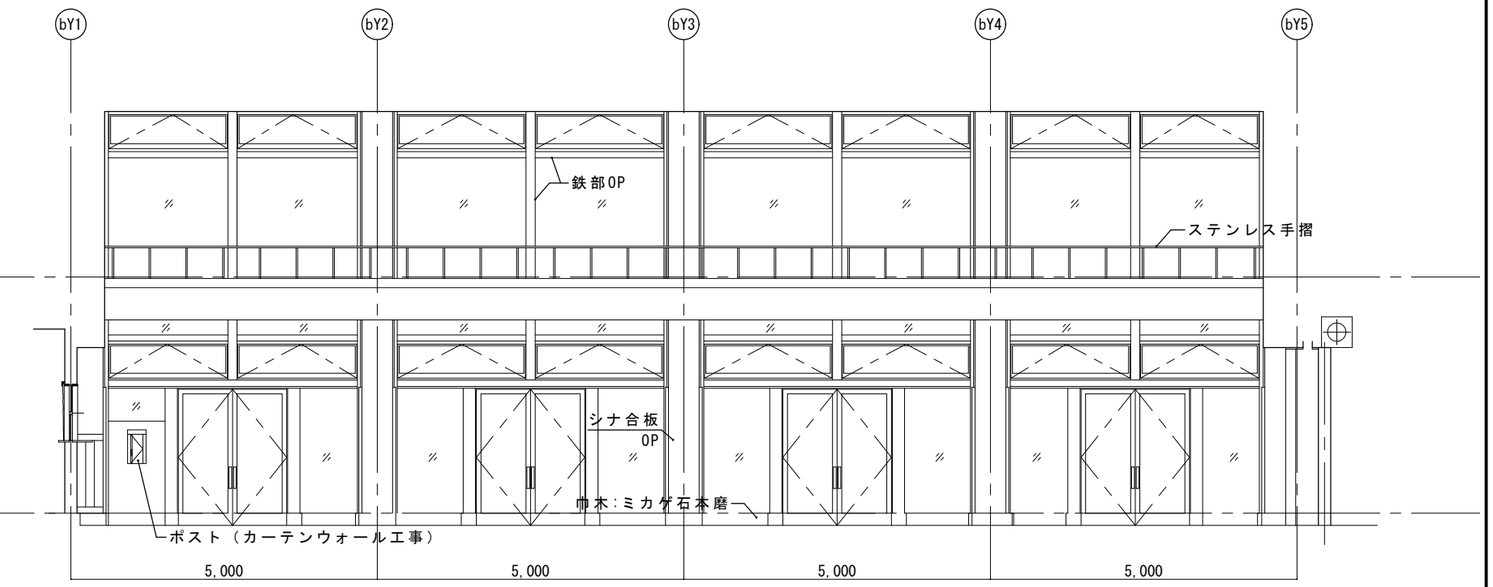
－A－



－B－

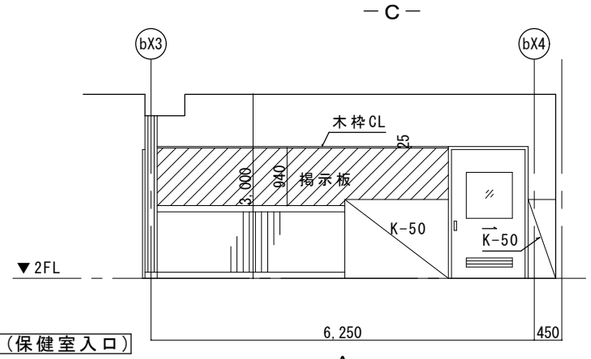


－C－

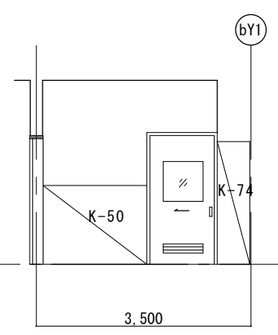


－D－

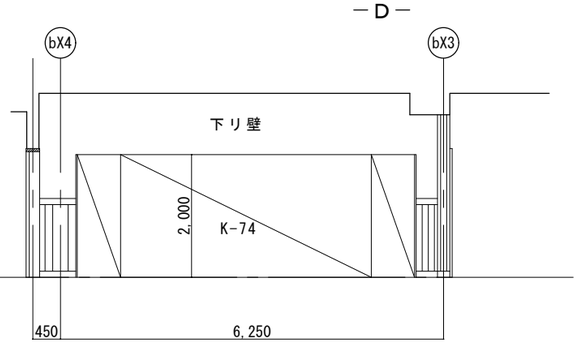
廊下（保健室入口）



－A－

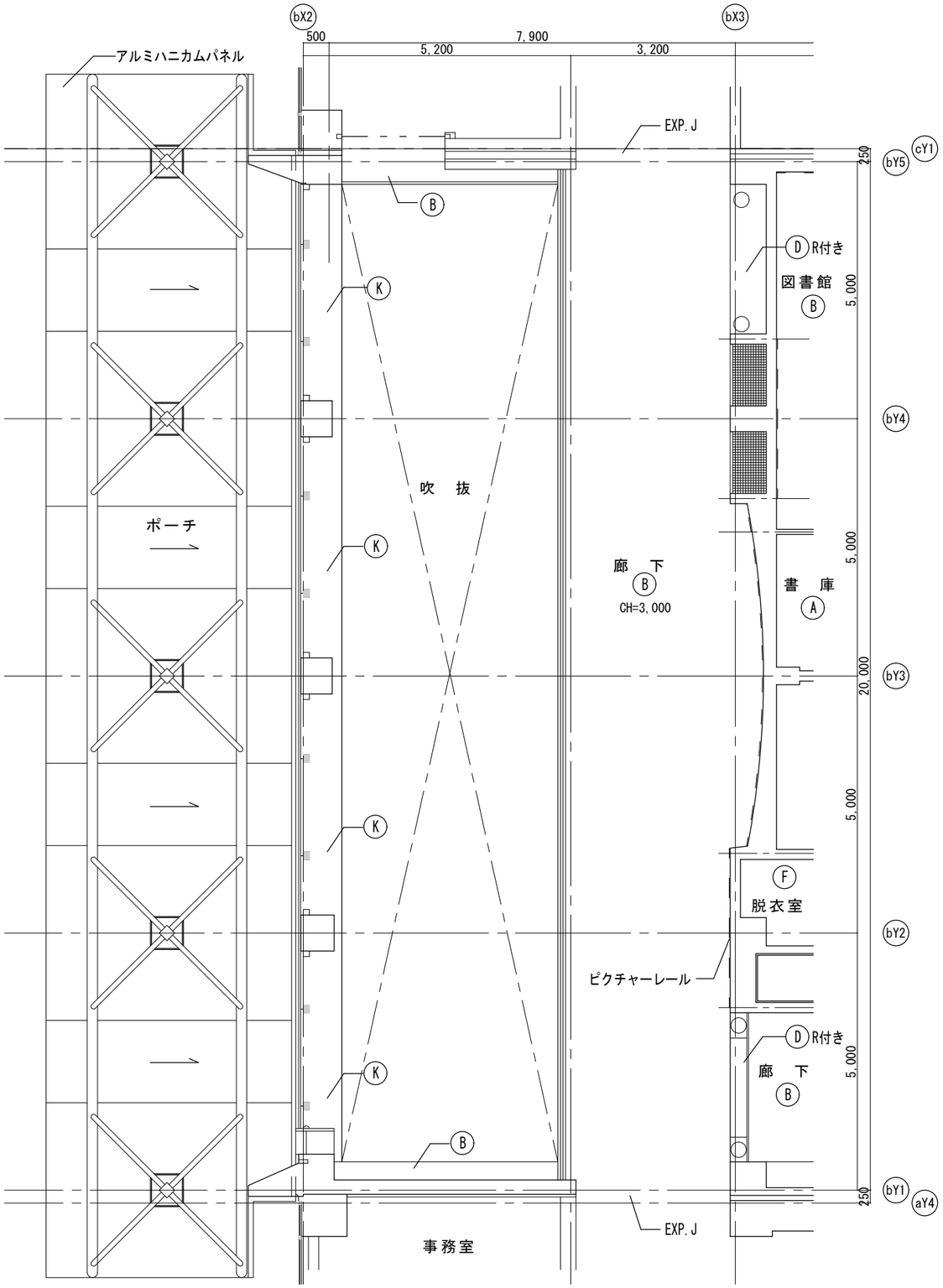


－B－



－C－

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	既存 昇降口棟 展開図						図番	A－26

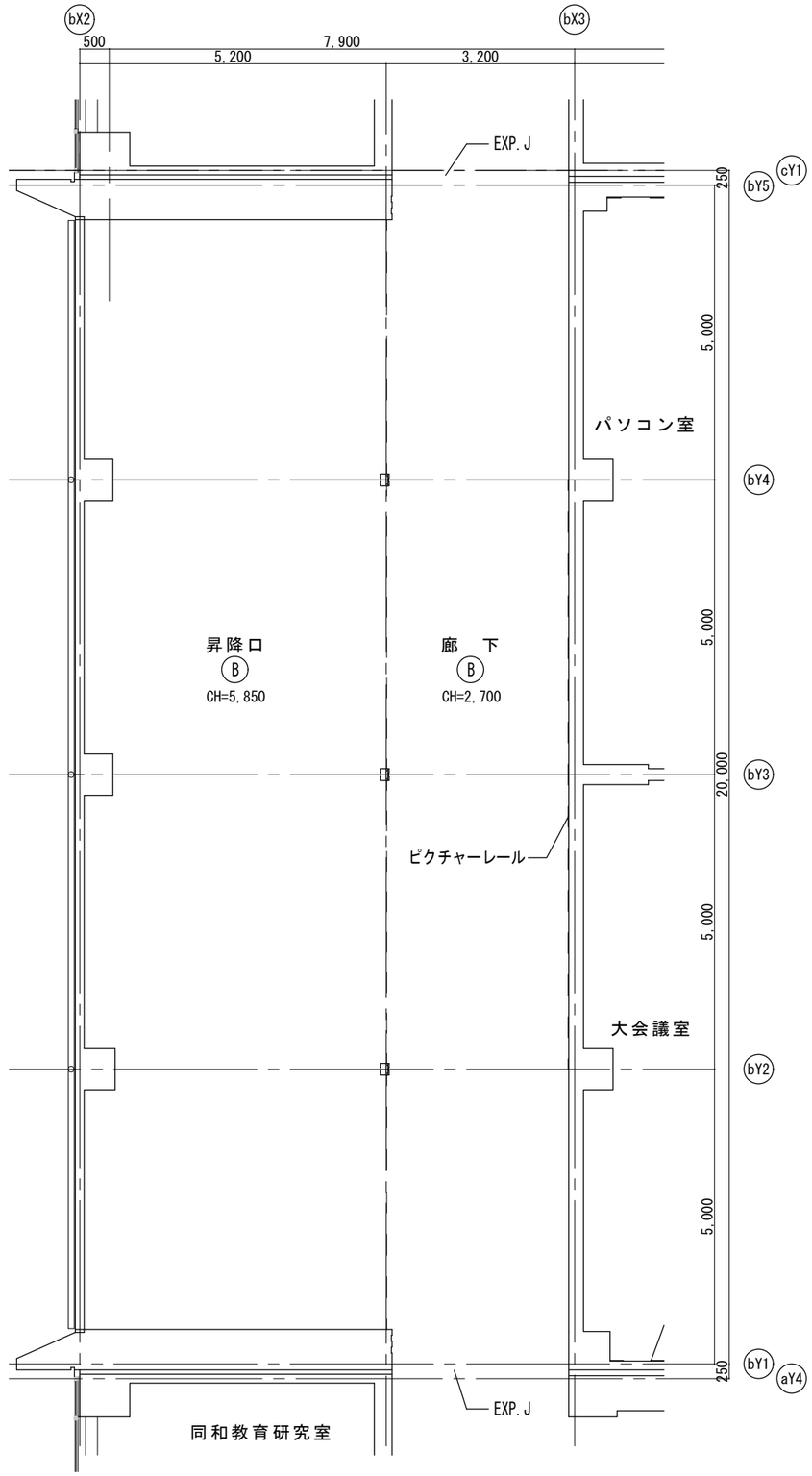


2階天井伏図　S=1：100

-凡　例-

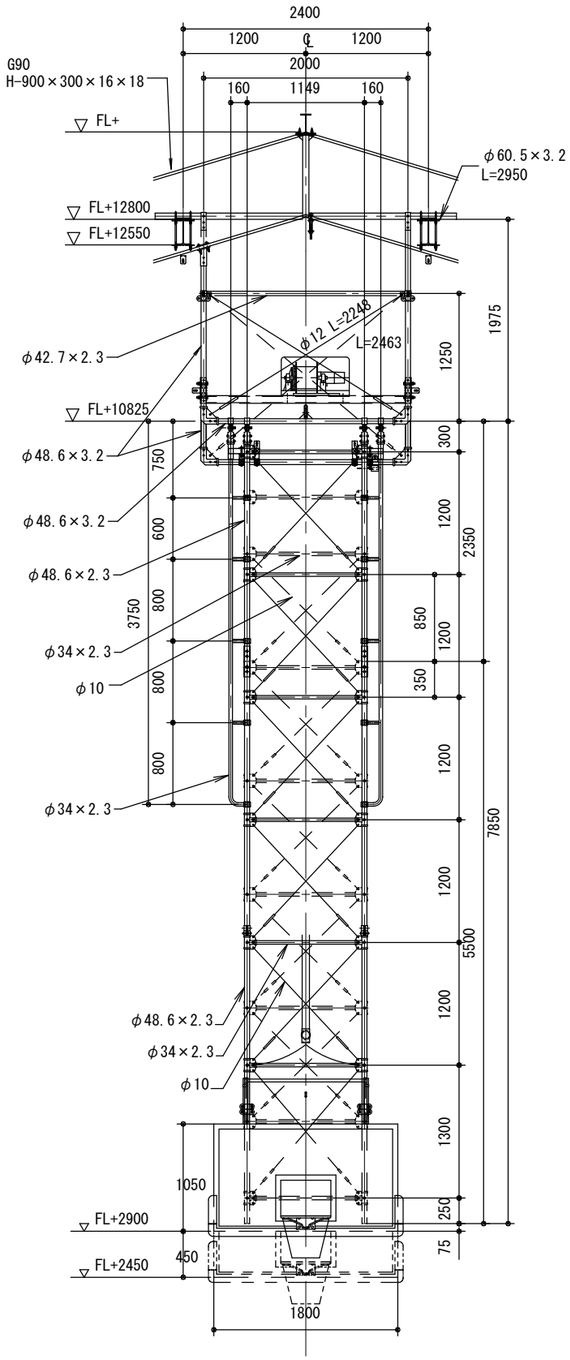
A	化粧石膏ボードァ9.5
B	化粧石膏ボード(吸音タイプ)ァ9.5
C	化粧石膏ボード(木目)ァ9.5
D	化粧石膏ボードァ9.5・EP
E	岩綿吸音板(リブ付)ァ15・石膏ボードァ9.5(下地)
F	ケイ酸カルシウム板ァ6・EP
G	ケイ酸カルシウム板(有孔)ァ6・EP
H	コンクリート打放し・吹付タイル
I	コンクリート打放し・頸し
J	グラスウール・ガラスクロス巻
K	無機質繊維入石膏ボード　t21　EP
- — -	ピクチャーレール

天井点検口　450口　17ヶ所

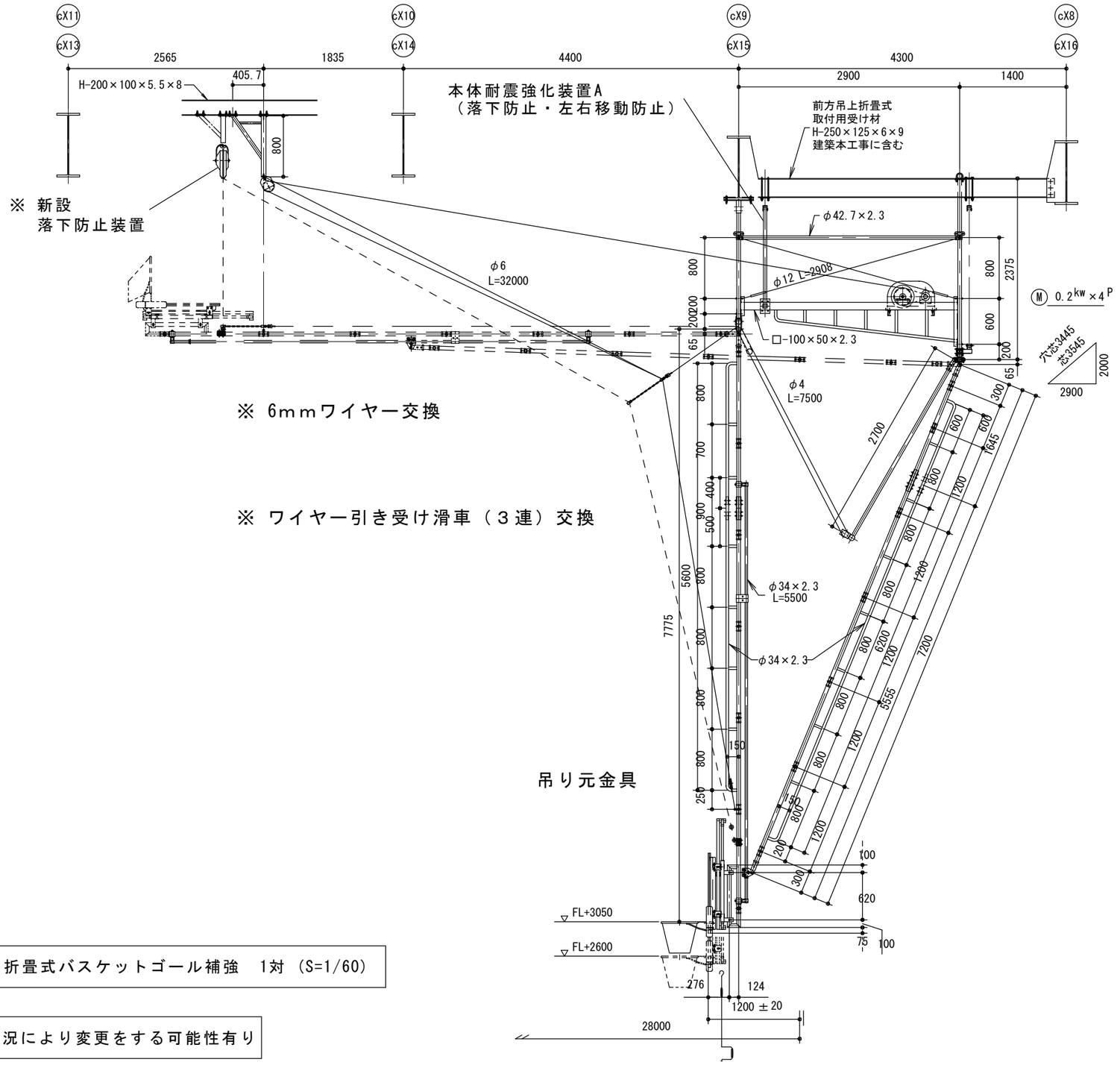


3階天井伏図　S=1：100

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存 昇降口棟 ２階・３階天井伏図						図　番	Ａ－２７



本体耐震強化装置B
（落下防止・左右移動防止）



吊り元金具

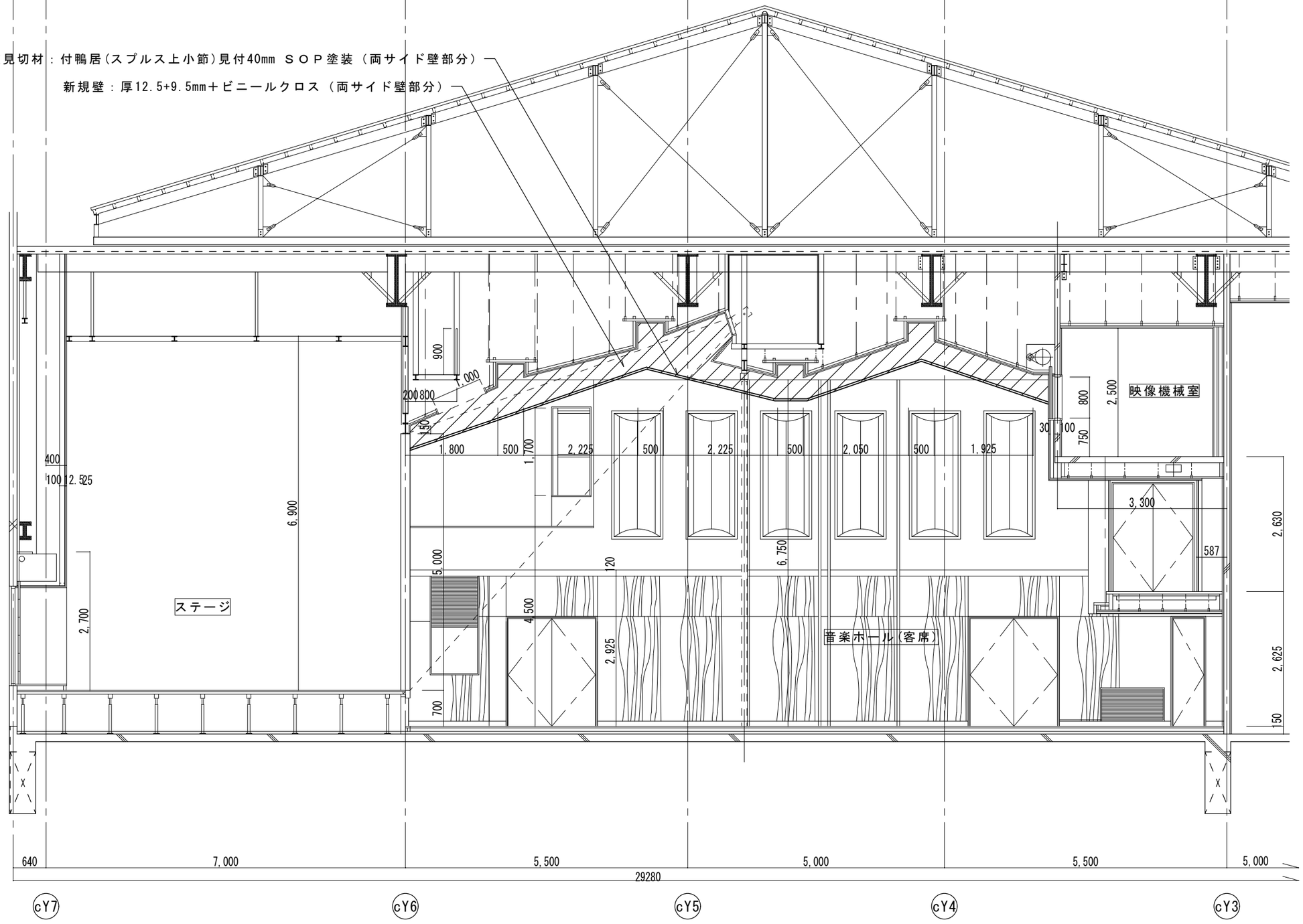
前方吊上折畳式バスケットゴール補強　1対（S=1/60）

現場の状況により変更をする可能性有り

備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：60	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	改修 屋内体育館棟 吊下式バスケットゴール補強図						図番	Ａ－２８

新規木製化粧見切材：付鴨居(スプルス上小節)見付40mm ＳＯＰ塗装（両サイド壁部分）

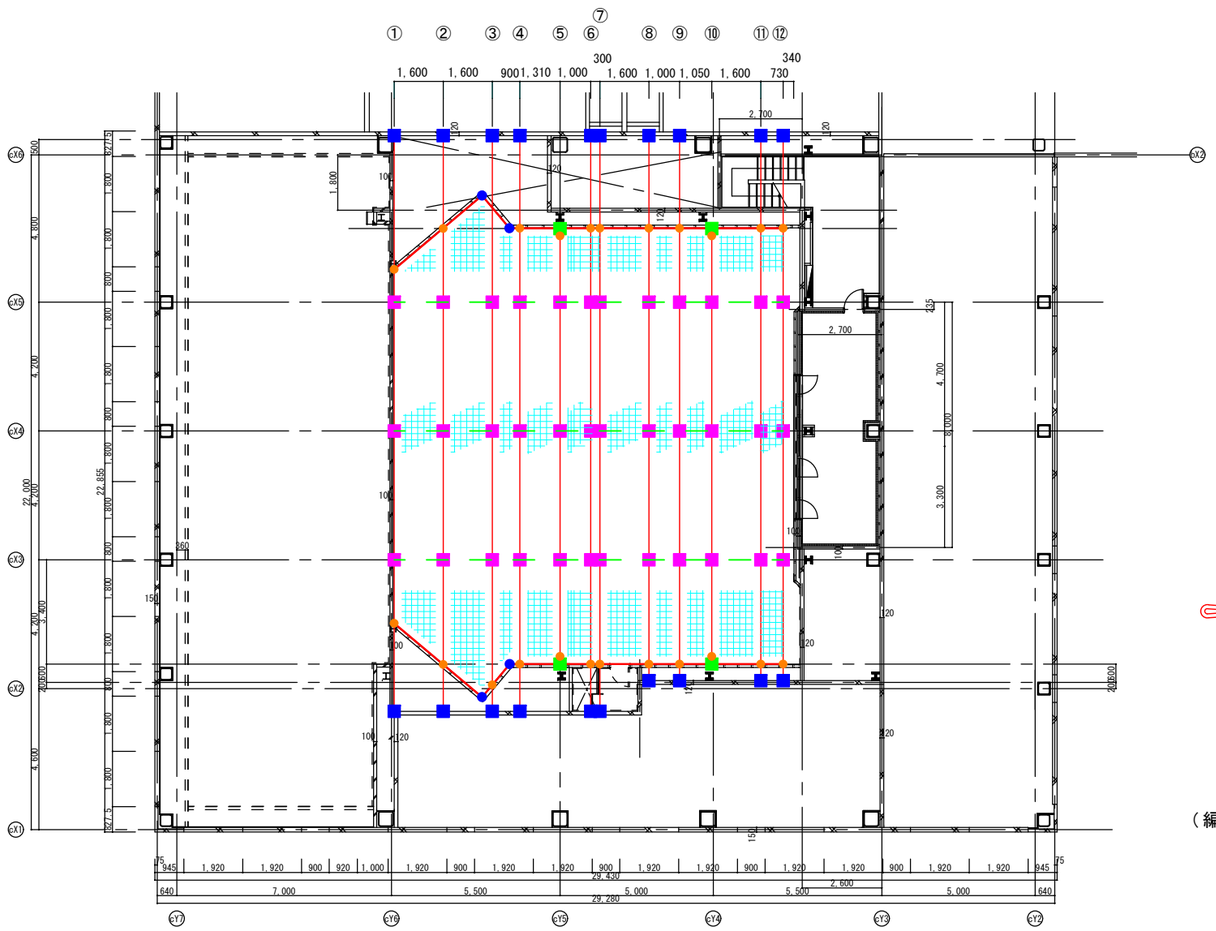
新規壁：厚12.5+9.5mm＋ビニールクロス（両サイド壁部分）



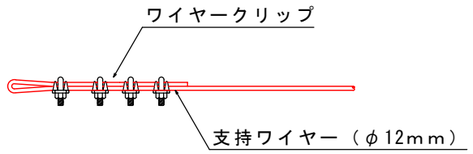
※ 音楽ホール既存天井材落下防止対策のネット張り工事用として、天井からH=450範囲の壁仕上材（両サイド）の撤去処分及び新規壁仕上材の取付を行う。

部分：既存壁仕上（厚12.5+9.5mmせっこうボード＋ビニークロス）両サイドの撤去処分範囲を示す。

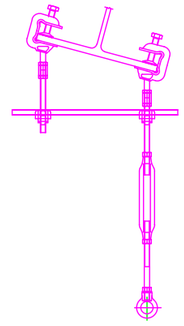
備考	訂正	内容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	Ｓ＝1：80	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日付	H27.03.25
			図面名称	改修 音楽ホール棟 内装断面詳細図						図番	Ａ－２９



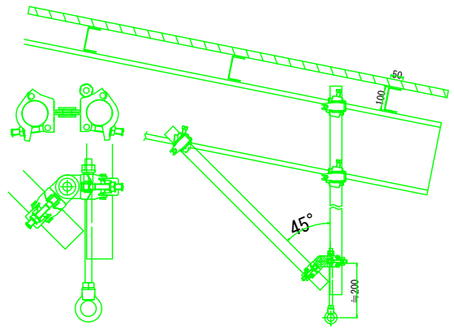
凡例



ワイヤーは1600ピッチ以内です。
金物を付ける際障害物があるときなど位置を変更して下さい。
(1600以内を守れない場合は、ワイヤーがもう一本必要です)
③-④間は照明の位置に来たので900にしてます。(⑧-⑨間1000も同様)
⑤、⑩は、断面図により大梁があるのでにD型吊金具を取付けます。
⑥-⑦間の間仕切りカーテンの位置が断面図、平面図によって違うので
おおよその位置です。(現場で合わせて下さい)
⑪-⑫間を730にしていますが寸法が不確定なので(断面図に割り付けると130)
映写室から340の位置に⑫の金物を取り付けて下さい。(扉の開きが330)

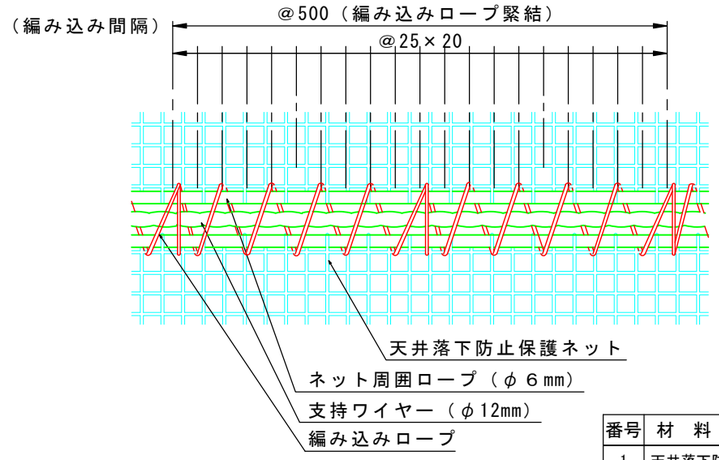


吊金具　FS-CK (B)

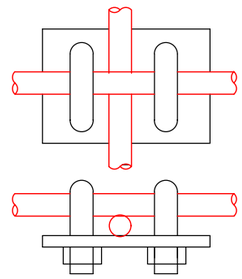


吊金具　FS-D

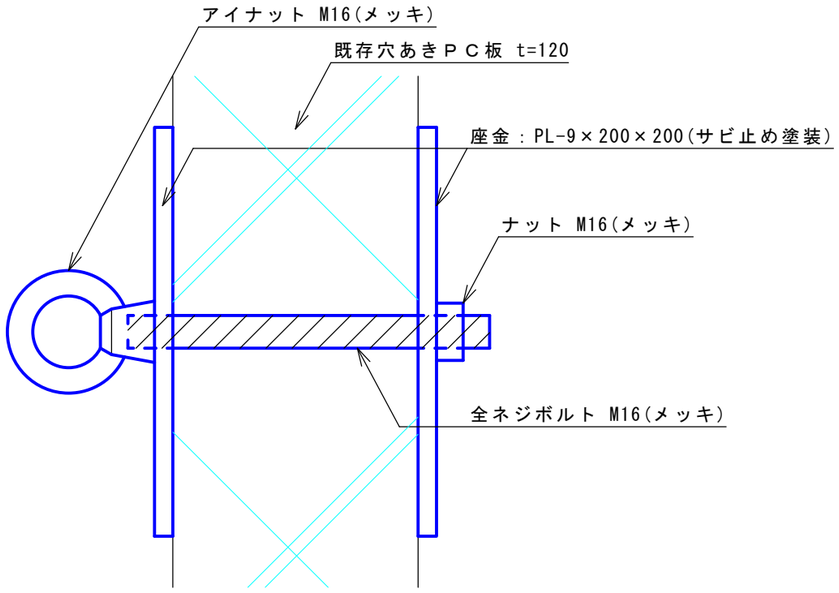
ワイヤーロープ端末詳細図



ネット取付詳細図



十字クリップ詳細図

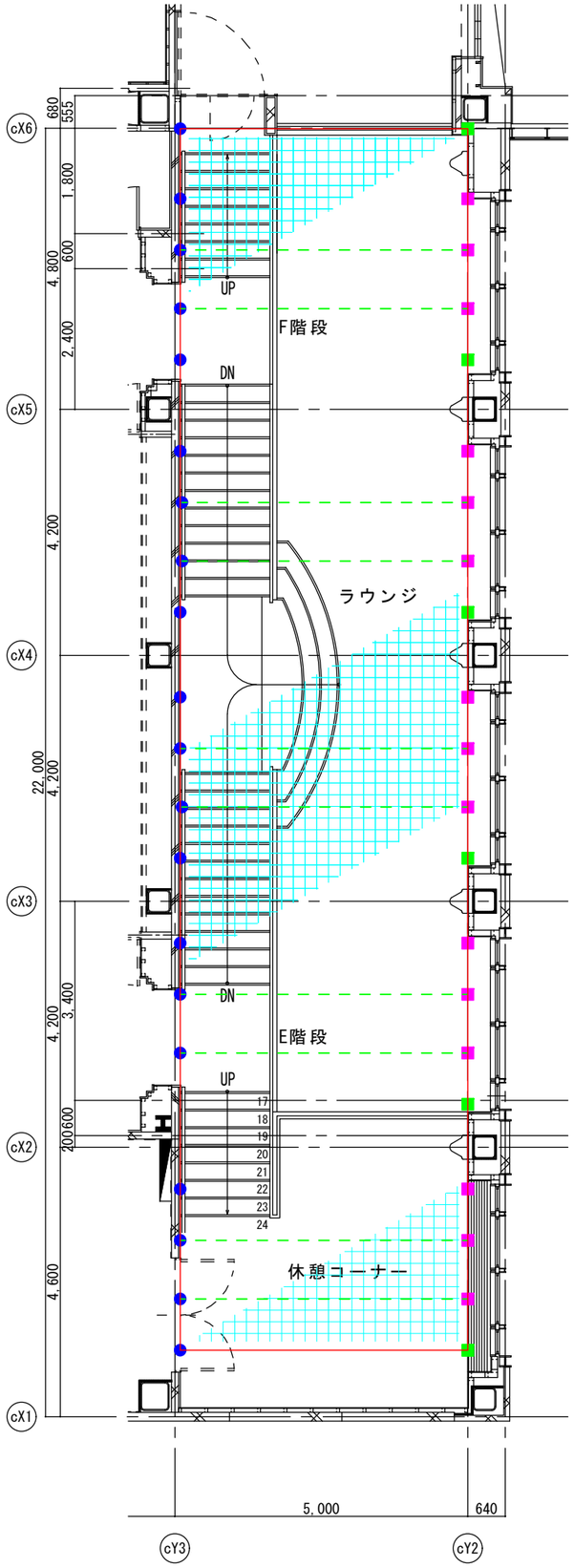


穴あけＰＣ板止め金具詳細図 S=1:2

番号	材　料　名　称	寸　法	材質　・　その他
1	天井落下防止ネット	25mm目合い(ｼﾙﾊﾞｰ)ﾗｯｾﾙ網	JK-E25 防炎ポリエステル 1840dtex/5本　270N以上
2	垂れ防止ロープ	φ6	ポリエチレン　3.8kn以上
3	ポリロープ	φ4	ポリエチレン　1.8kn以上
4	吊り金具	FS-C型　~~Bパターン~~ ~~Cパターン~~	FS-C型　(株)国元商会製　同等品
5	吊り金具	FS-D型	FS-D型　(株)国元商会製　同等品
6	ワイヤー	φ12(6×24)	メッキ
7	ワイヤークリップ	φ12	メッキ
8	ｱﾝｶｰ・ｱｲﾎﾞﾙﾄ	~~W1/2~~	メッキ
9	ボルトアンカー	~~φ20~~	メッキ
10	アイプレート	~~IP-5~~ ~~IP-6~~	ステンレス
11	ワイヤー	~~φ6(6×24)~~	メッキ
12	十字クリップ	φ12用	メッキ

Net-One-FS工法　((株)富士ネット工業　同等)

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	建築設計室	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	改修 音楽ホール棟音楽ホール 天井落下防止ネット図		S＝1：2	一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	田中 俊章		図　番	Ａ－３０



凡例

落下防止ネット

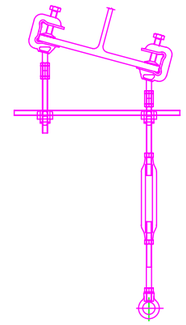
ワイヤーロープ

垂れ防止ロープ

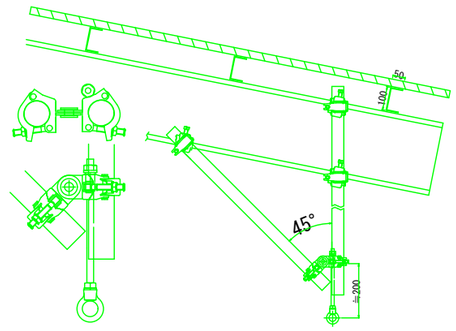
吊り金具(D)type

吊り金具(B) type

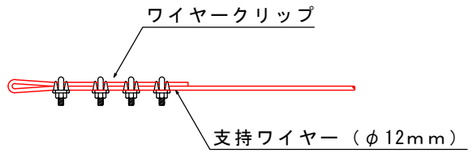
アンカー、アイボルト



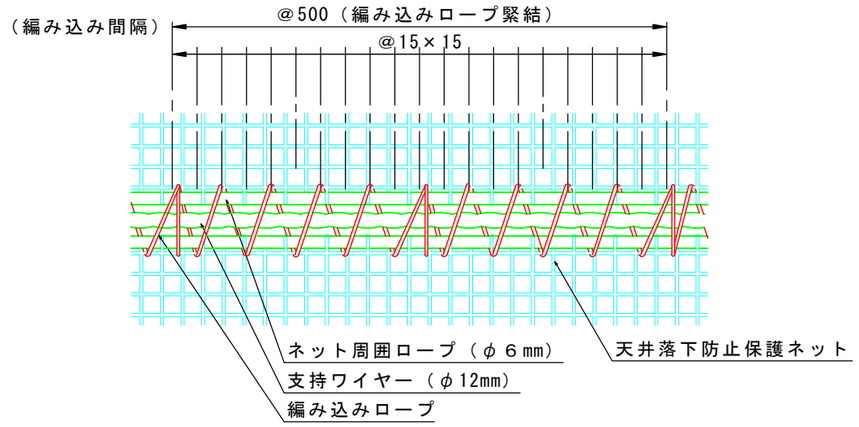
吊金具　FS-CK (B)



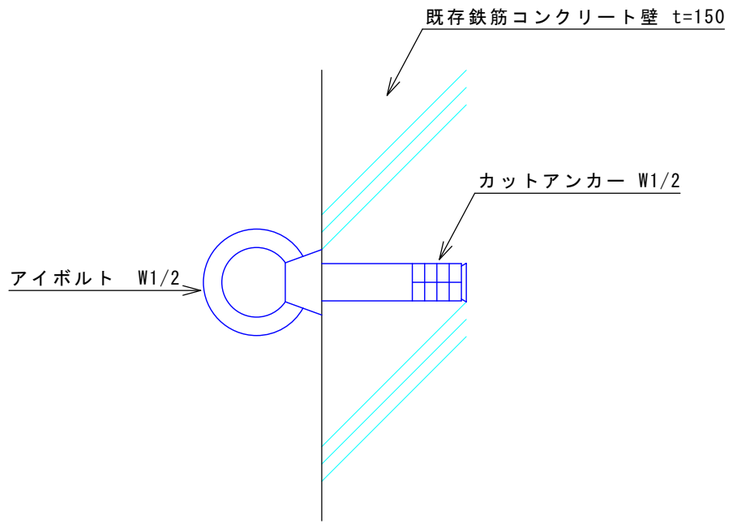
吊金具　FS-D



ワイヤーロープ端末詳細図



ネット取付詳細図

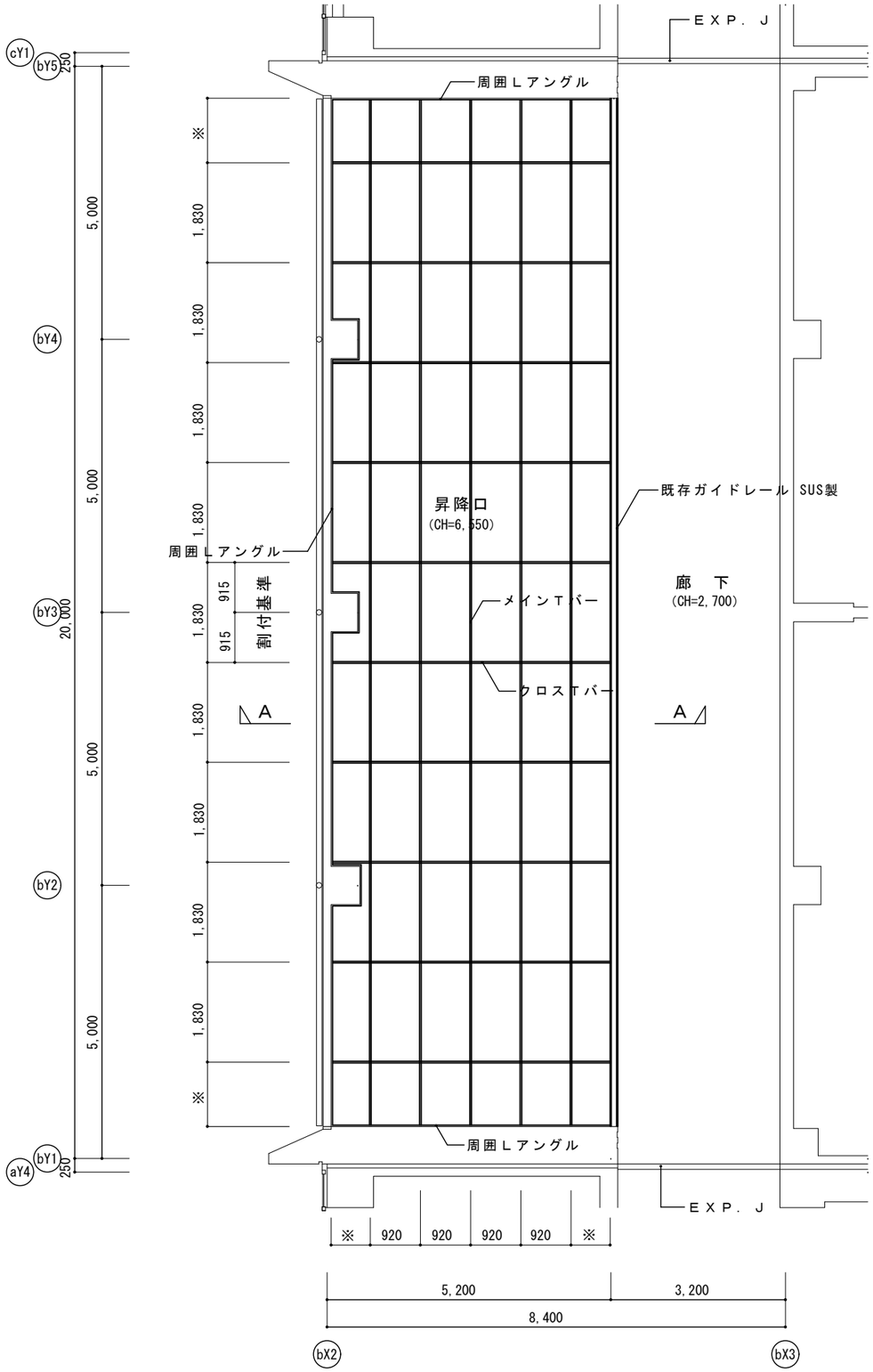


支持アンカー詳細図

番号	材　料　名　称	寸　法	材質　・　その他
1	天井落下防止ネット	15mm目合い(ｼﾙﾊﾞｰ)ﾗｯｾﾙ網	JK-P15　三菱パイレン 815dtex/10本
2	垂れ防止ロープ	φ6	ポリエチレン　3.8kn以上
3	ポリロープ	φ4	ポリエチレン　1.8kn以上
4	吊り金具	FS-C型 ~~Bパターン Cパターン~~	FS-C型　(株)国元商会製　同等品
5	吊り金具	FS-D型	FS-D型　(株)国元商会製　同等品
6	ワイヤー	φ12(6×24)	メッキ
7	ワイヤークリップ	φ12	メッキ
8	ｱﾝｶｰ・ｱｲﾎﾞﾙﾄ	W1/2	メッキ
9	ボルトアンカー	~~φ20~~	メッキ
10	アイプレート	~~IP-5~~ ~~IP-6~~	ステンレス
11	ワイヤー	φ6(6×24)	メッキ
12	アンカープレート	~~φ12用~~	メッキ

Net-One-FS工法　((株)富士ネット工業　同等)

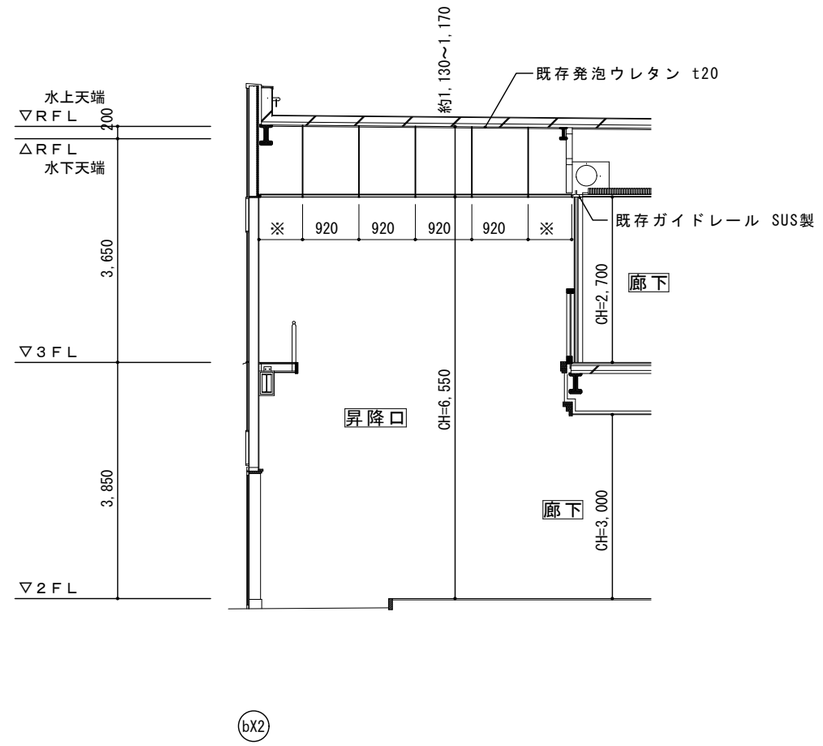
備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	改修 音楽ホール棟ラウンジ 天井落下防止ネット図						図　番	Ａ－３１



昇降口システム天井伏図　S=1:100

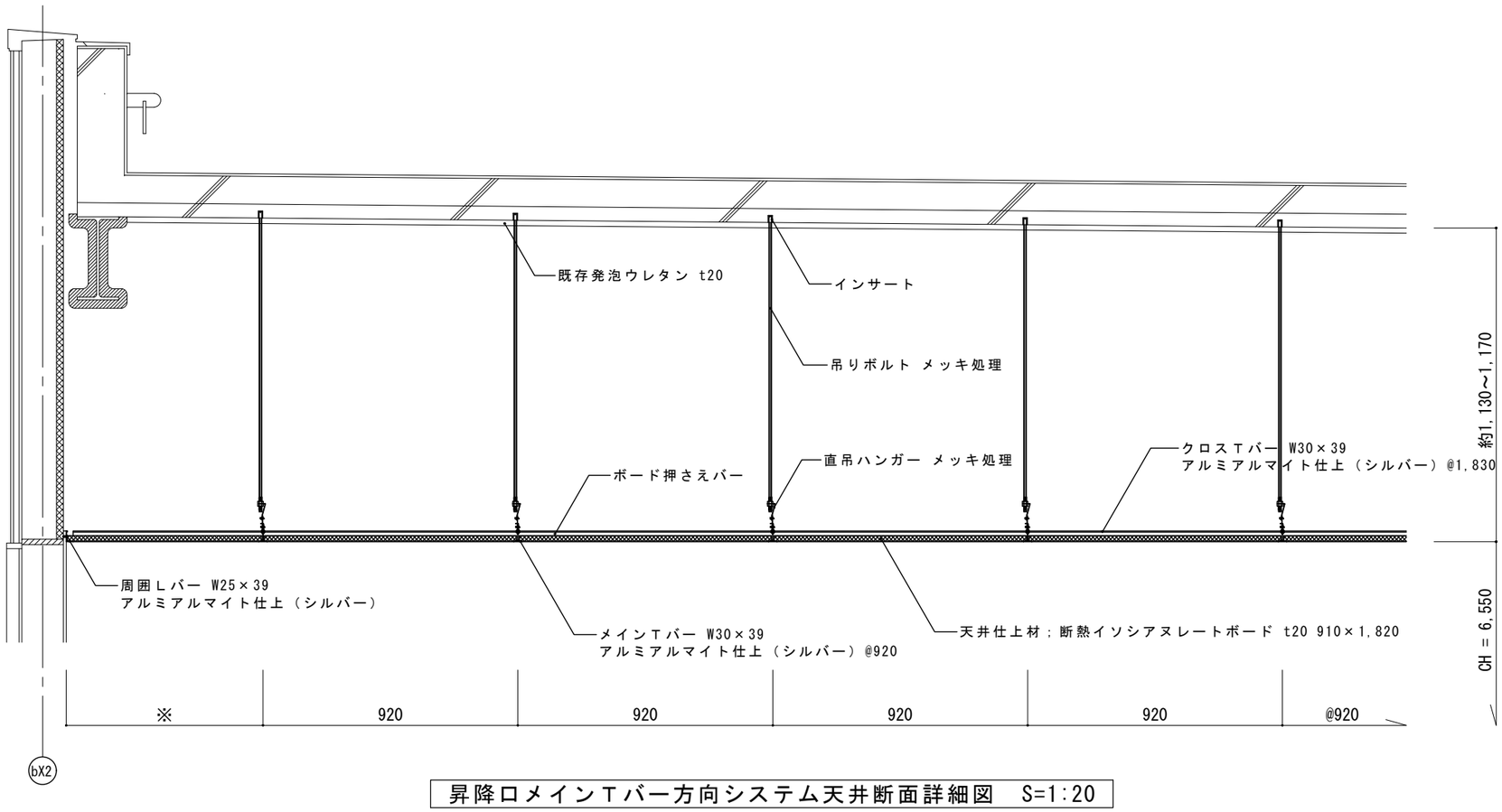
昇降口　システム天井　仕様表（直吊工法）　ＣＨ＝６５５０

天井仕上材；断熱イソシアヌレートボードｔ２０　９１０×１８２０
メインＴバー　Ｗ３０×３９　アルミアルマイト仕上（シルバー）@９２０
クロスＴバー　Ｗ３０×３９　アルミアルマイト仕上（シルバー）@１８３０
周囲Ｌバー　Ｗ２５×３９　アルミアルマイト仕上（シルバー）
吊りボルト　メッキ処理
直吊ハンガー　メッキ処理
ボード押さえバー

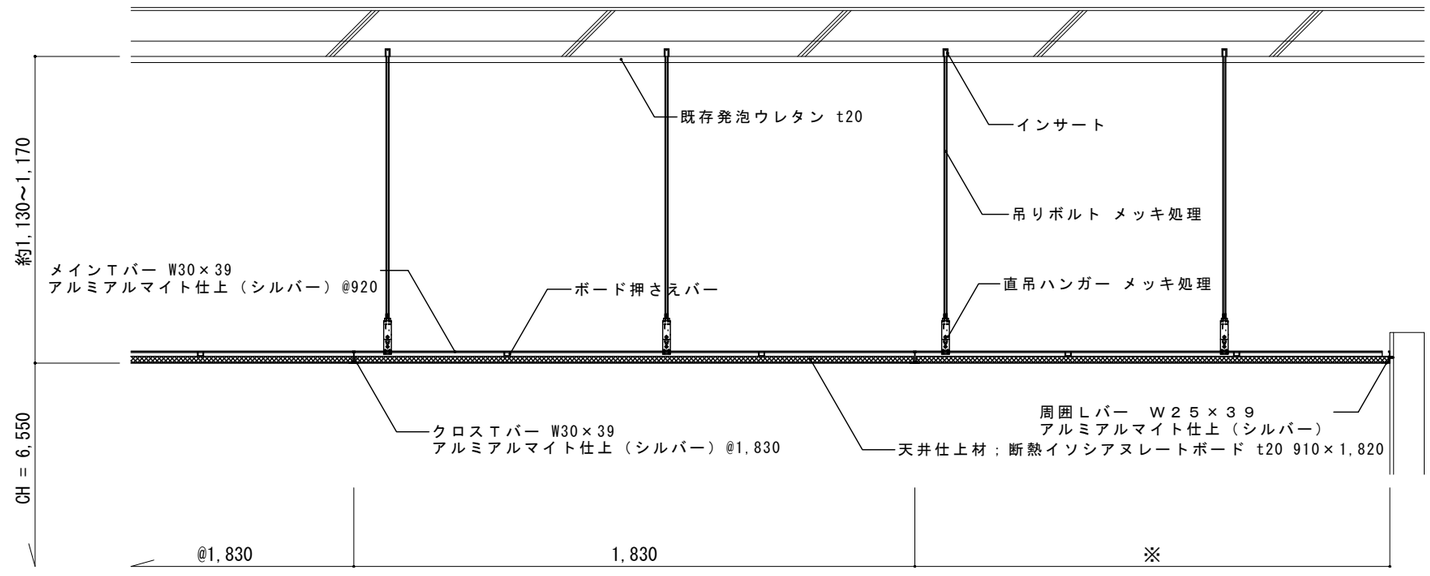


Ａ － Ａ断面図　S=1:100

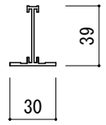
備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	Ｓ＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	改修 昇降口棟昇降口 天井耐震補強図①						図　番	Ａ－３２



昇降口メインＴバー方向システム天井断面詳細図　S=1:20

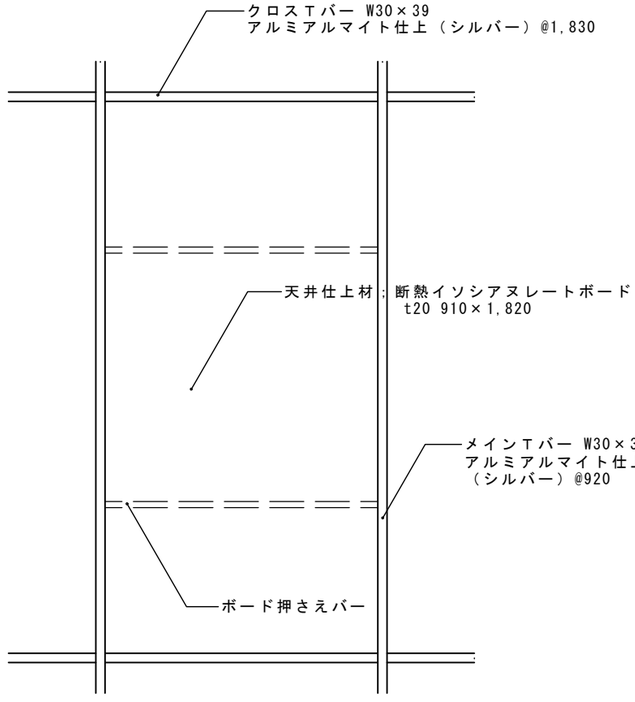


昇降口クロスＴバー方向システム天井断面詳細図　S=1:20



（Ｔバー）

天井部材詳細図　S=1:4



平面詳細図　S=1:20

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：20 S＝1：4	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査 閲 主 任 製 図	日　付	H27.03.25
			図面名称	改修 昇降口棟昇降口 天井耐震補強図②						図　番	Ａ－３３

電気設備工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事件名	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	
2．工事場所	東御市下之城947番地	
3．建物概要	1．	
	2．	
	3．	
	4．	
	5．	

4．工事種目	1．受変電設備工事	・	7．ﾃﾚﾋﾞ共聴設備工事	・
	2．自家発電設備工事	・	8．放送時計設備工事	・
	3．幹線動力設備工事	・	9．自動火災報知設備工事	⊙
	4．電灯ｺﾝｾﾝﾄ設備工事	⊙	10．	・
	5．照明器具設備工事	⊙	11．	・
	6．電話配管設備工事	・	12．	・

Ⅱ．一般事項

1．共通仕様　本工事は、前記工事種目に対する電気設備工事を施工する物に於いて、別紙図面並びに本特記仕様書に依る他、電気事業法に基ずく「電気設備技術基準」、電力会社に於ける「内線規定」、国土交通省大臣官房庁営繕部による「電気設備工事共通仕様書」、「電気設備工事標準図」（各最新版）、並びに消防法令、その他関係法令に準拠し、施工するものとする。

2．疑義　設計図書に記載がなくても、法規上、技術上、構造上必要と思われる物については、請負者の負担において係員の指示に従い最良の施工を行う。

3．事前承認　本工事の施工に於いて、工程表、ﾒｰｶｰﾘｽﾄ、施工図、機器承認図は、事前に係員に提出し、承認を得た後、施工又は製作するものとする。

4．申請手続　本工事の電力会社及び諸官庁への手続きは、本工事請負者がすべて行い、そのための費用は、請負者の負担とする。

5．提出書類　請負者は、工事完了後速やかに完成図、工事写真、機器保証書、機器取扱説明書を係員の指示に従い提出すること。

6．設計変更　施工段階において大規模な設計変更が生じたり、又、大規模な追加工事が発生した場合には、すみやかに係員に報告すると共に追加見積書を提出する。

7．優先順位　本工事の仕様、設計図書等の優先順位は、下記による。

1．現場説明書、質疑応答書
2．特記仕様書
3．設計図面
4．国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　電気設備工事共通仕様書　（最新版）

8．材料検査　本工事において使用する機材類の内、特に必要と思われるものは、各製作工場において係員立ち会いのもとに、性能試験検査を行う。
尚、試験に要する諸費用は、請負者の負担とする。

9．工事保証　建物の竣工引き渡し後、　　年以内において工事不良の為生じたと認められる損害は、請負者の負担で復旧する。

Ⅲ．特記事項

1．スイッチ，コンセント	埋込スイッチ，コンセントは、大角形とする。
2．フラッシュプレート	プレートは、新金属製とする。
3．蛍光灯	高力率型、省電力、又４０W以上は、ラピットスタート型とする。
4．照明器具の取付	蛍光灯ＦＬ２０W＊２、ＦＬ４０W以上、及びＨＩＤ灯の取付には、６㎜以上の吊りボルトを使用のこと。
5．接地工事	盤及び金属管類には、必ず接地工事を施すこと。
6．接地極	第１種接地工事の接地極は、銅板９００＊９００＊１．５ｔを使用する。
7．幹線の表示	幹線等には、行く先を書いた札を取り付ける。
8．塗装	露出配管及びボックス類は、全て塗装ＯＰ２回塗りとする。
9．予備線	空配管には、全てビニル被覆鉄線を挿入しておく。

Ⅳ．工事区分

工事内容＼工事種別	電　気	機　械	建　築	その他	備　考
壁、床のスリー及び箱入れ。	・	・	・	・	
梁、基礎梁のスリーブ	・	・	・	・	
機器基礎コンクリート	・	・	・	・	
はつり、穴開け補修	・	・	・	・	
同上補強工事	・	・	・	・	
天井開口補強	⊙	・	・	・	
配線、配管ピット及び蓋工事	・	・	・	・	
空調機器操作スイッチ及び取付	・	・	・	・	
同上配管及びＳＢ	・	・	・	・	
エアコン内外機間の配管、配線	・	・	・	・	
換気扇及び枠の取付	・	・	・	・	
液面スイッチ及び取付	・	・	・	・	
同上配線	・	・	・	・	
シャッタースイッチ及び取付	・	・	・	・	
同上配管及びＳＢ	・	・	・	・	
昇降機インターホン	・	・	・	・	
同上配管及びＢＯＸ	・	・	・	・	
同上配線	・	・	・	・	
他制御機器の配管ＢＯＸ	・	・	・	・	
同上配線	・	・	・	・	
外壁ガラリ	・	・	・	・	
煙突工事	・	・	・	・	
消火器	・	・	・	・	
	・	・	・	・	
	・	・	・	・	
	・	・	・	・	

Ⅴ．機器取付高

機器取付高さは、特に指示なき場合下表を原則とする。

名　称	取付高（㎜）	名　称	取付高（㎜）
「電灯、動力」		「火災報知」	
計　量　器	地上＋上端　1800	受信機、副受信機	地上＋操作部　800-1500
引込用開閉器	床上＋上端　1800	電　　鈴	床上＋中心　2300
分　電　盤	1900	総合盤、発信器	800-1500
ブラケット（洗面器）	鏡　上　150	感知器試験器	800-1500
スイッチ	床上＋中心　1300	「電鈴、表示」	
コンセント（一般）	300	呼出ブザー	床上＋中心　2300
コンセント（台上）	台上＋中心　150	壁付押釦	1300
コンセント（和室）	たたみ上　150	表示盤	2300
手元開閉器	床上＋中心　1500	「電気時計、拡声、テレビ」	
壁掛型制御盤	床上＋上端　1900	壁掛スピーカー	床上＋中心　2300
「電話、インターホン」		アッテネーター	1300
端　子　盤	床上＋下端　300	壁掛子時計	床上＋中心　2300
アウトレット（一般）	床上＋中心　300	テレビ端子（一般）	300
アウトレット（和室）	たたみ上　150	テレビ端子（和室）	たたみ上　150
壁付インターホン	床上＋中心　1500		

Ⅵ．設備機材等指定

1．ＪＩＳ適合品　電線管類及び同付属品、電線ケーブル（ＩＶ　ＶＶ　ＯＷ）同付属品、計器継電気、コンデンサー、配線器具類、蛍光ランプ、安定器等。

2．認定、検定品　耐火、耐熱電線、非常放送設備、火災報知設備等消防設備。

3．業者指定品　ＣＶ　ＣＥ　ＣＶＶ電線、通信ケーブル、変圧器、照明器具、配電盤、分電盤、端子盤、火災報知設備、拡声装置等の製造業者は、　　指定業者リストによる。

照　明　器　具	ノートン	パナソニック電工	東芝ライテック
盤　　類	日新電機製作所	和幸電機製作所	中川電機製作所
	内　外　電　機	パナソニック電工	
自　動　火　災　報　知	能美防災工業	ホ　ー　チ　キ	パナソニック電工
電　　話	日　本　電　気	富　士　通	沖電気工業
放　　送	日本ビクター	パナソニック	Ｔ　Ｏ　Ａ
テ　レ　ビ	マスプロ電工	日本アンテナ	八木アンテナ
イ　ン　タ　ー　ホ　ン	ア　イ　ホ　ン	東芝ライテック	パナソニック電工
電　気　時　計	ＴＩＣシチズン	服部セイコー	パナソニック電工
避　雷　針	大阪避雷針	東京避雷針	ワールド避雷針
発　電　機	ヤ　ン　マ　ー	三　菱　電　機	パナソニック電工

備考	訂　正	内　容

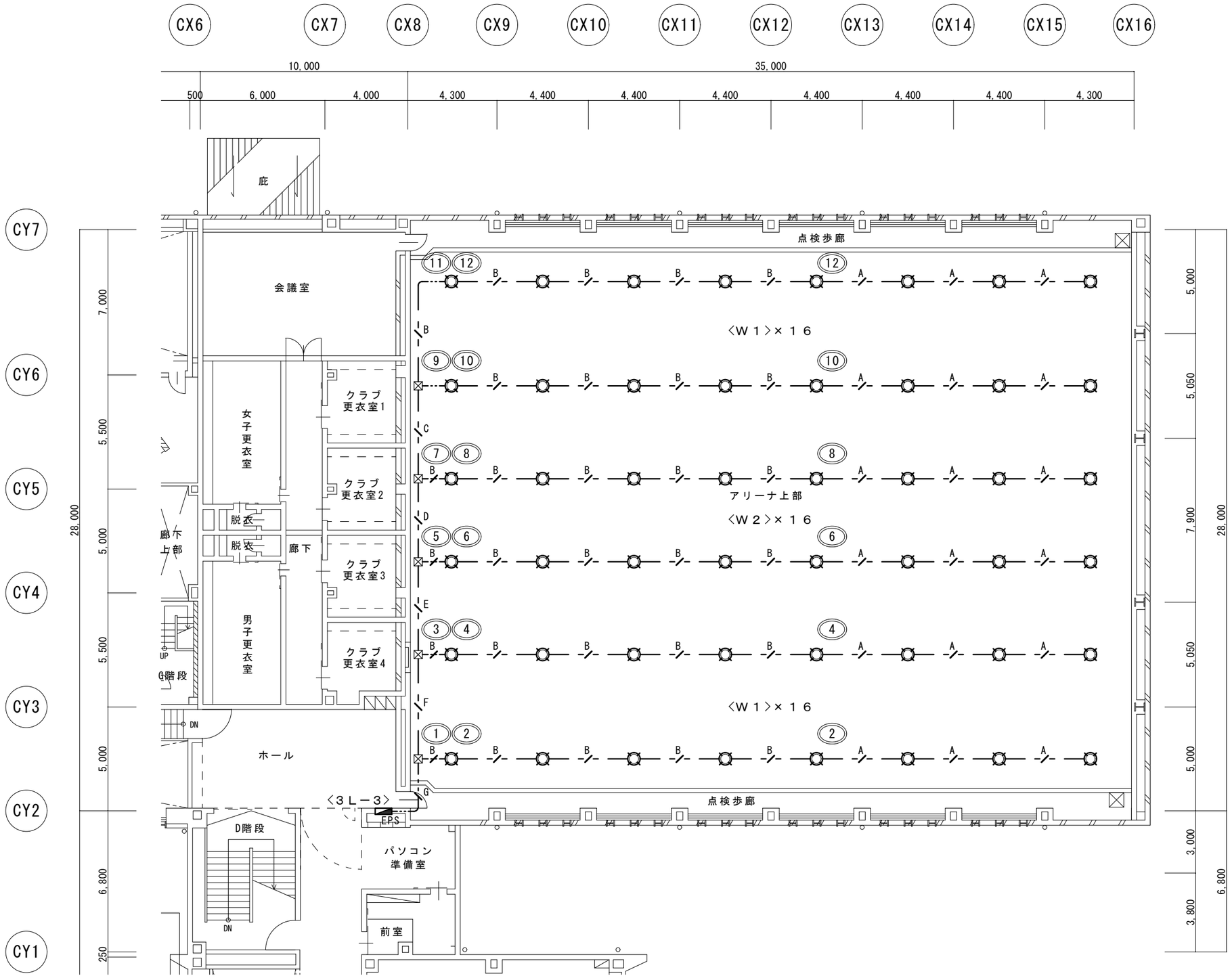
工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事
図面名称	電気設備工事　特記仕様書

縮尺

俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office
一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号
〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109
一級建築士大臣登録　第307529号
管理建築士
田中 俊章

査閲	主任	製図

日　付	H27.03.25
図　番	Ｅ－０１



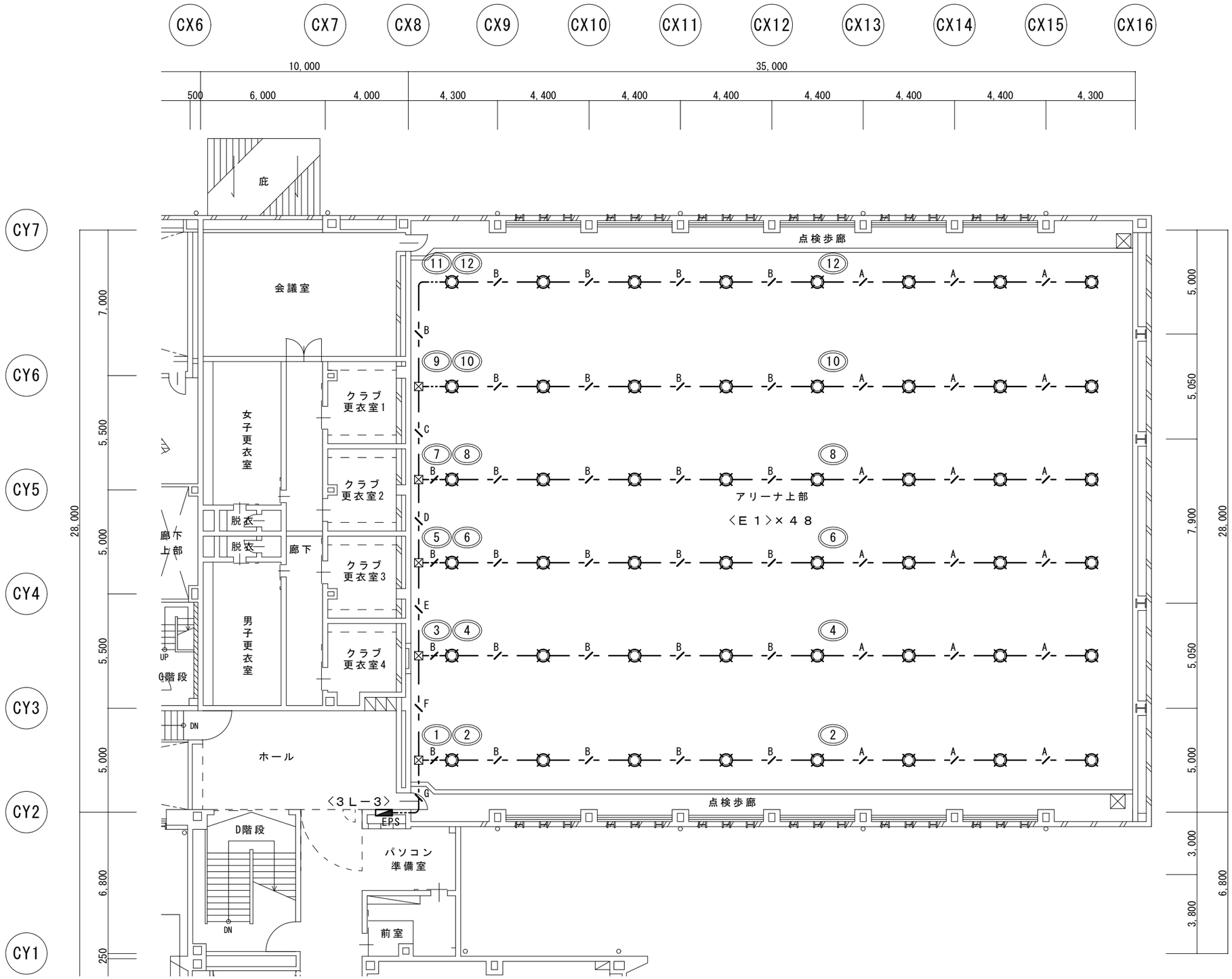
アリーナ照明用配管配線は下記による。

記号	配管配線		区分
A	IV 2.0 x 2 E1.6	(19)	照明
	IV 1.6 x 3	(19)	昇降
B	IV 2.0 x 4 E1.6	(25)	照明
	IV 1.6 x 3	(19)	昇降
C	IV 2.0 x 6 E1.6	(31)	照明
	IV 1.6 x 6	(25)	昇降
D	IV 2.0 x 12 E1.6	(39)	照明
	IV 1.6 x 9	(31)	昇降
E	IV 2.0 x 8 E1.6	(31)	照明
	IV 2.0 x 8	(31)	照明
	IV 1.6 x 12	(31)	昇降
F	IV 2.0 x 10 E1.6	(31)	照明
	IV 2.0 x 10	(31)	照明
	IV 1.6 x 15	(39)	昇降
G	IV 2.0 x 12 E1.6	(39)	照明
	IV 2.0 x 12	(39)	照明
	IV 1.6 x 18	(39)	昇降

W1	MF400W x 1
W2	MF700W x 1

（オートリフター・安定器内蔵型）

備考	訂正	内容							
			工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所 長野県知事登録 上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753 TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録 第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図 日付 H27.03.25
			図面名称	既存 屋内体育館棟 電灯設備３階平面図、照明器具姿図					図番 E－02

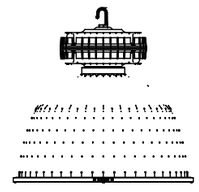


アリーナ照明用配管配線は下記による。

記号	配管配線		区分
A	IV 2.0 x 2 E1.6	(19)	照明
B	IV 2.0 x 4 E1.6	(25)	照明
C	IV 2.0 x 6 E1.6	(31)	照明
D	IV 2.0 x 12 E1.6	(39)	照明
E	IV 2.0 x 8 E1.6	(31)	照明
	IV 2.0 x 8	(31)	照明
F	IV 2.0 x 10 E1.6	(31)	照明
	IV 2.0 x 10	(31)	照明
G	IV 2.0 x 12 E1.6	(39)	照明
	IV 2.0 x 12	(39)	照明

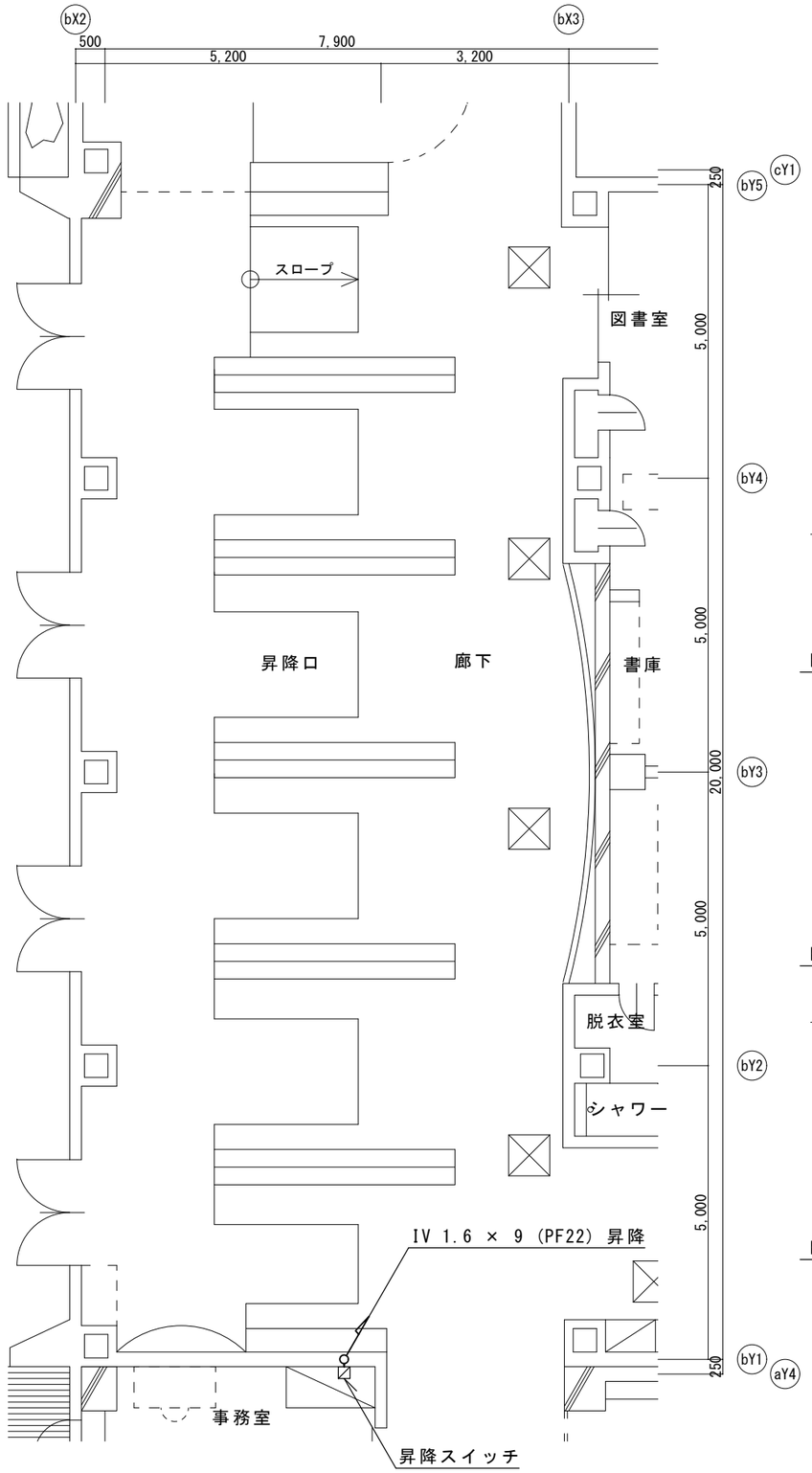
E1	AJA300W×1　高天井用　直付型

ｲﾝﾊﾞｲﾀｰ、器具一体型、ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｲﾄ製ｶﾊﾞｰ付
〈AJA-HB020-300W ﾉｰﾄﾝ〉

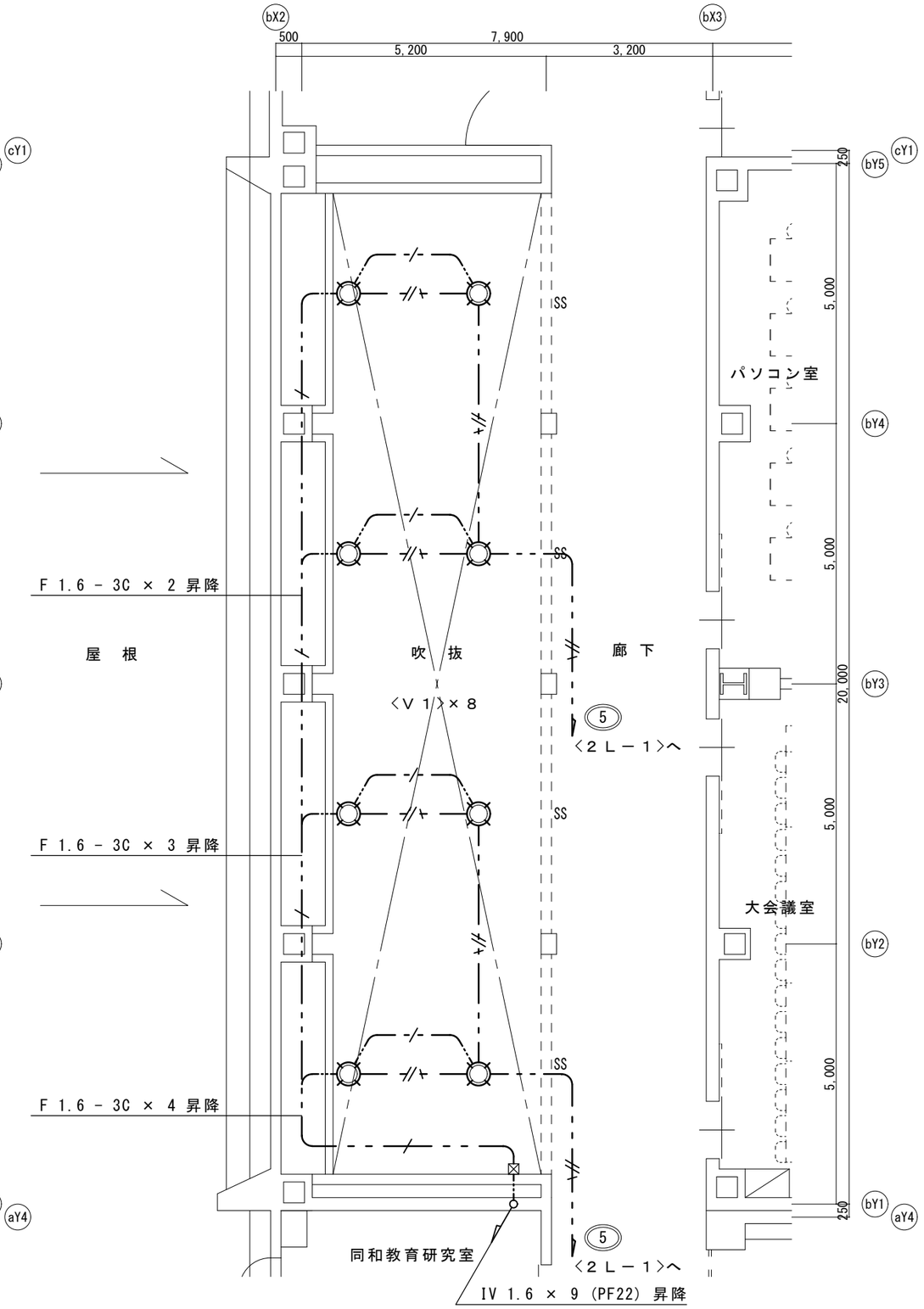


※補強ﾜｲﾔｰ〈LEDX-40053W 東芝〉2ヶ所／台共

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：200	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　TEL0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	改修 屋内体育館棟 電灯設備3階平面図、照明器具姿図						図　番	E－03



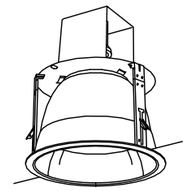
2 階 平 面 図　S=1：100



3 階 平 面 図　S=1：100

V 1	MF250W × 1

（オートリフター）



＜特記事項＞

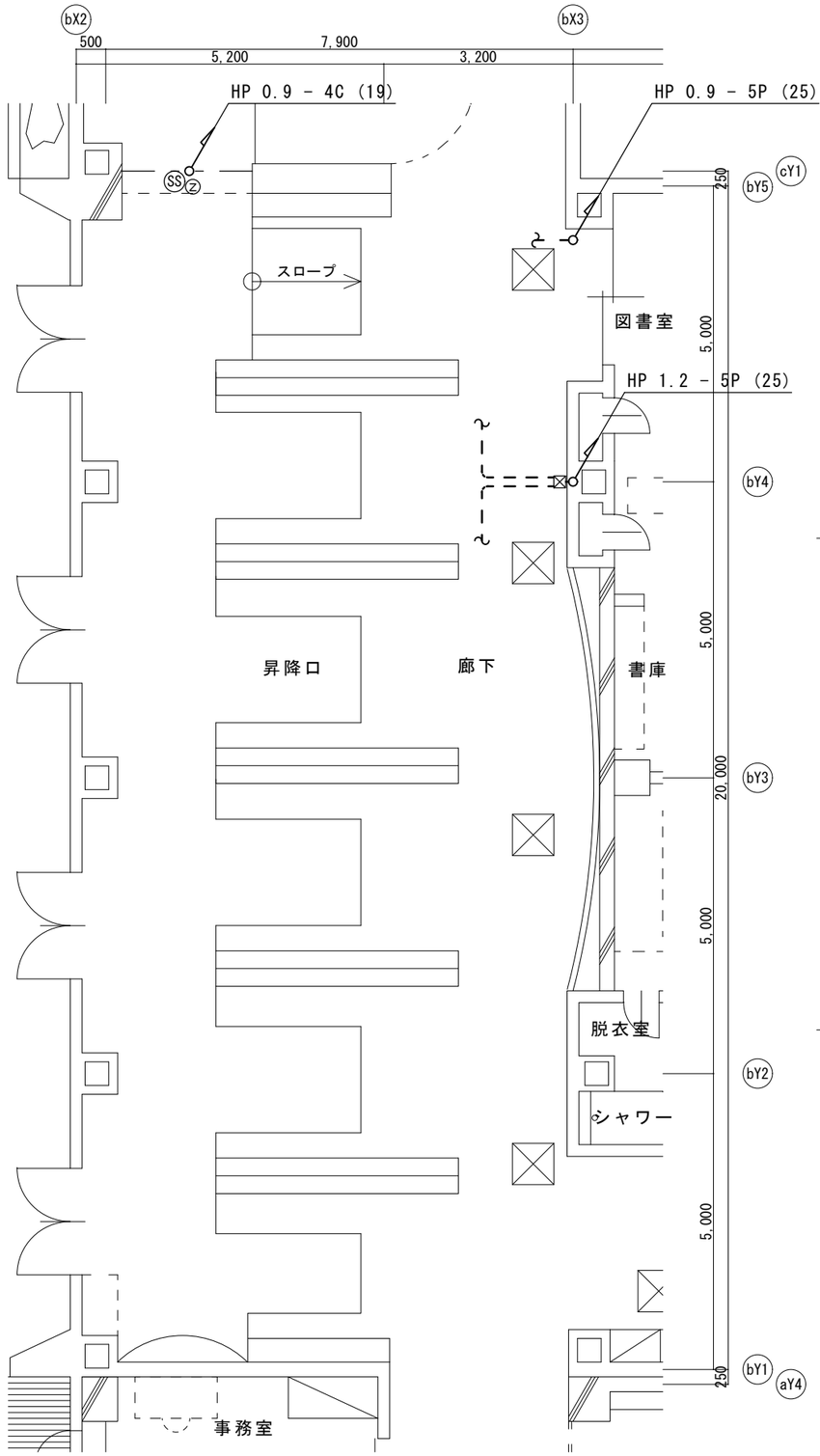
○既存天井部電動昇降機付照明器具〈V 1〉

ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄMF250W-1×８台を取外し、新規

天井材取付時に再取付を行う。

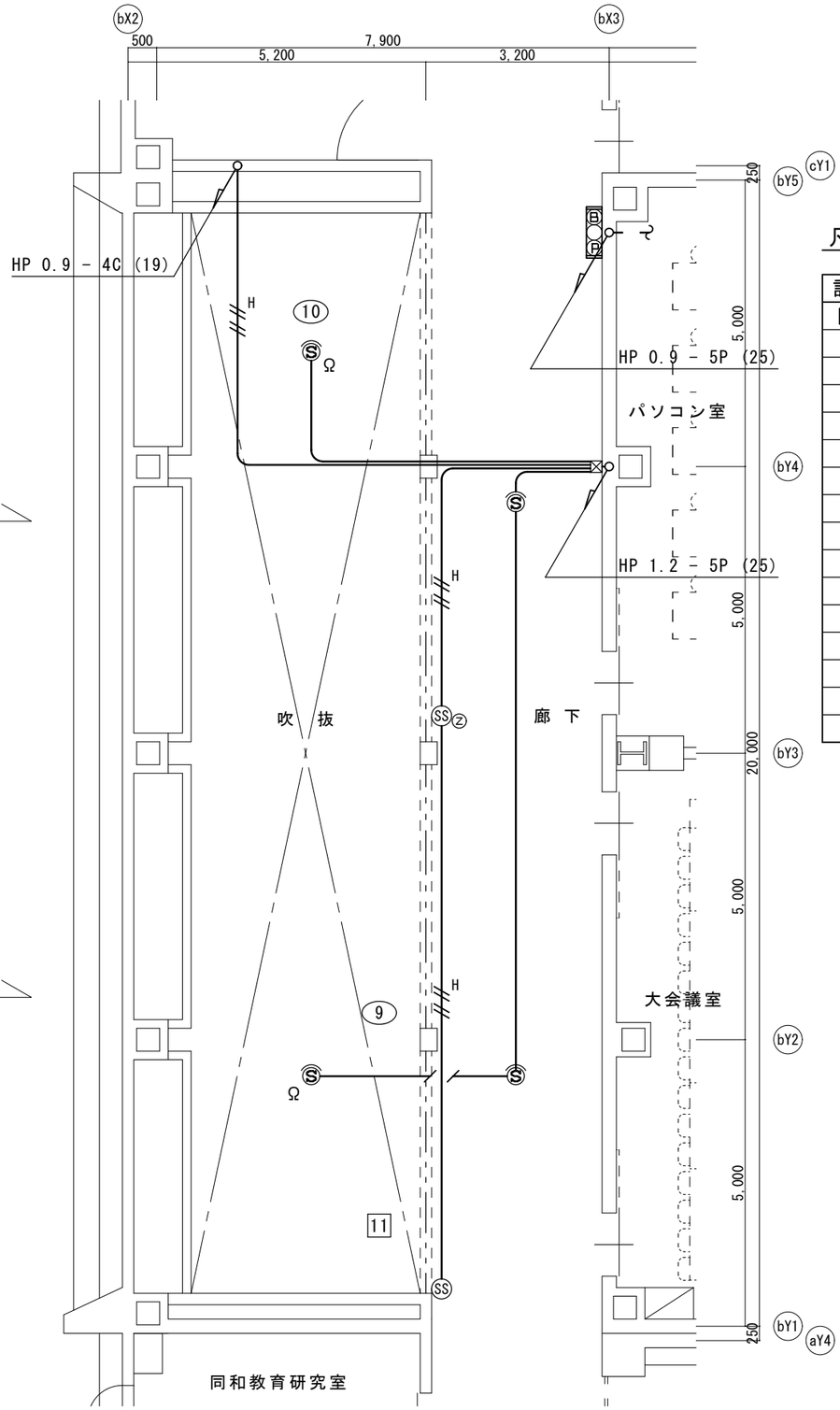
※天井切込補強費も本工事内とする。

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存改修 昇降口棟 電灯設備２階・３階平面図						図　番	E－04



2 階 平 面 図　S=1：100

屋　根



3 階 平 面 図　S=1：100

凡　例

記　号	名　称	記　事
総合盤	総　合　盤	Ｐ型１級 屋内消火栓組込型
Ⓟ	発　信　機	Ｐ型１級
○	表　示　灯	ＡＣ２４Ｖ ２１mA
Ⓑ	電　　鈴	ＤＣ２４Ｖ φ１５０
Ⓢ	光電式ｽﾎﾟｯﾄ型感知器	３種　埋込型
Ⓢ Ⓢ	自動閉鎖装置	シャッター（建築工事）
Ⓩ	ブ　ザ　ー	ＤＣ２４Ｖ
Ω	終　端　抵　抗	
No	回　路　番　号	防火扉、シャッター用
No	回　路　番　号	連動感知器用

特記なき配管、配線は下記による。

——————　AE 0.9 - 2C (19)

//// H　HP 0.9 - 4C (19)

＜特記事項＞

○既存天井部光電式スポット感知器(埋込)×２個を取外し、新規天井材取付時に再取付を行う。

※天井切込補強費も本工事内とする。

備考	訂　正	内　容	工事名称	北御牧中学校非構造部材耐震補強工事	縮尺	S＝1：100	俊建築設計室 Toshi Architectural Design Office 一級建築士事務所　長野県知事登録　上小C 第85161号 〒389-0405 長野県東御市下之城753　ＴＥＬ0268-67-2109	一級建築士大臣登録　第307529号 管理建築士 田中 俊章	査閲 主任 製図	日　付	H27.03.25
			図面名称	既存改修 昇降口棟 自動火災報知設備２階・３階平面図						図　番	Ｅ－０５